

# 埼玉県立近代美術館年報

平成 28 年度



ANNUAL REPORT 2016 ———THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

# 埼玉県立近代美術館年報

平成28年度



ANNUAL REPORT 2016—THE MUSEUM OF MODERNART, SAITAMA

## ■ 目次

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント 及び戦略目標 .....	3
施設 .....	4
美術館誌 .....	5
企画展	
ジャック＝アンリ・ラルティエグ .....	6
竹岡雄二 .....	13
ニュー・ヴィジョン・サイタマ5 .....	20
日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト .....	28
カッサンドル・ポスター展 .....	37
アーティスト・プロジェクト .....	44
MOMAS コレクション .....	46
MOMAS コレクション [ I ] .....	46
MOMAS コレクション [ II ] .....	49
MOMAS コレクション [ III ] .....	52
MOMAS コレクション [ IV ] .....	54
サンデートーク .....	56
ファミリー鑑賞会 .....	57
収集事業 .....	58
新収蔵作品一覧 .....	59
美術資料貸出等一覧 .....	72
特別利用 .....	72
教育・普及事業 .....	74
美術館講座	
近・現代建築探検ツアー .....	74
一般団体対応 .....	76
子どものためのプログラム .....	77
MOMAS の扉 .....	77
夏休みの特別プログラム .....	79
ミュージアム・コラボレーション .....	80
企画展ワークシートの作成 .....	81
学校との連携 .....	82
博物館実習 .....	85
美術館ボランティア .....	86
美術館サポーター .....	86
教育普及サポート・スタッフ .....	87
MOMAS 彫刻ボランティア .....	87
広聴・広報・刊行物 .....	89
図書資料の収集と公開 .....	93
椅子の美術館 .....	93
ハイビジョン・コーナー .....	93

## トピックス

- [1] 第3回座れる段ボールの椅子グランプリ ..... 94
- [2] あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト ..... 97

埼玉県立近代美術館フレンド .....	101
貸館事業 .....	102
入館状況 .....	104
名簿 .....	105
埼玉県立近代美術館協議会委員 .....	105
埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員 .....	105
埼玉県立近代美術館利用審査会委員 .....	105
埼玉県立近代美術館職員 .....	105

---

## ■埼玉県立近代美術館

### ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

#### 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。

- ①身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。
- ②出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。
- ③継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。
- ④すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。

#### 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。

- ①魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。
- ②美術に関する情報センターの役割を果たします。
- ③美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。

#### 3 未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。

- ①子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。
- ②学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。

#### 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

- ①県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。
- ②美術館の持つあらゆる資源（人・作品・施設等）を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。
- ③北浦和公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

---

## ■ 施設

敷地面積 35,177 m<sup>2</sup>

建築面積 2,238 m<sup>2</sup>

延床面積 8,577 m<sup>2</sup>

展示壁長 1,440 m

建築高さ 17.8 m

構造 地上 3 階、地下 1 階、鉄筋コンクリート造、  
一部鉄骨鉄筋コンクリート造

工期 昭和 55 年 3 月 28 日～昭和 57 年 2 月  
27 日

設計 株式会社黒川紀章建築都市設計事務所

開館 昭和 57 年 11 月 3 日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に 4 層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2 階の企画展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中の人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の 1985-86 年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

---

## ■美術館誌

### 平成 28(2016)年

- 4月5日 企画展「ジャック=アンリ・ラルティエグ  
幸せの瞬間をつかまえて」を開催（～5月22日）。
- 4月13日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティア  
が北浦和公園を整備（以降毎月第2日曜日）。
- 4月16日 「MOMASコレクション [ I ]」を開催（～7月  
10日）。
- 5月11日 「ファミリー鑑賞会」を1階展示室で開催。
- 5月13日 「第1回あなたと どこでも アート/おかわりプ  
ロジェクト実行委員会」を開催。平成28年度  
文化庁地域の核になる美術館・歴史博物館支援  
事業助成により事業を実施（～3月31日）。
- 5月31日 「第66回県展 埼玉県美術展覧会」を開催  
（～6月22日）。
- 6月5日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 6月17日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を  
開催。
- 7月9日 企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」を開催（～  
9月4日）。
- 7月15日 「第1回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 7月16日 「MOMASコレクション [ II ]」を開催（～10月  
16日）。
- 8月26日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 8月20日 「座れる段ボールの椅子グランプリ」表彰式を開  
催。
- 9月17日 企画展「ニュー・ヴィジョン・サイタマ5 迫り出す  
身体」を開催（～11月14日）。オープニング・  
レセプションに作家等が出席。
- 9月21日 「埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会」  
による審査
- 10月12日 「ファミリー鑑賞会」を1階展示室で開催。
- 10月19日 「ミュージアム・キャラバン」を上尾市立瓦葺小  
学校で開催。講師として收藏作家高田洋一氏を  
派遣。
- 10月22日 「MOMASコレクション [ III ]」を開催  
（～1月15日）。
- 10月30日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 11月23日 企画展「日本におけるキュビスムーピカソ・イン  
パクト」を開催（～1月29日）。
- 12月7日 「ミュージアム・キャラバン」を坂戸市立桜中学  
校で開催。講師として美術家井上尚子氏を派遣。

### 平成 29(2017)年

- 1月21日 「MOMASコレクション [ IV ]」を開催  
（～4月16日）。
- 2月6日 「埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会」  
による審査（～2月17日）。
- 2月7日 「第2回埼玉県立近代美術館利用審査会」を  
開催。
- 2月11日 企画展「カッサンドル・ポスター展 グラフィ  
ズムの革命」を開催（～3月26日）。レセプショ  
ンに出品者などが出席。
- 3月3日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月17日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」  
を開催。  
「第2回あなたと どこでも アート/おかわり  
プロジェクト実行委員会」を開催。

## ■企画展

### ■ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて

Jacques Henri Lartigue : Capturing Moments of Joy

■会期：2016年4月5日（火）～5月22日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

■協力：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社、JR東日本大宮支社、FM NACK 5

■企画協力：コンタクト

■観覧料：一般1000円（800円）、大高生800円（640円）

■入場者数：7,261人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4（2種類）／デザイン：遠藤一成

■担当学芸員：嶋原悠、大越久子



006-1-1: B2ポスター

006-1-2: A4ちらし

### ■開催趣旨

フランスの裕福な家庭に生まれたジャック＝アンリ・ラルティエグ（1894-1986）は7歳の時、父親からカメラを与えられた。幸せな瞬間がすぐに目の前から消え去ってしまうのを幼いころから恐れていたラルティエグは、そうした瞬間を残していけるカメラという新しい“魔法の機械”に夢中になり、生活のあらゆることを写真におさめるようになる。なかでも、スポーツやジャンプ、自動車、飛行機といった様々な動きをとらえることへのひとときわ高い関心や、心霊写真のような写真ならではの表現へのあくなき探求心は、ユニークで鋭い視点の作品を生み出した。また、家族や友人、恋人の幸せに満ちたすがたを愛情深くとらえた作品も多く残した。

この展覧会では、子ども時代から晩年までの代表的な作品と、その多くが日本初公開であるカラー作品など約160点を通して、写真を楽しみ、過ぎ行く時間や人生の喜びをつかまえようとしたラルティエグの世界を紹介した。

### ■カタログ

規格：23.0×23.0cm、192頁

内容：マルティヌ・ダスティエ（ジャック＝アンリ・ラルティエグ財団ディレクター）「ラルティエグ、新たな発見」／談・坂田栄一郎（写真家）「ラルティエグ、“幸せ”を体現したひと」／図版／コラムを14本収録／年譜／ラルティエグに関する主な文献／ラルティエグが使用したカメラと技法／作品リスト

編集：嶋原悠／大越久子（埼玉県立近代美術館）、佐藤正子（コンタクト）

デザイン：遠藤一成

発行：株式会社コンタクト東京

価格：2,400円（税込）

### ■関連事業

- ・スペシャル・トーク「幸せの瞬間をつかまえてー、ラルティエグと堀内誠一」／5月5日（木・祝）／ゲスト：堀内花子／2階講堂／参加者：100名
- ・ミュージアム・コンサート「うつりゆく日々、とどめ おく光」／4月29日（金・祝）／出演者：サキソフ オビア（緑川英徳、竹内直、岡淳、井上JuJu 博之）／地階センター・ホール／参加者：100名
- ・映画上映会「ポゾール王の冒険」／4月24日（日）／監督＝アレクシス・グラノフスキー、1933年、フランス、68分、モノクロ、DVDによる上映／フランス語での上映（字幕なし、あらすじを配布、上映前に解説あり）／2階講堂／参加者：50名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／4月16日（土）大越久子、5月7日（土）嶋原悠／2階展示室／参加者：計43名

### ■広報記録

<新聞>

- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2016年4月5日
- ・山崎聡「美の履歴書 「心霊写真」を撮ったわけ」『朝日新聞』夕刊 2016年4月26日

- ・増田愛子「みずみずしい心 一瞬を切り取る 県立近代美術館 仏写真家ラルティエグ展」『朝日新聞』埼玉版 2016年5月13日
- ・新井護「幸せの瞬間 カメラに 近代美術館 22日まで 仏写真家展」『埼玉新聞』2016年5月18日
- ・森田睦「1枚1枚に日常楽しむ光景 ラルティエグの写真展」『読売新聞』2016年5月19日
- ・告知：『毎日新聞』2016年3月29日／『東京新聞』2016年3月31日／『毎日新聞』2016年4月5日『埼玉新聞』2016年4月6日／『日経新聞』2016年4月8日夕刊／『毎日新聞』2016年4月12日／『読売新聞』2016年4月12日夕刊／『産経新聞』2016年4月14日／『産経新聞』埼玉版 2016年4月15日／『埼玉新聞』2016年4月18日／『朝日新聞』埼玉版 2016年4月19日／『毎日新聞』2016年4月19日夕刊／『朝日新聞』2016年4月26日夕刊／『読売新聞』2016年4月26日夕刊／『毎日新聞』2016年4月26日／『埼玉新聞』2016年5月2日／『毎日新聞』2016年5月3日／『東京新聞』2016年5月5日／『毎日新聞』2016年5月10日／『産経新聞』2016年5月12日／『東京新聞』2016年5月12日／『毎日新聞』5月20日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『美術の窓』2016年2月号
- ・「新鮮でユニークな視点の写真作品 ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『月刊ギャラリー』2016年4月号
- ・「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて被写体は、幸福な時間」『いけ花龍生』2016年4月号  
「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『Domani』2016年5月号
- ・「企画展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」」『定年時代』2016年4月号
- ・「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『an・an』2016年4月5日
- ・嶋原悠「写真は魔法だ！ 企画展「ジャック＝アンリ」
- ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『ソカロ』2016年4-5月号
- ・市井康延「日本初公開のカラー作品にも注目！

ラルティエグが記録した“日々の幸せ”『日本カメラ』2016年5月号

- ・柴田こずえ「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」『MOE』2016年6月号
- ・告知：『たまログ』2016年4月1日／『Acore おおみや』2016年4月8日／『月刊 美じょん』2016年4月20日／『武州路』2016年5月号

<テレビ、ラジオ>

- ・テレビ埼玉「テレ玉ニュース」2016年4月12日
- ・NHK さいたま「日刊！さいたま〜ず」2016年5月11日

<ウェブ>

- ・JDN「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」2016年3月2日
- ・IMA ONLINE「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」2016年3月6日
- ・FASHION PRESS「展覧会「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」埼玉県立近代美術館で開催」2016年3月23日
- ・ART AgendA「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」2016年3月26日
- ・ARTiT「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」2016年4月1日
- ・Acore おおみや「写真はマジックだ！ HAPPYな気持ちになれる写真展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」」2016年4月20日
- ・goo いまトピ（青い日記帳 Tak）「連休中にゆっくり観られる展覧会8選」2016年4月26日
- ・ブログ「はるど」「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」2016年4月26日
- ・都築響一 ROADSIDERS' weekly『ブルジョワジーの豊かな愉しみー写真展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」』2016年4月27日

■担当後記

◆ラルティエグのまとまった規模の個展としては1995年以来となった本展覧会では、第1章「プロローグ」、第2章「小さな探求心」第3章「人生のアルバム」、第4章「色彩の歓び」の四章構成で展示を行い、少年期の作品、ラルティエグが人生の折々で撮影した写真、カラー作品等を交えて、ラルティエグの全体像をたどった。特に、第4章で



展示した1950年代以降にリバーサル・フィルムで撮影したカラー写真はほとんどが日本で初めて公開される作品で、これまであまり知られていなかったラルティエグの側面が紹介された。

- ◆ジャック＝アンリ・ラルティエグ財団からは写真作品に加えて、ラルティエグが生涯編纂していたというアルバムの複写やスライド画像と、青年期にラルティエグが制作した家族総出演の無声映画（「妖精と盗賊」）をお借りすることができた。自身の私的な幸福をとどめる手段として写真や映像が持つ可能性に目を向けたラルティエグの世界を紹介するという展覧会のコンセプトを補完してくれる資料となった。
- ◆あわせて、本展では1970年代以降にラルティエグが日本で紹介された時の資料を紹介した。それに関連して、『カメラ毎日ジュニア』でラルティエグをいち早く紹介したアートディレクターで絵本作家の堀内誠一の長女・堀内花子氏のスペシャル・トークを開催した。また、ニューヨーク滞在中、ラルティエグの写真集の制作を手伝った写真家・坂田栄一郎氏からは、ラルティエグから送られた手紙や坂田氏がプリントしたラルティエグの写真をお借りしたほか、インタビューを図録に掲載した。
- ◆関連イベントとして、ラルティエグがスチール写真を撮影したフランス映画「ポゾール王の冒険」（1933年）の上映会を開催した。フランスのとあるビデオ会社でしか素材を扱っておらず、日本語訳が付かずあらすじの配布と解説での対応となったが、日本では公開当時以外はおそらく上映機会のなかった映画であり、ラルティエグの活動の一端や同時代のフランス文化を紹介する機会となった。



## ■出品リスト

- ・作品番号1～163、アルバム(A-1～23)、日記(D-1～6)、映画(C-1)はジャック＝アンリ・ラルティエグ財団の所蔵作品である。
- ・複写・複製物を展示する資料(A、D、C)には、作品番号に\*を付した。
- ・作品データは原則として以下の通り：作品番号、作品名、撮影年月日、技法等、所蔵
- ・写真作品は、オリジナル・ドキュメント(ネガ、リバーサルまたはプリント)から財団指定のラボで現像されたもので、モノクロ写真はモダン・ゼラチンシルバー・プリント、カラー写真は、本展のために新たに作成されたインクジェット・プリントである。

## 第1章 プロローグ

- 1 パパとママ、「こんなポーズにしよう」とバベがママに言った ポン・ド・ラルシュ 1902年 ガラス乾板/13×18cm判
- 2 おばあちゃん、ママ、ジスーと愛用のカメラを手に持ったぼく(ババ撮影) プーローニュの森、バリ 1903年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 3 ジスーとジャック＝アンリ・ラルティエグ、エッフェル塔にて(ババ撮影) バリ 1903年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 4 ぼく(ババ撮影) ポン・ド・ラルシュ 1903年 ガラス乾板/9×12cm判
- 5 イエイエおばさん、小さいデデ、オーギュストおじさん、ババ、ジスー、ママとマルセル、初めて一人で撮った写真(13×18の木製カメラ)、現像はバベに手伝わしてもらった 1902年 ガラス乾板/13×18cm判

## 第2章 小さな探求心

- 6 ぼくの空中プロペラ式水中翼船、板の上に取り付けたゴーモン社のブロック・ノートを使ってお風呂で撮った、シャッターはママが切った コルタンペール通り40番地、バリ 1904年 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 7 ぼくの部屋のレーシングカー・コレクション バリ 1905年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 8 ポー 1912年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 9 ぼくの猫ジジ コルタンペール通り40番地、バリ 1904年 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 10 ぼくの乳母デュデュ バリ 1904年6月 ネガフィルム/6×9cm判
- 11 ポン・ド・ラルシュ 1903年 ガラス乾板/13×18cm判
- 12 幽霊になったジスー、ヴィラ・マロニエにて シャテル＝ギュイオン 1905年7月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 13 コルタンペール通り40番地 1905年 ガラス乾板/9×12cm判
- 14 凧 ビアリツ 1905年 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 15 凧、ルイとユベール・ラローズ氏 ルザ 1911年8月 ガラス乾板/9×12cm判
- 16 メルリモン、ノール・パ・ド・カレー 1904年4月3日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 17 メルリモン 1904年4月3日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 18 「ぼくだってガブリエル・ヴォワザンみたいに飛べるんだ」とジスーが言った メルリモン 1904年4月3日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 19 ママがシャツ用に買った布をもらってジスー22号機を製作する ルザ 1909年4月 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 20 ジスー23号機 ルザ 1910年8月 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 21 ジスー22号機の初飛行 ルザ 1909年4月 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 22 ジスー24号機の離陸…ピルー、ジスー、ジョルジュ、ルイ、デデ、そしてロベールも飛行を試みる ルザ 1910年9月 ガラス乾板/9×12cm判
- 23 アメリカ号のプロペラの風(に)飛ばされそうなジスー ビュク 1911年11月9日 ガラス乾板/9×12cm判
- 24 PIC3号機で着陸するロベールとジェイムズと小作人 ルザ 1910年9月 ガラス乾板/9×12cm判
- 25 勢揃いした「航空チーム10番」：凧、ぼくの単葉機・PIC3号機、ジスー23号機、そしてジスーの新しいグライダー・ジスー24号機 ルザ 1910年9月 ガラス乾板/9×12cm判
- 26 アントワネット号 1910年 ガラス乾板/9×12cm判
- 27 ルーヴィエ街道の下り坂競争、バンク知らずの自転車デュカスブル号に乗るジスー(最速記録保持者) ポン・ド・ラルシュ 1905年 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 28 ルザ 1907年8月 ガラス乾板/9×12cm判
- 29 ルザ 1907年8月 ガラス乾板/9×12cm判
- 30 ボブのレース、ルイとジャン ルザ 1911年9月 ガラス乾板/9×12cm判
- 31 ボブに乗るジスーとマドレーヌ・ティゴ、それを見守るフォルテット夫人とタターヌとママ、ボブのレース ルザ 1911年9月20日 ガラス乾板/9×12cm判
- 32 シモーヌ ルザ 1913年9月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 33 レーシングカー「ドラージュ」、A.C.F.グランプリ ル・トレボー 1912年6月26日 ガラス乾板/9×12cm判
- 34 時速80キロでドライブ中のババ 1913年3月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 35 アカシア大通りを行くレーシングカー「サンジェール」 バリ 1912年6月5日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 36 ガイオン街道 1912年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 37 レーシングカー「リオン・ブジョー」に乗るルイとジスー、ガイオンからバリへの帰り道 1912年10月6日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 38 ルザ 1911年9月23日 ガラス乾板/9×12cm判
- 39 兎と雌鶏を乗せるジスー製作のルーピング ルザ 1911年 ガラス乾板/9×12cm判
- 40 いとこのビショナード コルタンペール通り40番地、バリ 1905年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 41 シャテル＝ギュイオン 1905年 アルバムに貼られた写真から複写
- 42 ルザ 1908年8月 ガラス乾板/9×12cm判
- 43 ジスー ルザ 1908年7月 ガラス乾板/4.5×6cm判
- 44 われらが椅子跳びチャンピオンのオレオ・ヴァン・ヴェルス(ビショナードの弟) ルザ 1908年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 45 デデ ルザ 1911年 ガラス乾板/9×12cm判
- 46 フォルテット氏(呼び名はプリット)と彼の犬チュビー バリ 1912年3月24日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 47 ジスー ルザ 1911年 ガラス乾板/9×12cm判
- 48 シャल्लीとリコとシム ルザ 1913年9月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 49 ルザのプールでジャンまたはルイがぼくのカメラで撮った写真 ルザ 1911年9月 ガラス乾板/9×12cm判
- 50 ジャン ルザ 1911年 ガラス乾板/9×12cm判
- 51 いとこのシモーヌ・ルーセル フォレ・ド・マルリー 1913年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 52 ゴロとシモーヌ フォレ・ド・マルリー 1913年5月1日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 53 ゴロとシモーヌ フォレ・ド・マルリー 1913年5月1日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判
- 54 フォルテット夫人とデデとシモーヌ フォレ・ド・マルリー 1913年5月1日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判

- 55 ジスーが雪に残した人型 サンモリッツ 1913年1月24日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
56 「クレスタ・ラン」でのスケルトン競技、ぼくとジスーの影 サンモリッツ 1913年2月5日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
57 パパとママ ポー 1912年冬 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
58 ぼくの二輪のボブに乗るシモース・ルーセル ルザ 1913年9月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
59 シャルル・サミュエル夫人 ルザ 1914年7月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
60 フォルテット夫人、リコ、ぼく、シム、マニクとママ ルザ 1913年9月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
61 フランス・フィギュアスケート選手権優勝者のフランシス・ビグロン、ぼく、医師のアンドレ、ジェルメーヌ・ビグロン、ベルグ、イヴォンヌ・ブルジョワと友人 シャモニー 1914年 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判

### 第3章 人生のアルバム

- 62 マルディ＝グラの仮装をしたブブット、ルイ、ロベールとジスー パリ 1903年 ガラス乾板/9×12cm判  
63 ボン・ド・ラルシュ 1904年 ネガフィルム/6×9cm判  
64 ぼくと猫のジジ、ぼくのゴモン社のブロック・ノートを使って乳母のデュデュがシャッターを切った コルタンペール通り40番地、パリ 1904年 ガラス乾板/4.5×6cm判  
65 ギッティ（フォルテット氏のいとこ、マルグリート・ブカール） ビアリッツ 1905年 ガラス乾板/9×12cm判  
66 いとこのカカロとプラントヴィーニウシ ヴィレルヴィル 1906年 ネガフィルム/6×9cm判  
67 いとこのボールとカカロシム フォレ・ド・マルリー 1912年4月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
68 パリ 1912年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
69 「アンナ・ラ・ブラドヴィナ」と呼ばれたアルレット・プレヴォ、連れている犬はシシとゴゴ プーローニュの森大通り、パリ 1911年1月15日 ガラス乾板/9×12cm判  
70 アカシア大通り、パリ 1911年5月 ガラス乾板/9×12cm判  
71 ドラッグ競馬の日、オートウイユ競馬場にて パリ 1911年6月23日 ガラス乾板/9×12cm判  
72 ドラッグ競馬の日、オートウイユ競馬場にて パリ 1911年6月23日 ガラス乾板/9×12cm判  
73 戦争…? パリ 1914年8月1日 ガラス乾板/9×12cm判  
74 練習中のシュザンヌ・ランラン ニース 1915年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
75 サウ・クルーのスタジアムでのテニス世界選手権、ゴペールがロイツァイム（元世界チャンピオン）を6-3、6-3、6-3で破る パリ 1913年6月13日 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
76 シュザンヌ・ランラン ニース 1921年5月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
77 フランシス・ビグロンとオステルターグとアルベール・エイド シャモニー 1918年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
78 ジャン・ダリがぼくのカメラで撮影したぼくの写真 ヴィラクプレー 1916年11月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
79 ウェディングドレスを着たビビ パリ 1919年12月17日 アルバムの写真から複写  
80 ビビとぼく（鏡の中）、新婚旅行、ホテル・デザルにて シャモニー 1920年1月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
81 ビビ シャモニー 1920年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
82 ビビとロロとジュールシェ、体操の時間 パリ 1921年11月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
83 ビビと11ヶ月のダニ ルザ 1922年7月 ネガフィルム/24×36mm判  
84 ダニ エクス・レ・パン 1925年8月 ガラス乾板/9×12cm判  
85 クリスマスのラルティエーグ一家、ジスー、オデット、ママ、ダニ、パパ、ビビとぼく パリ 1925年12月25日 ガラス乾板/6×13cm判  
86 セルフポートレート ルザ 1923年7月 ガラス乾板/6×13cm判  
87 ダニとぼく、ぼくのアトリエにて パリ 1928年3月 ガラス乾板/6×13cm判  
88 トビー 1923年 ガラス乾板/9×12cm判  
89 眠るダニ カンス 1929年3月 ガラス乾板/6×13cm判  
90 サラ アンティープ岬 1918年5月 ネガフィルム/6×9cm判  
91 イヴォンヌとココとビビ ロワイヤン 1924年7月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
92 ナナとビビとダニ アンダイエ 1927年7月 ネガフィルム/9×15cm判  
93 ビビとミシェル・ヴェルリー エクス・レ・パンの湖 1928年5月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
94 ヴェラとアルレット カンス 1927年5月 ガラス乾板/6×13cm判  
95 スージー・ヴェルノン ロワイヤン 1926年9月 ガラス乾板/6×13cm判  
96 ニースの嵐 1925年2月11日 ネガフィルム/4.5×6cm判  
97 ソランジュ・ダヴィッド パリ 1929年12月 ガラス乾板/9×12cm判  
98 自動車「イスパノ・スイザ」でウルガートへ向かう途中、ビビ、ママと運転手のジャン 1927年4月 ガラス乾板/6×13cm判  
99 フィリップ・ド・ロチルド男爵、アンティープのグランプリ・レース 1929年5月 ガラス乾板/6×13cm判  
100 ラルティエーグの家族と自動車「イスパノ・スイザ」 ルルー通り、パリ 1922年 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
101 映画「ブクレット」撮影中のギャビー・デスリーズ、カジノ・ド・パリにて パリ 1918年2月 ステレオ写真、ガラス乾板/6×13cm判  
102 パロンセリ監督の映画「火」の撮影 エビネー 1926年12月 ガラス乾板/6×13cm判  
103 アリーヌ姫、映画「ボゾール王の冒険」の撮影中 アンティープ岬 1932年 ネガフィルム/9×12cm判  
104 ミミ・ド・フェネス カンス 1933年 ネガフィルム/6×9cm判  
105 アンパサドゥールの間：ぼくが初めて参加した晩餐会「花と蝶」、カジノ・ド・カンスにて 1935年1月 ネガフィルム/9×12cm判  
106 ルネ・ベルル ビアリッツ 1930年8月 ガラス乾板/9×12cm判  
107 ルネ バスク地方 1930年 ガラス乾板/9×12cm判  
108 ルネ ジュアン・レ・パン 1931年2月 ガラス乾板/6×9cm判  
109 「パーム・ビーチ」のルネ カンス 1931年8月 ネガフィルム/9×15cm判  
110 ダニとぼくとルネ エクス・レ・パン 1930年6月 ガラス乾板/6×13cm判  
111 ココ、ワイスワイレル氏の別荘「アルタナ」にて アンティープ 1936年3月 ネガフィルム/9×12cm判  
112 ダニとミッシェンとボビー、フリボール・クラブにて カンス 1936年5月 ネガフィルム/6×6cm判  
113 ダニとその息子 パリ 1944年 ネガフィルム/6×6cm判  
114 パリ解放の日のダニとヴァンサンのもう1枚、ムーラン・ルージュにて パリ 1944年 ネガフィルム/6×6cm判  
115 フロレット・オルメア 1943年 ネガフィルム/6×6cm判  
116 フロレット パリ 1944年1月 ネガフィルム/6×6cm判  
117 ビカソ邸 カンス 1955年8月 ネガフィルム/6×6cm判  
118 自邸のビカソ カンス 1955年8月 ネガフィルム/6×6cm判

- 119 リチャード・アヴェドン ニューヨーク 1966年 ネガフィルム/6×6cm判  
 120 リチャード・アヴェドン バリ 1968年4月 ネガフィルム/24×36mm判  
 121 フォッシュュ大通り 1965年 ネガフィルム/6×6cm判  
 122 まだぼくの影がある間に サンモリッツ 1980年2月 ネガフィルム/24×36mm判

#### 第4章 色彩の遊び

- 123 ビビ、「エデン・ロック」のレストランにて アンティープ岬 1920年5月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 124 ビビ バリ 1921年1月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 125 ビビ バリ 1921年1月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 126 アレット・プカール カヌヌ 1927年 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 127 ビビ ルザ 1920年4月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 128 ビビ アンティープ岬 1920年5月 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 129 ビビとジェルメヌ・シャロム カヌヌ 1927年 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 130 サントノラ島のビビ カヌヌ 1927年 ステレオ写真、オートクローム、ガラス乾板・ボジ/6×13cm判  
 131 フロレット ヴァンス 1954年5月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 132 フロレットの手 ブリー・ル・ネフィエ 1961年6月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 133 フロレット 1956年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 134 「モーガン」に乗るフロレット プロヴァンス 1954年5月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 135 ジャクリヌ・ロックとピカソ、ジャン・コクトー、フランシヌとカロール・ワイズワイレル、前列に座っているのはフロレット、闘牛場 ヴァロリス 1955年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 136 ピカソ邸「ラ・カリフォルニー」のフロレット カヌヌ 1955年8月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 137 フロレット オビオ 1960年4月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 138 オビオ 1968年 リバーサルフィルム/24×36mm判  
 139 フロレット ビオッツォ 1956年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 140 フロレット ビオッツォ 1960年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 141 シルヴァナ・エンバン ジュアン・レ・バン 1961年8月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 142 オビオ 1963年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 143 メジェーヴ 1961年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 144 メジェーヴ 1964年2月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 145 フロレット メジェーヴ 1965年3月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 146 フロレット メジェーヴ 1965年3月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 147 ぼくとフロレット、オールド・トゥーソン・スタジオにて アリゾナ 1962年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 148 エドワード・スタイクン ウェスト・レディング 1966年11月5日 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 149 ボーソレイユ 1958年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 150 エトルタ 1960年6月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 151 ディエップ 1962年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 152 ブルターニュ 1970年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 153 ロワジー バリ 1964年10月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 154 中央運河 1969年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 155 ブルターニュ 1965年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 156 アスコリ・ピチェーノ 1958年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 157 サン・セバスティアン、スペイン 1958年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 158 諸聖人の日 ビオッツォ 1956年11月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 159 マンドリオネ通り、ローマ 1958年 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 160 バルマ 1965年4月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 161 アップリア街道、ローマ 1960年1月 リバーサルフィルム/6×6cm判  
 162 ビオッツォ 1977年6月 リバーサルフィルム/24×36mm判  
 163 イル・ド・レ 1981年6月 リバーサルフィルム/24×36mm判

#### アルバム

- A-1 \* ボン・ド・ラルシュ 1902年 アルバム(複製)  
 A-2 \* ボン・ド・ラルシュ 1903年 アルバム(複製)  
 A-3 \* バリ 1904年6月 アルバム(複製)  
 A-4 \* デュデュとジジ バリ 1904年6月 アルバム(複製)  
 A-5 \* ビアリッツ 1905年 アルバム(複製)  
 A-6 \* ギッティ ビアリッツ 1905年 アルバム(複製)  
 A-7 \* ルザ 1908年8月 アルバム(複製)  
 A-8 \* ルザ 1908年8月 アルバム(複製)  
 A-9 \* ゴロとシモーヌ 1913年5月1日 アルバム(複製)  
 A-10 \* いこのシモーヌとゴロ、フオレ・ド・マルリー 1913年5月1日 アルバム(複製)  
 A-11 \* 戦争…? バリ 1914年8月1日 アルバム(複製)  
 A-12 \* 戦争、戦争が長引いた場合のために(???)、特に次のテニス選手権のために毎日のトレーニングで体を鍛えていきたい ルザ 1914年8月 アルバム(複製)  
 A-13 \* サンドウ方式に従ったり従わなかったりする体操の動き、ぼくの記録表 1914年 アルバム(複製)  
 A-14 \* 練習中のシュザヌ・ランラン ニース 1915年11月 アルバム(複製)  
 A-15 \* ウルガート 1919年9月 アルバム(複製)  
 A-16 \* シュザヌ・ランラン、バリ帰還 1921年5月13日 アルバム(複製)  
 A-17 \* ビビとロロ、体操の時間 1921年 アルバム(複製)  
 A-18 \* ルネ、ぼく バリ 1930年11月 アルバム(複製)

- 
- A-19 \* フロレット ル・トラヤ 1942年6月 アルバム(複製)  
A-20 \* フロレット バリ 1944年1月 アルバム(複製)  
A-21 \* ピカソ バリ 1955年 アルバム(複製)  
A-22 \* ピカソの手 1955年 アルバム(複製)  
A-23 \* スピード写真「フォトマトン」、アヴェドン、ピア、フロレットとぼく 1968年 アルバム(複製)

## 日記

---

- D-1 \* 1911年7月13日・14日の日記 1911年 日記(複製)  
D-2 \* 1911年9月13日・14日の日記 1911年 日記(複製)  
D-3 \* 1912年8月12日・13日の日記 1912年 日記(複製)  
D-4 \* 1912年9月14日・15日の日記 1912年 日記(複製)  
D-5 \* 1914年5月20日・21日の日記 1914年 日記(複製)  
D-6 \* 1914年6月2日・3日の日記 1914年 日記(複製)

## 映画

---

- C-1 \* 盗賊と妖精 1914年 原版は35mmフィルム、DVDで上映(14分26秒)

## 関連資料

---

- R-1 ジャック＝アンリ・ラルティエグ《ジャン ルザ》 1911年 ガラス乾板/9×12cm判、ゼラチンシルバープリント(坂田栄一郎によるプリント) 坂田栄一郎氏蔵  
R-2 ラルティエグから坂田栄一郎氏への手紙 1968年7月20日付 紙、ペン 坂田栄一郎氏蔵  
R-3 『ジャック＝アンリ・ラルティエグの写真:ベル・エポックのファミリー・アルバム』 1966年 個人蔵  
R-4 『一世紀の日記』 1970年 坂田栄一郎氏蔵  
R-5 『LIFE』 1963年11月29日 個人蔵  
R-6 別冊『カメラ毎日ジュニア』 1970年12月5日 堀内事務所蔵  
R-7 『毎日中学生新聞』 1970年12月2日 堀内事務所蔵  
R-8 『毎日中学生新聞』 1970年12月11日 堀内事務所蔵  
R-9 『毎日中学生新聞』 1970年12月18日 堀内事務所蔵  
R-10 『毎日中学生新聞』 1970年12月25日 堀内事務所蔵  
R-11 クラップカメラ ブロック・ノート 1904年頃～1920年代前半の製造(展示品の製造年は不明) ゴーモン社(フランス)、4.5×6cm判(アトム判)、乾板使用 個人蔵  
R-12 乾板用ステレオカメラ アンゴーステレオ 1896年 ゲルツ社(ドイツ)、6×13cm判、ダゴールレンズ90mm F6.8 フジフィルム スクエア 写真歴史博物館蔵  
R-13 クリップ式ステレオビューワー 1890年代 木製ホームズベーツ型 ステレオスコープ フジフィルム スクエア 写真歴史博物館蔵

## 関連映像

---

- ジャック＝アンリ・ラルティエグのアルバムより 1902-1977年 スライド105枚、DVDで上映(18分03秒)

## ■竹岡雄二 台座から空間へ

### Yuji Takeoka – From a Pedestal into Space

■会期：2016年7月9日（土）～9月4日（日）

■主催：竹岡雄二展実行委員会、埼玉県立近代美術館、公益財団法人遠山記念館

■助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人花王芸術・科学財団、芸術文化振興基金

■協力：ワコウ・ワークス・オブ・アート、JR 東日本大宮支社、FM NACK5

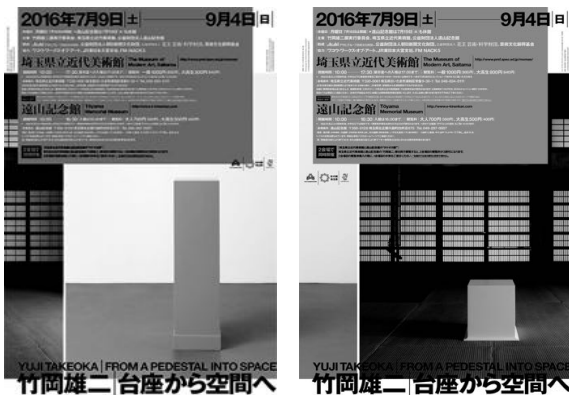
■観覧料：一般 1000円（800円）、大高生 800円（640円）（ ）は団体 20名以上の料金

■入場者数：6678人

■広報印刷物：ポスター B2変形・両面刷（72.8×48.0cm）、ちらし・変形サイズ（縦のZ折＝仕上がり寸法：29.7×19.4cm、展開寸法：54.4×19.4cm）

デザイン：刈谷悠三・角田奈央 [neucitora]

■担当学芸員：平野到、梅津元



ポスター（両面刷）

#### ■開催趣旨

作品を「つくること」ではなく、「見せること」に視点を置くならば、果たして芸術はどのように浮かび上がってくるであろうか。この問いをめぐって制作を続けてきたのが、国際的な舞台上で活躍するドイツ在住の美術家、竹岡雄二（1946年ー）である。

彫刻を学んだ竹岡は、作品を「見せる」際に必要となる台座の存在に注目し、台座そのものをモチーフとする制作に着手する。厳選された素材、形、色彩によって制作された台座は、私たちの視線を誘いこむ彫刻的な姿を

まとった作品としてあらわれる。その後、ガラスケース、ショーケース、棚など、陳列するための仕組みをモチーフとした作品に加え、陳列のための空間に眼を向けた制作を手掛けている。こうして「見せること」を探るために台座から始まった問いかけは、展示される空間・場所・環境へと拡がっている。

埼玉県立近代美術館と遠山記念館は、竹岡雄二の芸術を大規模に紹介する展覧会を同時開催した。埼玉県立近代美術館では、約30年間のドイツでの活動を20点あまりの代表作で振り返った。遠山記念館では、文化財として知られる遠山邸（1936年竣工）の和風建築を舞台に、6点の作品を展示した。さらに「見せる」という観点から、竹岡が独自のコンセプトで遠山記念館所蔵の伝統的な美術品を選び、埼玉県立近代美術館において展示を行った。これまでの活動を回顧するだけでなく、作者が新たな試みに挑む展覧会であった。

#### ■カタログ

規格：32.0×24.0cm、96頁

編集・発行：国立国際美術館、埼玉県立近代美術館、公益財団法人遠山記念館

翻訳：Christopher Stephens, Pamela Miki Associates, 河西香奈

アートディレクション、デザイン：長谷川充信

内容：図版／【テキスト】中西博之「竹岡雄二の芸術」、平野到「《クリーン・ルーム》をめぐって」、梅津元「「見せること」を「見ること」／略歴／主要文献／パブリックコレクション／作品リスト

価格：1,944円

#### ■関連事業

- ・アーティスト・トーク「竹岡雄二氏に聞く」／7月9日（土）／講師：竹岡雄二、聞き手：建畠哲（当館館長）／参加者：計85名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／7月30日（土）／平野到、梅津元／参加者：計22名
- ・キュレーターズ・トーク、ノーカット版／8月21日（日）／平野到、梅津元／参加者：計65名
- ・遠山記念館・関連イベント：アーティスト・トーク「台座から空間へ」／7月10日（日）／場所：遠山記念館・邸宅／講師：竹岡雄二、聞き手：遠山公一

#### ■広報記録

<新聞>

- ・木村未来「展示のための装置の世界 「竹岡雄二」展」『読売新聞朝刊』2016年3月3日
- ・告知「竹岡雄二展」『埼玉新聞朝刊』2016年7月4日
- ・告知「竹岡雄二展」『朝日新聞夕刊』2016年7月5日
- ・永田晶子「見る「純粹空間」創出 竹岡雄二 台座から空間へ」『毎日新聞夕刊』2016年7月13日
- ・村田真「逆転の発想 台座を彫刻に 埼玉で竹岡雄二個展」『北海道新聞』2016年7月25日
- ・告知「竹岡雄二展」『産経新聞朝刊』2016年7月28日
- ・告知「竹岡雄二展」『埼玉新聞』2016年8月1日
- ・告知「竹岡雄二展」『毎日新聞朝刊』2016年8月2日
- ・告知「竹岡雄二展」『朝日新聞夕刊』2016年8月2日
- ・郷原信之「彫刻置く台座や額縁、ショーケース…展示の脇役がアート」『日経新聞夕刊』2016年8月15日
- ・増田愛子「作品と展示空間 「見る」意味問う さいたまと川島で現代美術展」『朝日新聞朝刊』2016年8月21日
- ・諏訪敦「質の高い鑑賞体験 竹岡雄二展」『埼玉新聞朝刊』2016年8月22日
- ・告知「竹岡雄二展」『毎日新聞朝刊』2016年8月23日
- ・告知「竹岡雄二展」『朝日新聞夕刊』2016年8月23日
- ・諏訪敦「質の高い鑑賞体験 竹岡雄二展」『信濃毎日新聞』2016年8月26日
- ・告知「竹岡雄二展」『毎日新聞朝刊』2016年8月30日
- ・告知「竹岡雄二展」『朝日新聞夕刊』2016年8月30日
- ・告知「竹岡雄二展」『産経新聞朝刊』2016年9月1日

#### <雑誌、ミニコミ誌等>

- ・BT RECOMMENDS!「竹岡雄二 台座から空間へ」『美術手帖7月号』2016年6月17日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『武州路7月号』2016年6月20日
- ・「7・9～浦和&川島で見せる芸術展」『たまログ7月号』2016年7月1日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『武州路8月号』2016年7月20日
- ・三田晴夫「スリリングな場の生成劇 竹岡雄二「台座から空間へ」展」『月刊ギャラリー8月号』2016年8月1日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『SeoulArtGuide』2016年8月19日

#### <テレビ、ラジオ>

- ・J:COM「竹岡雄二 台座から空間へ」『デイリーニュース』

2016年7月13日

- ・NHKラジオ「竹岡雄二 台座から空間へ」『日刊さいたまーず』2016年7月20日
- ・テレビ企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」『ニュース』2016年8月12日

#### <ウェブ>

- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『アートアジェンダ』2016年5月25日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『JDN』2016年6月10日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『タイムアウト東京』2016年6月13日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ」『Acore おおみや』2016年6月13日
- ・「見せる」とは何か。台座から始まった竹岡雄二の芸術に触れる。『Art inn』2016年6月14日
- ・「竹岡雄二 台座から空間へ@埼玉県立近代美術館」『ART iT』2016年6月24日
- ・「竹岡雄二の世界を2館同時開催で大規模紹介「竹岡雄二 台座から空間へ」」『Art Annual online』2016年6月27日
- ・「竹岡雄二『台座から空間へ』埼玉会場」『CINRA.NET』2016年7月7日
- ・告知「竹岡雄二展」『kunstaspekte』2016年7月30日
- ・石田織座「作品を“つくること”ではなく、“見せること”に視点を置いた作家「竹岡雄二 台座から空間へ」」『JDN』2016年8月16日
- ・松崎未来「アートを台座から考える! 竹岡雄二展が埼玉県内2会場で開催」『bitecho』2016年8月18日

#### ■担当後記

◆竹岡雄二氏は1970年代からドイツに在住し、その独自の制作と思考がヨーロッパで高く評価されてきた美術家である。日本での紹介は極めて限定的であったため、本展は竹岡氏の全体像を初めて伝える絶好の機会となった。本展は同年に国立国際美術館で先行して開かれた竹岡雄二展からの巡回ではあるが、埼玉では県内にある遠山記念館と連携し、ドローイングなども含めて出品点数を増やし、展示に対するアプローチも刷新する形で展覧会を開催した。とりわけ「生活空間」といえる遠山邸の和風建築での展示と、「ホワイト・キューブ」である美術館での展示を、同時に実現できたことは、ひとりの美術家の制作を多角的に検

証し得る貴重な実践になったと言える。

- ◆準備段階から展覧会の開催まで、竹岡氏との密接な対話を持続的に進展できたことも本展の重要な成果であり、それがひいては過不足のない、唯一無二の展示に繋がったと確信している。竹岡氏の場合、「展示＝見せること」という行為そのものが、作者の制作の核心にある点で、本展の展示は通例のそれとはやや異なる位相にあると言ってよい。展示という行為を作者と学芸員が対話をしながら共有し、最終的な結論に導いていくプロセスは、本展の醍醐味のひとつであった。こういった対話の結果、遠山記念館所蔵の工芸品を竹岡氏が選び、当館のガラスケース内で陳列し、「見せる装置」としての陳列ケースの制度的な意味を浮上させる実験的な試みも実現できたのである。
- ◆遠山記念館との2館同時開催をふまえ、効果的な広報を展開すべく、印刷物には工夫を凝らした。当初、ポスターは2種類の作成を予定していたが、表と裏に各館の出品作品を配する「両面ポスター」が実現した。どちらの面を掲出するか考える、途中で表裏を入れ替えるなど、予期せぬ効果が発揮された。しかも、表のイメージと裏のイメージが少しずつ浸食しあうレイアウト。表裏を交互に3枚を並べるとひとつつながりが完成する。チラシも、紙の表と裏の質感の違いを生かして2館の紹介をしつつ、上部と下部を紙の表と裏に折り返す、「Z折り」が採用された。紙の立体的な扱いをふまえ、竹岡作品の感覚的な魅力を湛え、2館の情報もスマートに伝える。秀逸なデザインだった。
- ◆当初、時間無制限の「ギャラリー・トーク、ノーカット版」を計画したが、展示室での長時間のトークは参加者に負担を強いることから、会場を講堂に変え、3時間半の「キュレーターズ・トーク、ノーカット版」を開催した。出品作品の画像を映写しながら、二人の担当学芸員が交互にトークを展開した。作品へのアプローチが異なるためか、長時間にもかかわらず、全く飽きなかった、時間を感じなかったという感想を多くいただいた。一般的なギャラリー・トークでは十分な議論が深められないため、時間をたっぷり確保したトークの試みとして企画したが、予想以上の手ごたえが得られ、大きな収穫だった。今後も挑戦したい。





## ■出品リスト

・会場ごとに作品データを掲載。S1—S22: 埼玉県立近代美術館に展示。T1—T6: 遠山記念館に展示。  
・埼玉県立近代美術館では、次の特別出品がある。D1—D15: 竹岡雄二ドローイング作品。TC1—TC7: 遠山記念館所蔵作品。  
作品データは以下の通り: 作品番号、作品名(和英)、制作年、技法・素材、寸法(高×幅×奥行 cm)、所蔵先

### 埼玉県立近代美術館展示作品

S1 無題 Untitled 1984 テラコッタ、木、化粧板 128 × 51.5 × 51.5 cm 個人蔵	S8 仕切り SHIKIRI 1990 パリサンダーの合板、木 150 × 150 × 22 cm 個人蔵
S2 無題 Untitled 1984 テラコッタ、木、アクリル絵具 168 × 55 × 55 cm 個人蔵	S9 クリーン・ルーム・ジャパン Clean Room Japan 1997 / 2016 塗装したアルミニウム、ガラス、人工大理石 210 × 286 × 286 cm 作家蔵
S3 壁台座 Wall Pedestal 1985 テラコッタ 40 × 40 × 21 cm 個人蔵	S10 立っている彫刻 I Standing Sculpture I 1989 鏡面磨きをした真鍮 170 × 17 × 17 cm 個人蔵
S4 無題 Untitled 1986 テラコッタ、白い釉薬 42 × 42 × 28 cm 国立国際美術館蔵	S11 無題 Untitled 1989 ガラス、緑青を吹かせた銅板 81 × 81 × 46 cm 個人蔵
S5 宝箱 Treasure Box 2011 人工大理石 60 × 22 × 20 cm 作家蔵	S12 無題 Untitled 1996 黒ニスを塗布したブナ、ガラス、人工大理石 117 × 85 × 85 cm マンツ・コレクション、シュトゥットガルト
S6 オレンジの台座 Orange Pedestal 2000 人工大理石 120 × 32 × 32 cm 個人蔵	S13 外殻 no.5 Shell No.5 1999 人工大理石、アクリル板、金物 72 × 100 × 7 cm ダイムラー・コレクション、シュトゥットガルト／ベルリン
S7 カラヴァッジョ Caravaggio 2007 金メッキを施した真鍮 43 × 50 × 24 cm 個人蔵	S14 ショーケース B Showcase B 1996 / 2000 MDF(ポリウレタン塗装)、ガラス、人工大理石、ハロゲンランプ

70 × 120 × 55.5 cm  
国立国際美術館蔵

S15  
七つの台座  
Seven Pedestals  
2011  
金メッキを施した真鍮  
サイズ可変（各 52 × 52 × 16 cm）  
国立国際美術館蔵

S16  
プロトタイプ II — 背面補強  
Prototype II — Backup  
1992  
赤ニス塗布した木、数冊の本  
70 × 124 × 95.5 cm  
作家蔵

S17  
芸術情報者の頭、ドクメンタ IX  
Art Infomer's Head Documenta IX  
1992  
45 カ国からの 1000 冊の雑誌、塗装した鉄、白ニスを塗  
布した木、ガラス  
200 × 160 × 55 cm  
作家蔵

S18  
無題  
Untitled  
1996  
MDF(鏡面磨き、ポリウレタン塗装)、人工大理石、ステ  
ンレス  
91 × 175 × 60 cm  
個人蔵

S19  
インターナショナル・アート・マガジン・ラック  
International Art Magazines' Rack  
1997  
80 色のパントン社製色見本、アクリル板、塗装したアル  
ミニウム板、白ニスを塗布した木  
180 × 435 × 40 cm  
個人蔵

S20  
サイト・ケース I  
Site Case I  
2012  
アクリル板  
50 × 45 × 20 cm  
作家蔵

S21  
サイト・ベース I  
Site Base I  
2012  
緑青を吹かせたブロンズ  
42 × 40 × 17.5 cm  
作家蔵

S22  
ミュージアム V — サイト  
Museo V — Site  
2012  
金メッキを施したステンレス、アクリル板、金物  
70 × 60 × 10 cm  
作家蔵

[竹岡雄二のドローイング作品]  
D1  
オーギュスト・ロダン《青銅時代》  
“The Age of Bronze” by Auguste Rodin  
1986  
水彩、鉛筆、紙  
40 × 30 cm  
作家蔵

D2  
アルベルト・ジャコメッティのための台座  
Pedestal for Alberto Giacometti  
1986  
水彩、鉛筆、紙  
40 × 30 cm  
作家蔵

D3  
ウンベルト・ボッチョーニ《空間において連続する独特  
な形態》(1913) のための台座  
Pedestal for “Unique Forms of Continuity in  
Space” (1913) by Umberto Boccioni  
1986  
水彩、鉛筆、紙  
40 × 30 cm  
作家蔵

D4  
マルセル・デュシャン《自転車の車輪》(1913) へのオ  
マージュ  
Homage to “Bicycle Wheel” (1913) by Marcel  
Duchamp  
1986  
水彩、鉛筆、紙  
40 × 30 cm  
作家蔵

D5  
《クリーン・ルーム — 屋外》のプラン  
Plan for “Clean Room — Outside”  
2004  
水彩、鉛筆、紙 ほか(ドローイング、メモ等を 5 点の額  
で展示)  
ワコウ・ワークス・オブ・アート蔵

D6  
《ステンレス材の記念碑》のプラン  
Plan for “Monument of Material for Stainless  
Steel”  
1988  
金属板のコラージュ、水彩、鉛筆、紙  
61 × 70 cm

作家蔵

D7  
《特殊な空間》のプラン  
Plan for “Specific Rooms”  
1988  
水彩、鉛筆、紙  
50 × 70cm  
作家蔵

D8  
《プロトタイプ II — 背面補強》のプラン  
Plan for “Prototype II — Backup”  
1991  
水彩、鉛筆、紙  
35 × 50 cm  
作家蔵

D9  
ディスプレイ・シリーズのプラン :《インターナショナル・  
アート・マガジン・ラック》  
Plan for Display Series: “International Art  
Magazines’ Rack”  
1996  
水彩、鉛筆、紙  
42 × 59.5cm  
作家蔵

D10  
ディスプレイ・シリーズのプラン :《ショーケース》  
Plan for Display Series: “Showcase”  
1996  
水彩、鉛筆、紙  
42 × 59.5cm  
作家蔵

D11  
ディスプレイ・シリーズのプラン :《無題》  
Plan for Display Series: “Untitled”  
1996  
水彩、鉛筆、紙  
42 × 59.5cm  
作家蔵

D12  
《プロトタイプ I — クリーン・エアー — 自動販売機》  
のプラン  
Plan for “Prototype I — Clean Air — Automat”  
1991  
水彩、鉛筆、紙  
35 × 50 cm  
作家蔵

D13  
《プロトタイプ III — デイヴィッド・ハモンズ「雪玉  
販売」のための保存方法》のプラン  
Plan for “Prototype III — Preservation Method  
for (Bliz — aard Ball Sale) by David Hammons”  
1991  
水彩、鉛筆、紙  
35 × 50 cm

作家蔵

D14  
《プロトタイプ — クリーン・エアー・ルーム》のプラン  
Plan for “Prototype — Clean Air Room”  
1991  
水彩、鉛筆、紙  
35 × 50 cm  
作家蔵

D15  
無題 — 美術館のガラスケース  
Untitled — A Vitrine for Kunsthalle  
2000  
水彩、鉛筆、紙  
29 × 41cm  
ワコウ・ワークス・オブ・アート蔵

[ 遠山記念館所蔵作品 ]

TC1  
松下人物螺鈿高卓（しょうかじんぶつらでんたかじょく）  
明時代  
木製、漆塗りに螺鈿  
49.5 × 55 × 55 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC2  
花枝散蒔絵卓（はなえだちらしまきえじょく）  
室町時代中期・1457年  
木製、漆塗りに金銀蒔絵  
30.1 × 38.8 × 69.2 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC3  
都名所蒔絵文台・硯箱（みやこめいしよまきえぶんだい・すずりばこ）  
明治時代  
木製、漆塗りに金蒔絵  
14 × 37.5 × 63.8 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC4  
雲鳳凰螺鈿高坏（くもほうおうらでんたかつき）  
琉球・18世紀  
木製、漆塗りに螺鈿  
9.1 × 径 25.5 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC5  
機巧人形 笛吹き太鼓打ち（からくりになぎょう ふえ  
ふきたいこうち）  
江戸時代後期・19世紀  
木、布、紙 ほか  
高 38.7cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC6  
香遊戯盤 蹴鞠香・呉越香（こうゆうぎばん けまりこ  
う・ごえつこう）\*本展では「蹴鞠香」を展示  
江戸時代後期・19世紀  
木、布、紙 ほか

---

14.8 × 51.5 × 48.3 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

TC7  
釈迦如来像蓮華座（しゃかによらいぞうれんげざ）  
江戸時代  
木製、漆箔  
30 × 27 × 27 cm  
公益財団法人遠山記念館蔵

### 遠山記念館展示作品

T1  
展見  
Tenmi  
1988  
ガラス、金メッキを施したステンレス板  
51 × 51 × 60.5 cm  
個人蔵

T2  
ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインのための台座  
Pedestal for Ludwig Wittgenstein  
2015  
人工大理石  
46 × 46 × 50 cm  
作家蔵

T3  
ブロンズの台座  
Bronze Pedestal  
2012  
緑青を吹かせたブロンズ  
51 × 38.5 × 11 cm  
作家蔵

T4  
立っている彫刻 III  
Standing Sculpture III  
2008  
金メッキを施した真鍮  
130 × φ 10 cm  
個人蔵

T5  
萩  
Hagi  
1988  
萩焼、白い釉薬  
55.5 × 54.5 × 12 cm  
個人蔵

T6  
立っている彫刻 II  
Standing Sculpture II  
1989  
ベルギー産のブルーストーン  
130 × 12 × 12 cm  
個人蔵

## ■企画展

### ■ NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体

■会期:2016年9月17日(土)～11月14日(月・県民の日)

■主催:埼玉県立近代美術館

■開催協力:さいたま市(さいたまトリエンナーレ2016 連携プロジェクト)

■協力:JR東日本大宮支社、FM NACK5

■観覧料:一般1100円(880円)、大高生880円(710円)

■入場者数:5,814人

■広報印刷物:ポスターB2、ちらしA4/デザイン:加藤賢策(laboratories)

■担当学芸員:大浦周、吉岡知子



### ■開催趣旨

「ニュー・ヴィジョン・サイタマ」は、活躍中の埼玉県ゆかりのアーティストに焦点をあて、今日の美術動向をリサーチすることを目的に、1993年から継続してきた展覧会である。5年ぶり5回目の開催となる今回は、「迫り出す身体」をテーマに掲げ、1980年代生まれの新進気鋭のアーティスト7名の制作を、本展のための新作も交えて紹介した。

### ■出品作家

青木真莉子/小左誠一郎/小畑多丘/鈴木のぞみ/高橋大輔/中園孔二/二藤建人

## ■カタログ

規格:240×173mm、167ページ

デザイン:加藤賢策、大井香苗(laboratories)

編集:大浦周、吉岡知子、平野到

発行:埼玉県立近代美術館

内容:【図版・作家ステイトメント】青木真莉子、小左誠一郎、小畑多丘、鈴木のぞみ、高橋大輔、中園孔二/ナイル・ケティング「マクドナルド、星、迷路」、二藤建人【テキスト】大浦周「迫り出す身体」【作家解説・略歴】大浦周(作家解説)、吉岡知子(略歴・参考文献)【出品リスト】

価格:2,300円

## ■関連事業

### ・アーティスト×クロス×トーク

2F展示室、講堂/参加費:企画展観覧料

①小畑多丘×宇多丸(RHYMESTER/ラッパー、ラジオパーソナリティ)×松下徹(アーティスト)

10月23日(日)15:00～16:00/参加者:110名

②青木真莉子×秋山幸(画家)×戸田祥子(美術作家)

10月30日(日)13:00～14:00/参加者:14名

③二藤建人×栗田大輔(美術批評)

11月3日(木・祝)15:00～16:00/参加者:31名

④小左誠一郎×兼平彦太郎(キュレーター)

11月5日(土)15:00～16:00/参加者:20名

⑤鈴木のぞみ×新井卓(写真家)

11月6日(日)15:00～16:00/参加者:33名

### ・山川冬樹 ライブ・パフォーマンス+レクチャー「音響身体論004 檻としてのからだ、風としてのからだ」

9月18日(日)14:00～16:15

講堂/参加費:無料/参加者:40名

### ・阿目虎南(大駱駝艦) 舞踏パフォーマンス「蝶番」

9月25日(日)17:30～18:15

講堂、北浦和公園/参加費:無料/振付・出演:阿目虎南/衣裳:Elise Gettliffe/協力:大駱駝艦、二藤建人、西村彩花/参加者:47名

### ・hanage ワークショップ「神さまのお面を作って変身! 神さまフェスティバル2016」

10月30日(日)14:30～16:30

創作室/参加費:無料/講師:hanage(青木真莉子、秋山幸、戸田祥子)/対象年齢:4歳～小学生/参加者:親子15組

### ・L PACK 「たとえば、美術館に三日続けて行ってみるとする。」

10月8日(土)10:00～20:00

10月9日(日) 10:00～20:00  
10月10日(月・祝) 7:00～15:00  
エントランス付近／参加費：無料／企画：L PACK.  
(小田桐奨、中嶋哲矢)

## ■広報記録

<新聞>

- ・「埼玉で若手芸術家展」『朝日新聞夕刊』2016年9月14日
- ・「埼玉美術展案内」『埼玉新聞朝刊』2016年9月18日
- ・新井護「県ゆかり作家7人 経験や感覚を表現」『埼玉新聞朝刊』2016年9月28日
- ・増田愛子「身体感覚探る気鋭のアート」『朝日新聞朝刊』2016年11月2日
- ・告知：『毎日新聞』2016年9月20日／『朝日新聞』2016年9月20日夕刊／『毎日新聞』2016年10月4日／『朝日新聞』2016年10月11日夕刊／『毎日新聞』2016年10月18日／『毎日新聞』2016年10月25日／『朝日新聞』2016年10月25日夕刊／『東京新聞』2016年10月27日／『毎日新聞』2016年11月1日／『埼玉新聞』2016年11月7日／『毎日新聞』2016年11月8日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「9.17～11.14 近代美術館で県ゆかりの若手作家7人展」『たまログ』2016年9月号
- ・「埼玉ゆかりの若手作家7名が集う」『月刊ギャラリー』2016年9月号
- ・「新進気鋭のアーティストたちによる NEW VISION, SAITAMA 5 迫り出す身体」『彩の国だより』2016年9月号
- ・「浦和でアートを楽しむ秋」『U1ala』2016年10月号
- ・「アートの円卓 3卓目 小畑多丘」『Hanako』2016年11月号
- ・『L AND PARK TIMES』No. 23
- ・小勝禮子「美術館の展覧会と国際芸術祭について 雑感」『MAPPING』2017年1月第6号
- ・鈴木俊晴「ある身体とない身体」『美術手帖』2017年1月号

<テレビ・ラジオ>

- ・「日刊さいたまーず」『NHKFM』2016年10月12日

<ウェブ>

- ・「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」『CINRA.NET』2016年9月13日
- ・畠山愛弓「14日まで!現代アートの見方がかわる?! 若手7人による現代アートの競演!」

『girls, artalk』2016年11月12日

## ■担当後記

- ◆「ニュー・ヴィジョン・サイタマ」の直近2回の開催(2007年、2011年)においては、学芸員7名が県ゆかりの美術家を1名ずつ推薦する方式が採用された。複数の視点による出品作家の選定によりバラエティに富んだ構成となった前回・前々回に対し、今回は「迫り出す身体」というテーマを予め設定し、そのテーマへの多角的なアプローチと読み解きが可能となるような出品作家を選定した。埼玉県出身・在住、あるいは制作の拠点を置いているなど「県ゆかりの美術家」という枠組みを引き継ぎつつ、1980年代に生まれた若手作家にターゲットを絞った企画とした。
- ◆1階エントランスや地階サンクンガーデン、センターホールなど、企画展示室以外のスペースも積極的に活用し、鑑賞者の身体感覚が刺激されるようなインストールを目指した。一方で、各々の展示スペースが個展のように独立した空間となるような展示室の割り振りや構成を考えたが、展示作業中には作家どうしがお互いの作品や展示の感想を述べ、意見を交わす様子が見られた。同世代の作家だからこそ起こった相乗効果が、展覧会の充実度を高めたように思う。
- ◆展示室に大量の土を運び込むインスタレーション(二藤)や、自然光が入るセンターホールの壁面への映像プロジェクション(青木)など、技術的な困難にぶつかることも多かったが、出品作家それぞれが割り振られたスペースを十分に活用し、特色ある魅力的な展示を実現してくれた。企画趣旨や展覧会の枠組みを超えたインストールとなったのは、ひとえに作家の尽力の賜物である。改めてこの場を借りて感謝を述べたい。
- ◆本展は同時期に開催された「さいたまトリエンナーレ2016」の連携プロジェクトとなっていたが、それに係るさいたま市からの助成金を利用して、3日間連続のイベント「たとえば、美術館に三日続けて行ってみるとする。」を実施した。アーティストデュオのL PACK.(小田桐奨、中嶋哲矢)に企画を依頼し、美術館エントランスポーチを会場に、「仮設美術館」の建設やカフェ、本展出品作家の映像作品の上映会など多様なプログラムが展開された。屋外でのプログラムで天候に恵まれない時間帯もあったが、通りがかりの人が足を止め、イベ

ントに参加する様子が多く見られた。公園と美術館の連携の可能性や、これまでにないアウトリーチ・プログラムのアプローチなど、当館のこれからの活動を考える上でも非常に意義深いイベントとなった。



たとえば、美術館に三日続けて行ってみるとする。



展示風景（高橋大輔）



展示風景（二藤建人）

[凡例]

- ・リストの掲載順は原則として展示の構成順に倣い、制作年が新しい順に掲載した。
- ・ただし、屋外など展示室以外の場所に展示した作家は、展示場所ごとに掲載した。
- ・作品の所蔵者は備考欄に記載した。所蔵表記のない作品は全て作家蔵。

作品名	制作年	技法・素材	備考
<b>青木真莉子</b>			
<b>1F エントランスロビー</b>			
Last space	2016年	映像 (10分 53秒)	
Where is the god	2016年	映像 (6分 50秒)	
Escorting of the spirits	2015年	映像 (6分)	
Rim trip room	2014年	映像 (10分)	
Shining voices	2014年	映像 (6分)	
<b>2F 吹抜</b>			
shirokuro	2016年	写真	
二つの心臓	2016年	インスタレーション	
二つの心拍	2016年	映像 (3面 / 7分 53秒 / ループ)	
<b>小左誠一郎</b>			
孤 円 三角 四角	2016年	油彩、カンヴァス	
無題	2016年	油彩、カンヴァス	
無題	2016年	油彩、カンヴァス	
円 三角 四角	2015年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
<b>鈴木のぞみ</b>			
Trace of the Light	2014-16年	解体された家の窓、写真乳剤	
<b>2F-3F 階段踊り場</b>			
Fragments of Capsule Obscura	2016年	映像 (約 1分 30秒)	
<b>北浦和公園 彫刻広場</b>			
Capsule Obscura	2016年	ミクストメディア	制作協力：株式会社サトウ板金
<b>高橋大輔</b>			
基本形	2016年	油彩、パネル、マスキングテープ	
横たわる日の出の印象	2016年	油彩、紙	
48	2016年	油彩、カンヴァス	
美術館にて (47)	2016年	油彩、ペン、鉛筆、オイルバー、ダーマトグラフ、カンヴァス	
46	2016年	油彩、カンヴァス、額	
45	2016年	油彩、カンヴァス	
40	2016年	油彩、カンヴァス	
39	2016年	油彩、カンヴァス	
34	2016年	油彩、カンヴァス	
33	2016年	油彩、カンヴァス	
30-35	2016年	油彩、カンヴァス	
27-30	2016年	油彩、カンヴァス	



28	2016年	油彩、ペンキ、パネル
27	2016年	油彩、パネル（7点組作品のうち2点）
26	2016年	油彩、カンヴァス
25	2016年	油彩、カンヴァス
24	2016年	油彩、カンヴァス
21-35	2016年	油彩、カンヴァス
17-22	2016年	油彩、カンヴァス
16-20	2016年	油彩、布
16	2016年	油彩、カンヴァス
untitled	2016年	油彩、紙
11-17	2016年	油彩、紙、画鋏
drawing	2016年	油彩、ダーマトグラフ、紙、額
drawing	2016年	水彩、ダーマトグラフ、紙、額
drawing	2016年	油彩、カンヴァスの端切れ
drawing	2016年	油彩、カンヴァスの端切れ、額
drawing	2016年	油彩、色鉛筆、カンヴァス
drawing	2016年	ペン、マスキングテープ、紙、額
drawing	2016年	油彩、布
drawing	2016年	写真、額
31	2015-16年	油彩、カンヴァス
タイトル未定	2015-16年	油彩、パネルにマウントしたカンヴァス
無題（G-K）	2015-16年	油彩、パネル
23	2015-16年	油彩、パネル
22	2015-16年	油彩、カンヴァス
19	2015-16年	油彩、カンヴァス
18	2015-16年	油彩、パネルにマウントしたカンヴァス
17	2015-16年	油彩、カンヴァス、マスキングテープ
15	2015-16年	油彩、カンヴァス
14	2015-16年	油彩、カンヴァス
13-40	2015-16年	油彩、ボード
13	2015-16年	油彩、パネル
11	2015-16年	油彩、パネル
10	2015-16年	油彩、カンヴァス
9	2015-16年	油彩、カンヴァス
7	2015-16年	油彩、パネル
6	2015-16年	油彩、パネル
5-10	2015-16年	油彩、カンヴァス
5-7	2015-16年	油彩、カンヴァス
5	2015-16年	油彩、カンヴァス
4-5	2015-16年	油彩、パネル、画集（組作品）
4	2015-16年	油彩、ボード／油彩、カンヴァス（組作品）
3	2015-16年	油彩、カンヴァス（パネル（小）との組作品）
2-7	2015-16年	油彩、カンヴァス
2	2015-16年	油彩、カンヴァス

1-6 / 33-40	2015-16 年	油彩、カンヴァスの端切れ、額	
無題 (無題 (ア) に由る)	2015 年	油彩、カンヴァス、木、パネル (組作品)	
無題 (シヤコウガラシタ)	2014-15 年	油彩、パネル	
無題 (デ・イ)	2014-15 年	油彩、パネル	
無題 (nakabiyo.m)	2013 年頃 -2016 年	油彩、パネル	ニガウリ・コレクション蔵
無題 (ワタシサシガタカハシ)	2012-14 年	油彩、ボード	ニガウリ・コレクション蔵
無題 (ビ / A)	2011-15 年	油彩、パネル	
munch no.6	2011 年	油彩、パネル	
	2011 年	油彩、カンヴァス	
	2010-11 年	油彩、パネル	
untitled	2010 年	油彩、パネル	
20	2009 年 /2015-16 年	油彩、カンヴァス	
amber. two	2009 年	油彩、パネル	パーブルーム蔵
untitled	2009 年	油彩、カンヴァス	
wash (青)	2008-09 年	油彩、パネル	
green field	2008 年	油彩、カンヴァス	
paddle wash	2008 年	油彩、カンヴァス	
	2007 年	油彩、カンヴァス	LOOP HOLE 蔵
	2007 年	油彩、カンヴァス	
	2007 年	油彩、パネル	
elephant #23	2006 年	油彩、カンヴァス	
	2006 年	油彩、パネルにマウントしたカンヴァス	
	2006 年	油彩、カンヴァス	
elephant #8	2003 年	油彩、カンヴァス	
	1999-2000 年頃	アクリル絵具、パネル	
[特別出品]			
速水御舟 夏の丹波路	1915 年	彩色、絹	埼玉県立近代美術館蔵
二藤建人			
foot print	2016 年	土	
誰かの重さを踏みしめる	2016 年	インスタレーション	
pillow talk	2016 年	サウンドインスタレーション	音楽制作：野川菜つみ 協力：gallery N、志水壘店 個人蔵
油が浮いているのではなく	2016 年	油、水	
水が沈んでいるのだ	2016 年	油、水	
私の愛は私の重さである 森の家族	2015 年		写真
私の愛は私の重さである Our weight is a love from the earth	2015 年		映像 (約 5 分 30 秒)
BF サンクンガーデン			
反転の山	2015 年	FRP、ティッシュペーパー、土	
激突やま	2015 年	映像 (約 3 分)	

---

## 中園孔二

無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2015年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2014-15年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年	油彩、カンヴァス	
無題	2014年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2014年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2014年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2014年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2013-14年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2013年	油彩、カンヴァス	
無題	2013年	油彩、カンヴァス	
無題	2012-13年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2012年	クレヨン、パネル	個人蔵
無題	2012年	油彩、カンヴァス	
無題	2012年	油彩、カンヴァス	
無題	2012年	油彩、カンヴァス	
無題	2012年頃	クレヨン、パネルにマウントしたカンヴァス	
無題	2011-12年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2010年	油彩、カンヴァス	
無題	2010年	油彩、カンヴァス	
無題	2010年	油彩、カンヴァス	
無題	2010年	クレヨン、パネル	
無題	2010年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2010年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2010年頃	油彩、カンヴァス	
無題	2010年頃	油彩、カンヴァス	
自画像	2009年	油彩、カンヴァス	
無題	2009年	油彩、カンヴァス	
無題	2008-09年	油彩、カンヴァス	
無題		油彩、カンヴァス	
無題		油彩、カンヴァス	
無題		油彩、カンヴァス	
無題		油彩、カンヴァス	
無題		油彩、カンヴァス	

---

無題

油彩、カンヴァス

(所蔵表記のない中園孔二作品は、全て中園雅勝氏・信子氏蔵)

小畑多丘

B-BOY Down jacket NANAME	2016年	木彫、楠	PKCZ® GALLERY STORE 蔵
B-GIRL Down jacket NAGAME	2016年	木彫、楠	
物体と電車 / OBJECT inside train	2015年	デジタル写真	
物体と電車 / OBJECT outside train	2015年	デジタル写真	

## ■日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト Cubism in Japan: Picasso's Impact

■会期：2016年11月23日(水・祝)～2017年1月29日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

■協力：日本通運、JR東日本大宮支社、FM NACK 5

■観覧料：一般1100円(880円)、大生高880円(710円)  
( )は団体20名以上の料金

■入場者数：9,443人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：大溝 裕 (Glanz)

■担当学芸員：五味良子、平野到



B2 ポスター

### ■開催趣旨

この展覧会は、1907年頃パリで生まれ、パブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックによって主導されたキュビスムの、日本における受容を紹介した。キュビスムが日本へ伝えられたのは、1910年代から20年代にかけてのこと。パリに留学していた東郷青児、独自にキュビスムを消化した萬鐵五郎や坂田一男、

通常こうした動向とは結びつけられない前田寛治や古賀春江の一時期の作品は、この様式の日本での広がりや今に伝える。しかしフォーヴィスムやシュルレアリスムといった同じ時代の動向と比べると、多くの画家はつかのまキュビスムの実験に手を染めたあと、そこから足早に立ち去ったことが伺い知れる。キュビスムが日本の画家によって深められることは、ほとんどなかったといえる。

ひとたび姿を消したキュビスムの影響は、意外な場所で復活する。大きな契機となったのが、1951年に開かれたピカソの展覧会であった。1950年代前半、ピカソは日本の美術界に衝撃を与え、その影響は洋画のみならず、日本画から彫刻、工芸といった広いジャンルに及んだ。多くの作家がキュビスムの手法を取り入れながら、様々な主題の作品を制作することとなったのである。

この展覧会は上述のように、「キュビスムが二度にわたって別々の文脈で日本の作家たちに受容された」という仮説に基づき組み立てられた。世界的にみてもきわめて異例なこのような状況を、ピカソとブラックの作品、そしてそれらに触発された日本の作家たちの作品約160点によって紹介した。

### ■カタログ

規格：28.3 × 20.9 cm、232頁＋年表(別刷り)

編集・構成：鳥取県立博物館、埼玉県立近代美術館、高知県立美術館

執筆：天野一夫、奥野克仁、尾崎信一郎、五味良子、中村麻莉、林野雅人、平野到

翻訳：小川紀久子

ブックデザイン：大溝 裕 (Glanz)

編集・制作：美術出版社 デザインセンター

発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

内容・構成：尾崎信一郎「序論」、第一部 日本におけるキュビスム、林野雅人「大正期 キュビスムの受容と様々なイズム」、五味良子「まとうキュビスム、立ちあらわれるキュビスムー一九二〇年代の工芸・デザイン界における前衛的造形の展開」、奥野克仁「今西中通とキュビスム」、第二部 ピカソ・インパクト、平野 到「キュビスムが痙攣するとき」、天野一夫「キュビスムと日本の造形」、尾崎信一郎「一九五〇年代のキュビスム」／コラムを11本収録／作家略歴／作品リスト／主な参考文献／クレジット

価格：2,300円(税込)



第一部「日本におけるキュビズム」会場風景



第二部「ピカソ・インパクト」会場風景

### ■関連事業

- ・レクチャー&ディスカッション：「ピカソ・インパクトー1950年代の日本におけるキュビズムの影響」／12月4日（日）／レクチャー：尾崎信一郎氏、ディスカッション：池田龍雄氏・尾崎信一郎氏・建畠哲／講堂／参加者：100名
- ・上映会「メトロポリス」／1月15日（日）、2回上映／上映作品：メトロポリス（監督=フリッツ・ラング、1927年、ドイツ、90分）、16mmフィルムによる上映／講堂／参加者：合計135名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／①11月26日（土）、五味良子、②12月24日（土）平野到／参加者：①22名、②54名

### ■広報記録

#### <新聞>

- ・「キュビズム 日本での展開」『読売新聞』朝刊 特別面、2016年10月31日
- ・「キュビズム展が開幕 近代美術館、1月29日まで」『読売新聞』朝刊 埼玉、2016年11月24日

- ・窪田直子「ピカソらの表現法 受容の歴史」『日経新聞』朝刊 文化、2016年11月30日
  - ・高橋咲子「戦後、再び受容 日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『毎日新聞』夕刊 文化、2016年12月7日
  - ・渋沢和彦「ピカソが生んだ2度目の衝撃 『日本におけるキュビズム』展」『産経新聞』朝刊文化、2016年12月8日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『日経新聞』夕刊、2016年12月9日
  - ・五味良子「手法の先駆者 萬鐵五郎 『日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト』展作品 紹介(上)」『読売新聞』朝刊埼玉、2016年12月10日
  - ・平野到「戦争体験の葛藤を形に 『日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト』展作品紹介(中)」『読売新聞』朝刊 埼玉、2016年12月16日
  - ・平野到「無意味な造形が生む力 『日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト』展作品紹介(下)」『読売新聞』朝刊 埼玉、2016年12月17日
  - ・「埼玉県立近代美術館『日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト』から『まひるの顔』」『読売新聞』夕刊、2016年12月20日
  - ・「戦争挟み2度の受容 県立近代美術館 日本におけるキュビズム」『埼玉新聞』朝刊、2017年1月9日
  - ・Robert Reed「A Different Take on Cubism in Japan」『The Japan News』、2017年1月12日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『読売新聞』朝刊 特別面、2017年1月14日
  - ・村田真「『日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト』展」『北海道新聞』、2017年1月23日
  - ・「ピカソら始めた『キュビズム』 国内作家への影響たどる」『朝日新聞』朝刊、2017年1月25日
- <雑誌、ミニコミ誌等>
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『月刊ギャラリー』9月号、2016年9月1日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『武州路』11月号、2016年10月20日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『月刊ギャラリー』11月号、2016年11月1日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『たまログ』、2016年11月1日
  - ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『美連協ニュース』11月号、2016年11月1日
  - ・「革新的な芸術運動の足跡 日本におけるキュビ

- ・スムーピカソ・インパクト」『りぶる』12月号、2016年11月15日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『武州路』12月号、2016年11月20日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『カーアンドドライバー』1月号、2016年11月26日
- ・「Cubism in Japan: Picasso's Impact」『The Japan Times』2016年11月30日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『定年時代』12月号、2016年12月5日
- ・『ピカソの衝撃』を分析 埼玉県立近代美術館展示キュビズム受容に仮説」『愛媛新聞』、2016年12月11日
- ・「戦争挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『茨城新聞』、2016年12月15日
- ・「戦争挟み2度の受容 埼玉」『日本におけるキュビズム』展」『下野新聞』、2016年12月17日
- ・「キュビズム日本の受容 埼玉で企画展」『福島民報』2016年12月17日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『上毛新聞』、2016年12月19日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『武州路』1月号、2016年12月20日
- ・宮田徹也「見ようとすることこそ重要 日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト 埼玉県立近代美術館」『新かながわ』、2016年12月25日
- ・「キュビズム受容 二つの波 埼玉で『ピカソ・インパクト』」『中國新聞セレクト』、2016年12月27日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『東奥日報』、2016年12月27日
- ・「日本の敗戦体験 キュビズム関係 ピカソの箱を描くような手法」『沖縄タイムス』、2016年12月29日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『月刊MOE』2月号、2016年12月29日
- ・「日本のキュビズム受容紹介 埼玉県立近代美術館で来月29日まで展覧会」『信濃毎日新聞』、2016年12月30日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『美術展びあ2017』、2016年12月31日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『新美術新聞』、2017年1月1日
- ・「新しい絵の発明 日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『てんとう虫』1月号、2017年1月1日
- ・「戦争を挟み2度の受容 埼玉・近代美術館『日本におけるキュビズム』」『山形新聞』、2017年1月4日
- ・「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『Acore おおみや』、2017年1月6日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『徳島新聞』、2017年1月6日
- ・「ピカソの衝撃広く影響 戦前と戦後 変化追う 埼玉で『日本におけるキュビズムー』展」『河北新報』、2017年1月11日
- ・「戦前、戦後 2度の受容 埼玉で『日本におけるキュビズム』展」『山陽新聞』、2017年1月12日
- ・「戦争を挟み2度の受容 埼玉県立近代美術館『日本におけるキュビズム』」『静岡新聞』夕刊、2017年1月13日
- ・「ピカソに得た2度の衝撃 日本におけるキュビズム展」『四國新聞』2017年、1月13日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『新潟日報』、2017年1月14日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『熊本日日新聞』2017年、1月16日
- ・「戦前・戦後 2度の受容 日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」『福島民友』、2017年1月16日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『千葉日報』1月18日
- ・「戦争を挟み2度の受容 日本におけるキュビズム」『大阪日日新聞』、2017年1月22日
- ・告知：『毎日新聞』2016年11月15日／『東京新聞』2016年11月17日／『毎日新聞』2016年11月22日／『毎日新聞』2016年11月29日／『毎日新聞』2016年12月6日／『朝日新聞』2016年12月6日夕刊／『読売新聞』2016年12月6日夕刊／『埼玉新聞』2016年12月11日／『朝日新聞』2016年12月13日／『毎日新聞』2016年12月13日夕刊／『朝日新聞』2016年12月13日夕刊／『読売新聞』2016年12月13日夕刊／『東京新聞』2016年12月15日／『毎日新聞』2016年12月20日／『読売新聞』2016年12月20日夕刊／『朝日新聞』2016年12月27日夕刊／『毎日新聞』2016年12月27日夕刊／『読売新聞』2016年12月27日夕刊／『日経新聞』2017年1月5日夕刊／『毎日新聞』2016年1月10日／『読売新聞』2017年1月10日夕刊／『毎日新聞』2017年1月17日／『毎日新聞』2017年1月24日／『読売新聞』2017年

1月24日夕刊

< Web >

- ・「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」『TimeOut 東京』、2016年10月26日
  - ・「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」『JDN』、2016年11月4日
  - ・『日本におけるキュビスム』を探る展覧会に東郷青児、岡本太郎ら約90作家『CINRA.NET』、2016年11月6日
  - ・「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」『ShareArt』、2016年11月7日
  - ・「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト@埼玉県立近代美術館」『ARTiT』、2016年11月15日
  - ・「岡本太郎、東郷青児作品など展示『日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト』が埼玉県立近代美術館でまもなく開幕」『SPICE』、2016年11月17日
  - ・坂本裕子「【年始に行きたい展覧会】キュビスムは日本でどのように受け入れられたのか?」『Pen Online』、2017年1月3日
  - ・藤田麻希「日本の『キュビスム』の名作が大集合! 日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト展」『サライ.jp』、2017年1月5日
  - ・『日本におけるキュビスム』展はまるで推理小説『Newsweek』日本版、2017年1月18日
  - ・「ピカソやブラック、岡本太郎、東郷青児の作品が同時に並ぶ『日本におけるキュビスム - ピカソ・インパクト』」『Neo1』、2017年1月20日
- < テレビ、ラジオ >
- ・NHK・FM浦和「日刊!さいたまへず」2016年12月14日
  - ・「テレ玉ニュース」2016年12月20日
  - ・NHKE「日曜美術館アートシーン」2017年1月15日

## ■担当後記

- ◆この展覧会は全国の公立美術館の連携組織、「美術館連絡協議会」に提案された企画展であり、約4年あまりをかけて開催館が集い調査研究・準備を進め、開催にいたった。
- ◆1907年にピカソが《アヴィニヨンの娘たち》を描きキュビスムが生まれたことで、それまで遠近法のルールにのっとっていた西洋の視覚文化に革命が起こった。その衝撃（インパクト）は大きく、日本でも多くの芸術家がキュビスムの手法を試みている。しかし、ほとんどの作家たちが、わずか数年でそのスタイルを変えてしまった。絶大な影

響力を誇りながら、なぜキュビスムはひとときの現象に終わったのか、そこで生まれた作品はどんなものだったのか—この展覧会では、そうした謎に迫ることを試みた。

- ◆今回の展覧会でカバーする時期は、1909年から1962年までのおよそ60年に及び、この間に制作された油彩画・版画・日本画から工芸まで、バラエティ豊かな作品が集った。「キュビスム」というテーマが各時代を貫く軸になり、普段は隣り合うことのない作品が並ぶのが、みどころのひとつとなった。会場では、ピカソ、萬鐵五郎、東郷青児 といった、キュビスムというキーワードですぐに 思い出されるビッグネームのみならず、松本竣介や瑛九など、「え、この人もキュビスムやったの?」という意外なケースまで、さまざまな作品があいまみえる場となった。
- ◆出品する作品を選ぶ中で、どこまでをキュビスムとみなすかは、最後まで悩みの種であった。日本においてキュビスムは他の様式と一体となって生まれたため、戦前でいえば表現主義や構成主義、戦後ではルポルターージュ絵画など、通常は違う文脈で紹介される作品が多数含まれるケースがままあった。「果たしてこれはキュビスムと言えるのだろうか…」担当学芸員の間でも、意見が割れる場面が少なからず生じた。また、限られた展示スペースの中で、よく知られたいわゆる名品を取るか、はたまたあまり知られていない作品を発掘するかは考えどころであった。最終的には、作品としての強度と、「キュビスムがなければこの作品は生まれなかつたらう」という観点から出品候補作品をふるいにかけて。他の展覧会与出品予定が重なっていたり、長距離の輸送ができなかったりと、必ずしも当初のドリームプラン通りではなかったが、最終的には日本でのキュビスムの展開を語る上で核となる作品が集結した。
- ◆キュビスムにも通じる個性的な図録のデザイン（Glanz 大溝氏による）が好評を博し、美術館連絡協議会のカタログ賞を受賞した。また、同じく大溝氏による大胆なレイアウトの展覧会広告を『美術手帖』『週刊読書人』『読売新聞』に掲出し、注目を集めた。



## ■出品リスト

### 第1部 日本におけるキュビズム

作家名	作品	制作年	技法・素材	所蔵
東郷青児	コントラバスを弾く	1915年	油彩・カンヴァス	東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館
東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922年	油彩・カンヴァス	名古屋市美術館
萬鐵五郎	自画像	1915年頃	油彩・カンヴァス	岩手県立美術館
萬鐵五郎	もたれて立つ人	1917年	油彩・カンヴァス	東京国立近代美術館
萬鐵五郎	もたれて立つ人習作	1917年	油彩・カンヴァス	岩手県立美術館
萬鐵五郎	羅布かづく人	1925年	油彩・カンヴァス	岩手県立美術館
田中保	キュビストA	1915年	油彩・カンヴァス	埼玉県立近代美術館
田中保	キュビストB	1915年	油彩・カンヴァス	埼玉県立近代美術館
森田恒友	城址	1916年	油彩・カンヴァス	埼玉県立近代美術館
久米民十郎	OffEngland	1918年	油彩・カンヴァス	神奈川県立近代美術館
矢部友衛	裸婦	1920年	油彩・カンヴァス	東京国立近代美術館
矢部友衛	裸婦	1924年	油彩・カンヴァス	早稲田大学會津八一記念博物館
普門暁	鹿・青春・光・交叉	1920年	油彩・カンヴァス	奈良県立美術館
笠置季男	作品(壺)	1921年	油彩・カンヴァス	姫路市立美術館
古賀春江	観音	1921年	油彩・カンヴァス	東京国立近代美術館
柳瀬正夢	[表現主義的風景家裏の坂道]	1921年頃	油彩・カンヴァス	武蔵野美術大学美術館・図書館
柳瀬正夢	[未来派の素描]	1922年頃	コンテ・紙	武蔵野美術大学美術館・図書館
尾形亀之助	化粧	1922年	油彩・カンヴァス	個人蔵
黒田重太郎	一修道僧の像	1922年	油彩・カンヴァス	個人蔵
黒田重太郎	マドレーヌ・ルパンチ	1922年	油彩・カンヴァス	京都国立近代美術館
黒田重太郎	シャルトルーズの庭	1922年	油彩・カンヴァス	学校法人大手前学園
村山知義	サディスティッシュな空間	1922-23年	油彩・カンヴァス	京都国立近代美術館
岡本唐貴	静物	1923年	油彩・カンヴァス	東京国立近代美術館
住谷磐根	唯物弁証法的イワノフ・スミヤヴキッチ	1923年	油彩・カンヴァス	東京都現代美術館
河辺昌久	メカニズム	1924年	油彩、コラージュ・カンヴァス	板橋区立美術館
河辺昌久	未来派の自画像	1924年	油彩・板	板橋区立美術館
坂田一男	椅子による裸婦	1924年	油彩・カンヴァス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
坂田一男	キュビズムの人物像	1925年	油彩・カンヴァス	岡山県立美術館
坂田一男	裸婦	1925年	油彩・カンヴァス	倉敷市立美術館
坂田一男	浴室の二人の女	1928年	油彩・カンヴァス	目黒区美術館
坂田一男	コンポジション	1936年	油彩・カンヴァス	個人蔵
永野芳光	静物	1923年	油彩・カンヴァス	神奈川県立近代美術館
前田寛治	街の風景	1924年	油彩・カンヴァス	鳥取県立博物館
吉田卓	静物	1924年	油彩・カンヴァス	ふくやま美術館
横井礼以	庭	1924年	油彩・カンヴァス	株式会社名古屋画廊
川口軌外	裸婦群像	1925年頃	油彩・カンヴァス	和歌山県立近代美術館
山口進	静物	1926年	木版・紙	町田市立国際版画美術館
伊藤弥太	ピアノと婦人	1930年代	油彩・カンヴァス	秋田市立千秋美術館
石丸一	静物	1931年頃	油彩、コラージュ・カンヴァス	大阪新美術館建設準備室
三岸好太郎	コンポジション	1933年	油彩・カンヴァス(板で裏打ち)	北海道立三岸好太郎美術館
飯田操朗	作品	1936年	油彩・カンヴァス	兵庫県立美術館
佐藤敬	水災に就いて	1939年	油彩・カンヴァス	大分市美術館
今西中通	羽子	1940年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
今西中通	マンドリンを弾く女	1940年	油彩・カンヴァス	高知県立美術館
今西中通	みどりの静物	1940年	油彩・カンヴァス	高知県立美術館
今西中通	緑の鳥	1940年	油彩・カンヴァス	高知県立美術館
瑛九	コップを持つ男A	1943年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
斎藤佳三	リズム模様原画(1)	1924年頃	水彩、鉛筆・トレーシング・ペーパー	東京藝術大学

斎藤佳三	リズム模様原画(3)	1924年頃	水彩、鉛筆・トレーシング・ペーパー	東京藝術大学
斎藤佳三	リズム模様の半襟下図4	1930年頃	鉛筆・紙	東京藝術大学
斎藤佳三	リズム模様の半襟下図5	1930年頃	鉛筆・紙	東京藝術大学
斎藤佳三	リズム模様の半襟下図7	1930年頃	鉛筆・紙	東京藝術大学
斎藤佳三	リズム模様の半襟下図20(10点組のうち)	1930年頃	鉛筆・紙	東京藝術大学
恩地孝四郎(画)	『感情』11	1917年6月	木版・紙	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
恩地孝四郎(画)	『感情』20	1918年6月	木版・紙	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
恩地孝四郎(画)	『感情』21	1918年7月	木版・紙	萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
恩地孝四郎(画)	『詩と版画』第8輯	1924年	木版・紙	宇都宮美術館
恩地孝四郎	詩と版画社第一回版画展覧会(ポスター)	1924年	木版・紙	千葉市美術館
恩地孝四郎	静物(『HANGA 第五輯』より)	1925年	木版・紙	町田市立国際版画美術館
恩地孝四郎	人体・少女(『詩と版画』11輯より)	1925年	5月木版・紙	千葉市美術館
恩地孝四郎	人体考察No.4 頸(『風』再刊1号より)	1929年3月	木版・紙	千葉市美術館
恩地孝四郎	人体考察No.6 胸(『風』再刊1号より)	1929年3月	木版・紙	千葉市美術館
恩地孝四郎	人体考察No.7 顔(『風』再刊1号より)	1929年3月	木版・紙	千葉市美術館
恩地孝四郎	一つの貌(『風』第3号より)	1928年	木版・紙	宇都宮美術館
恩地孝四郎	抒情(『風』第3号より)	1928年	木版・紙	宇都宮美術館
恩地孝四郎	あかるい時(『風』第3号より)	1928年	木版・紙	宇都宮美術館
村山知義	「マヴォ第1回展覧会」目録	1923年	印刷・紙	東京都現代美術館美術図書室
村山知義(編集・『マヴォ』1号発行)		1924年7月	リノカット他・紙	東京都現代美術館美術図書室
村山知義(編集・『マヴォ』2号発行)		1924年8月	木版・紙	東京都現代美術館美術図書室
村山知義(編集・『マヴォ』2号発行)		1924年8月	木版・紙	町田市立国際版画美術館
村山知義(編集・『マヴォ』4号発行)		1924年10月	リノカット他・紙	東京都現代美術館美術図書室
村山知義、岡田『マヴォ』5号龍夫、萩原恭次郎(編集・発行)		1925年6月	リノカット他・紙	町田市立国際版画美術館
村山知義、岡田『マヴォ』5号龍夫、萩原恭次郎(編集・発行)		1925年6月	リノカット他・紙	板橋区立美術館
村山知義、岡田『マヴォ』6号龍夫、萩原恭次郎(編集・発行)		1925年7月	リノカット他・紙	板橋区立美術
村山知義、岡田『マヴォ』7号龍夫、萩原恭次郎(編集・発行)		1925年8月	リノカット他・紙	東京都現代美術館美術図書室
村山知義、岡田『マヴォ』7号龍夫、萩原恭次郎(編集・発行)		1925年8月	リノカット他・紙	板橋区立美術館
牧寿雄(編集)	マヴォ染織図案集	1927年	印刷・紙	宇都宮美術館
岡田龍夫(画) 燕の書 ／エルンスト・トルラー(著) ／村山知義(訳・装幀)		1925年4月	リノカット・紙	町田市立国際版画美術館
岡田龍夫(画) 蒼ざめた童貞狂 ／斎藤秀雄(著)		1926年2月	凸版・紙	町田市立国際版画美術館
牧寿雄	新希臘派模様	1927年	リノカット・紙	町田市立国際版画美術館

岡田龍夫 (画)	『形成画報』創刊号 1	1928年 10月	リノカット・紙	町田市立国際版画美術館
村上力	『NEVELON』 1	1928年	版画集	東京都現代美術館美術図書室
仲田定之助	首	1924年	白銅	東京国立近代美術館

## 第2部 ピカソ・インパクト

パブロ・ピカソ	女の半身像	1909年	油彩・カンヴァス	ひろしま美術館
パブロ・ピカソ	頭部	1909年	油彩・カンヴァス	笠間日動美術館／公益財団法人日動美術財団
パブロ・ピカソ	帽子の男	1915年	油彩・カンヴァス	東京ステーションギャラリー
パブロ・ピカソ	静物：パレット、燭台、ミノタウロス像	1938年	油彩・カンヴァス	京都国立近代美術館
パブロ・ピカソ	静物	1944年	油彩・カンヴァス	埼玉県立近代美術館
パブロ・ピカソ	茄子	1946年	油彩、グワッシュ・紙	石橋財団ブリヂストン美術館
パブロ・ピカソ	コンポートのある静物	1909年	ドライポイント・紙	高松市美術館
パブロ・ピカソ	ふたつの裸体	1909年	ドライポイント・紙	滋賀県立近代美術館
パブロ・ピカソ	レオニー嬢	1910年	エッチング・紙	京都国立近代美術館
パブロ・ピカソ	レオニー嬢	1910年	エッチング・紙	滋賀県立近代美術館
パブロ・ピカソ	テーブル	1910年	エッチング・紙	京都国立近代美術館
パブロ・ピカソ	長椅子のレオニー嬢	1910年	エッチング・紙	京都国立近代美術館
パブロ・ピカソ	修道院	1910年	エッチング・紙	京都国立近代美術館
パブロ・ピカソ	修道院	1910年	エッチング・紙	滋賀県立近代美術館
パブロ・ピカソ	えびと魚	1949年	リトグラフ・紙	京都国立近代美術館
ジョルジュ・ブ ラック	パル (テーブルの上のバスの瓶とコップ)	1911年	エッチング・紙	高松市美術館
ジョルジュ・ブ ラック	キュビスムの静物	1912年	エッチング・紙	高松市美術館
末松正樹	群像 (原始への郷愁)	1947年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
松本峻介	人	1947年	油彩・カンヴァス	岩手県立美術館
岡本太郎	まひるの顔	1948年	油彩・カンヴァス	川崎市岡本太郎記念美術館
山本敬輔	ヒロシマ	1948年	油彩・カンヴァス	兵庫県立美術館
鶴岡政男	顔 (5)	1948年頃	墨・紙	群馬県立近代美術館
鶴岡政男	顔 (6) 一暴れる画	1948年頃	墨・紙	群馬県立近代美術館
鶴岡政男	顔 (7)	1948年頃	墨・紙	群馬県立近代美術館
鶴岡政男	人 (14)	1948年頃	鉛筆、クレパス・紙	群馬県立近代美術館
鶴岡政男	「夜の群像」下絵	1949年	鉛筆・紙	群馬県立近代美術館
鶴岡政男	夜の群像	1949年	板・カンヴァス	群馬県立近代美術館
大野叔嵩	曙光	1949年	着色・紙	京都国立近代美術館
大野叔嵩	霊性の立像	1953年	顔料・紙	宇都宮美術館
下村良之介	祭	1949年	着色・紙	京都国立近代美術館
下村良之介	切ル	1957年	着色・紙	京都市美術館
三上誠	夜	1949年	彩色・紙	京都国立近代美術館
小山田二郎	顔	1950年	水彩・紙	府中市美術館
小山田二郎	月に吠える	1950年	油彩・カンヴァス	栃木県立美術館
小山田二郎	鳥女	1950年頃	水彩・紙	府中市美術館
難波田龍起	工場	1951年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖	1954年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖 (1)	1954年	インク・紙	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖 (2)	1954年	インク・紙	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖 (3)	1954年	インク・紙	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖 (4)	1954年	インク・紙	北海道立近代美術館
難波田龍起	湖 (5)	1954年	インク・紙	北海道立近代美術館
難波田龍起	展開	1957年	油彩・カンヴァス	東京都現代美術館
福留章太	ラオコーンのある静物	1951年	油彩・カンヴァス	鳥取県立博物館
谷角日沙春	猫と八仙花	1951年	着色・絹	新温泉町諸寄地区
飯田善國	オーケストラ	1952年	油彩、コラージュ・カンヴァス	IIDA・KAN
池田龍雄	十字街	1952年	油彩・カンヴァス	練馬区立美術館

池田龍雄	空中楼閣	1952年	インク、水彩・紙	練馬区立美術館
池田龍雄	夜	1953年	インク他・紙	練馬区立美術館
河原温	肉屋の内儀	1952年	油彩・カンヴァス	大阪新美術館建設準備室
吉原治良	暗い日曜日	1952年	油彩・カンヴァス	高松市美術館
小野木学	作品	1953年	油彩・カンヴァス	練馬区立美術館
片谷暖子(美香)	間奏曲	1952年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
川口軌外	日傘と人	1953年	油彩・カンヴァス	和歌山県立近代美術館
堂本尚郎	静物	1953年	着色・和紙	堂本眞美氏蔵
堂本尚郎	魚の店	1954年	着色・和紙	京都国立近代美術館
利根山光人	寸感	1953年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
山田正亮	StillLifeNo.62	1953年	油彩・カンヴァス	府中市美術館
阿部展也	予言者	1954年	油彩・カンヴァス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
岡田徹	夜間爆撃	1954年	油彩・カンヴァス	岐阜県美術館
小谷博貞	汚れた人	1954年	油彩・カンヴァス	北海道立近代美術館
高橋節郎	踊り	1954年	漆・鍮金・螺鈿・アルミニウム合金板	豊田市美術館
尾藤豊	変電所	1954年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
山口薫	夜明けの顔	1954年	油彩・カンヴァス	新潟県立近代美術館・万代島美術館
岡部繁夫	ダム	1955年	油彩・カンヴァス	呉市立美術館
福沢一郎	水瓜を持つ男	1955年	油彩・カンヴァス	群馬県立近代美術館
村上善男	区分(内灘にて)	1955年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
吉仲太造	生きものH	1955年	油彩・カンヴァス	板橋区立美術館
芥川紗織	神話より(4)	1956年	染色・布	栃木県立美術館
井上三綱	駆けだした牛	1956年	油彩、墨、弁柄、胡粉・カンヴァス	平塚市美術館
漆原英子	Eidolon	1956年	油彩・カンヴァス	東京都現代美術館
清川泰次	マンダレー	1956年	油彩・カンヴァス	世田谷美術館
小林二郎	叫び	1957年頃	油彩・カンヴァス	兵庫県立美術館
三雲祥之助	パリスの審判	1956年	油彩・カンヴァス	京都市美術館
堂本元次	造船	1956年	着色・紙	京都府総合資料館
島多訥郎	森と兎	1957年	彩色、紙	栃木県立美術館
今井俊満	女と牛	1958年	油彩・板	大原美術館
坂田和	深夜	1958年	油彩・カンヴァス	高知県立美術館
野村久之	メカニズム	1959年	顔料、箔・紙	目黒区美術館
番浦省吾	潮	1959年	漆、アルミニウム、蒔絵・木	個人蔵
渡辺豊重	習作59-11	1959年	油彩・カンヴァス	神奈川県立近代美術館
高山辰雄	道	1961年	彩色・紙	株式会社フジ・メディア・ホールディングス
佐藤多持	水芭蕉曼陀羅(つ)	1962年	墨彩・紙	東京藝術大学
堀内正和	Cubi	1949年	石膏	個人蔵
堀内正和	Cubi	1950年	ブロンズ	姫路市立美術館
林康夫	作品	1954年	陶	広島県立美術館
辻晉堂	顔(寒拾)	1956年	陶彫	鳥取県立博物館
辻晉堂	人間(椅子に座っている人物)	1957年	陶彫	鳥取県立博物館
山田光	作品-黒釉	1956年	陶	和歌山県立近代美術館
笠置季男	装	1963年	ブロンズ	姫路市立美術館
京都風俗研究会(編)／内外出版株式会社(出版)	『表現派図案集』	1922年	印刷	個人蔵
恩地孝四郎(装幀)、大木篤夫(著)／アルス(出版)	『危険信号』	1930年	印刷	個人蔵

川口省吾（編）『スパニッシュセレナーデハーモニ ／共益商社書店 カ三重奏楽譜』 （出版）	1925年（1924 年初版）	印刷	個人蔵
福崎亮介（編）『ハーモニカ合奏かっぱれ合奏楽譜』 ／楽友社（出版）	1926年	印刷	個人蔵
読売新聞社（主「ピカソ展」目録 催）	1951年8月 10月	印刷	埼玉県立近代美術館
美術出版社（出「特集パブロ・ピカソ『美術手帖』 版）臨時増刊号48」	1951年9月	印刷	
アトリエ社（出臨時増刊アトリエ「ピカソ」 版）	1951年9月	印刷	島田安彦コレクション
東京国立博物館「ブラック展」目録 ／大阪市立美術 館／読売新聞社 （主催）	1952年9月 11月	印刷	埼玉県立近代美術館
アトリエ社（出臨時増刊アトリエ「ピカソ」 版）	1938年1月	印刷	個人蔵
一氏義良／アル『立体派・未来派・表現派』 ス（出版）	1924年	印刷	埼玉県立近代美術館
一氏義良／アル『立体派・未来派・表現派』 ス（出版）	1924年	印刷	個人蔵
アーサー・ジェロ『立体派と後期印象派』 ーム・エッディ （著）、久米正雄 （訳）／金星堂（出 版）	1922年（1916 年初版）	印刷	個人蔵
神原泰／アルス『ピカソ』 （出版）	1925年	印刷	島田安彦コレクション
神原泰／アルス『ピカソ』 （出版）	1925年	印刷	個人蔵
岡本太郎／弘文『ピカソアテネびじゅつぶんこ1』 堂（出版）	1952年	印刷	島田安彦コレクション
ギョーム・アボ『立体派の画家たち』 リネール（著）、 江原順・小海永 二（訳）／昭森 社（出版）	1957年	印刷	個人蔵

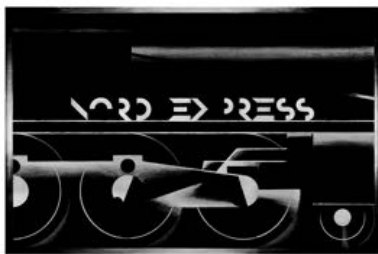
## ■カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命

### Posters of A.M. Cassandre: A Graphic Revolution

- 会期：2017年2月11日(土・祝)～3月26日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ 日本
- 特別協力：Lafa/ Laboratory All Fashion Art.
- 協力：株式会社 studio 仕組、JR 東日本大宮支社、FM NACK5
- 企画協力：アートインプレッション
- 観覧料：一般 1000 円 (800 円)、大高生 800 円 (640 円)
- 入場者数：6,280 人
- 広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4 / デザイン：永井一史、落合剛之 (HAKUHODO DESIGN)
- 担当学芸員：吉岡知子、大浦周



# CASSANDRE



## カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命

2017.2.11(土)～3.26(日) 埼玉県立近代美術館

010-1-1 B2 ポスター

### ■開催趣旨

カッサンドル (1901-1968) はウクライナに生まれ、フランスで活躍した 20 世紀を代表するグラフィックデザイ

ナー。キュビズムやバウハウスから影響を受け、1920 年代に制作した幾何学的でダイナミックなポスターは、時代の先駆的な表現として、グラフィックデザイン界に「革命」とも言うべき衝撃をもたらした。カッサンドルのポスターに共通する壮観な構図とスピード感は、機械と大量消費に魅せられた時代の空気をまさに体現していた。また 1930 年代には、画家バルテュスとの出会いから絵画制作に熱中し、アメリカではファッション雑誌『ハーバース・バザー』の表紙を手がけるなど、芸術家として活動の舞台をさらに広げていった。

この展覧会では、ファッションブランド「BA-TSU」の創業者兼デザイナーである故・松本瑠樹氏が築いたコレクションを通して、ポスターの代表作を中心にカッサンドルの仕事を紹介した。

### ■カタログ

規格：29.7 × 18.0 cm、120 頁

内容【テキスト】松本ルキ「ごあいさつ」／岡部昌幸「カッサンドルの栄光と偉業：黄金律の商業・アート・グラフィック・デザインからモード、舞台美術へ」／【図版】／【作品リストと作品解説】大浦周、吉岡知子／【年譜】岩崎達也編／【カッサンドルに関する主な文献】編集：吉岡知子、大浦周 (埼玉県立近代美術館)、川俣高人 (八王子市夢美術館)、市川飛砂 (アートインプレッション)

編集協力：河内晋平、小野崎理香 (株式会社 studio 仕組)

あいさつ英訳：小川紀久子

表紙デザイン：永井一史 (HAKUHODO DESIGN)

図録デザイン：山田政彦

制作：インターパブリカ

発行：アートインプレッション

価格：1,800 円 (税込)

### ■関連事業

- ・講演会「なんというかつこ良さ！魅惑のカッサンドル」  
／講師：岡部昌幸 (帝京大学教授) / 2月26日(日)  
／2階講堂 / 参加者：90名
- ・ミュージアム・コンサート  
①「パリの街角から Bonjour!」 / 出演：田ノ岡三郎  
(アコーディオン) / 3月5日(日) / 館内各所 / 参加者：107名  
②「パリ時間を自在に旅する」 / 出演：山田武彦 (ピアノ)  
／3月11日(土) / 地階センターホール / 参加者：50名  
③「都市のネ」 / 出演：田ノ岡三郎 (アコーディオン)、

平原慎太郎(ダンス)、町田妙子(ダンス) / 3月19日(日)、2回公演/館内各所、2階講堂/参加者:計139名  
・担当学芸員によるギャラリー・トーク/2月19日(日)、3月12日(日) / 吉岡知子/参加者:計76名

## ■広報記録

### <新聞>

- ・「埼玉美術展案内」『埼玉新聞』2017年2月6日
- ・「がいど ガイド ワイド」『日本経済新聞』2017年2月17日
- ・永田晶子「現代デザイン考「カッコいい」の正体「動き」追究したカッサンドル」『毎日新聞』2017年2月28日
- ・増田愛子「1920～30年代、魅了したポスター 仏のカッサンドル代表作を展示」『朝日新聞』埼玉版 2017年3月1日
- ・「さきたま抄」『埼玉新聞』2017年3月2日

### <雑誌・ミニコミ誌等>

- ・「圧巻の構図とスピード感、至高のポスターデザイン」『Pen』2017年3月15日号
- ・坪内祐三「この春、私は3度目のカッサンドル展を見に行く」『週刊ポスト』2017年3月17日号

### <ウェブ>

- ・「グラフィズムの革命」を起こした仏作家・カッサンドル、回顧展に約130点『CINRA.NET』2017年1月20日
- ・「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」『JDN』2017年1月20日
- ・「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」『タイムアウト東京』2017年1月20日
- ・「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」『Tokyo Art Beat』2017年2月1日
- ・「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」『ART AgendA』2017年2月1日
- ・「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」『ART iT』2017年2月3日
- ・『「カッサンドル・ポスター展」をレポート デザイン界に「革命」を起こした時代の寵児』『SPICE』2017年2月17日
- ・「グラフィックデザインの天才「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」」『girlsartalk』2017年3月7日
- ・坂本裕子「いまま鮮烈なインパクトを放つ至高のグラフィック。「カッサンドル・ポスター展」で出会う、デザインの真髄。」『Pen Online』2017年3月8日

- ・「今見られる全国のおすすめ展覧会100」『KATYCOM』2017年3月10日
- <ラジオ>
- ・NHK さいたま「日刊!さいたま〜ず」2017年3月1日

## ■担当後記

- ◆本展は、国内ではおよそ20年ぶりとなるカッサンドルの回顧展で、当館で立ち上がり、八王子市夢美術館に巡回した。本展で紹介した松本瑠樹氏のカッサンドル・コレクションは、保存状態の良好なポスターの代表作および貴重な直筆のポスター原画を含むものとして、世界的に高く評価されている。また、カッサンドルがレイアウトしたデパートや高級ワインのカタログなど、ポスター以外の資料も充実している。
- ◆松本氏の膨大なコレクションから、展覧会構成および当館の展示面積を考慮して出品作品を選定した。作品の選定にあたって、初期の大作である《オ・ビュシュロン》や、鉄道や船舶をモチーフとした《ノール・エクスプレス》《ノルマンディー》などの代表作は欠かせないと考えた。だが、カッサンドルのポスター制作は前半生に集中するため、代表作の紹介のみでは回顧展として片手落ちになってしまう。本展では、カッサンドルが作風を変化させ、絵画やモードへと活動の舞台を広げた1930年代半ば以降にも着目した。展覧会を3章構成とし、第3章では、1930年代半ば以降にシュルレアリスムの影響を受けて制作したポスターや、雑誌『ハーバーズ・バザー』の表紙、繊細なタイポグラフィなど、初期の力強いポスターとは傾向の異なる、カッサンドルの後半生の仕事を紹介した。
- ◆1991年にも、東京都庭園美術館で松本瑠樹氏のコレクションによるカッサンドル展が開催されている。当時の展覧会を担当された帝京大学教授の岡部昌幸氏に、本展の図録の巻頭論文を執筆いただいた。また会期中にも、岡部氏をお招きして講演会を開催した。
- ◆図録の購買率が来場者の20%を超えるという記録的な売り上げとなった。カッサンドルは沢木耕太郎の『深夜特急』(新潮文庫)の表紙に図版が使われるなど、日本での知名度は高いが、1990年代の展覧会図録や遺族が編纂したモノグラフは絶版になり、カッサンドルを紹介する書籍が長らく入手しづらかったためだろう。アンケートでも、来場者の満足度はとても高く、熱心なファンが多いことが窺えた。



《オ・ビュシュロン》展示風景



展示風景



## ■ 出品リスト

### Chapter 1: 街頭の視覚革命—鮮烈なデビュー

No.	《作品名》	制作年	ジャンル / 技法素材
1	《ガール》	1921年	ポスター / リトグラフ、紙
2	《ラ・ランプ・アジュージュ》	1923年	ポスター / リトグラフ、紙
3	《オ・ビュシュロン》	1923年	ポスター / リトグラフ、紙
4	《ル・ヌヴェリスト》	1924年	ポスター / リトグラフ、紙
5	《ピヴォロ》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
6	《グラン＝スポール》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
7	《テュルマック》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
8	《ラントランジジャン》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
9	《レグリス・フローラン》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
10	《シクル・ブリアン》	1925年	ポスター / リトグラフ、紙
11	《オ・ビュシュロン》	1926年	ポスター / リトグラフ、紙
12	《デュコ》	1926年	ポスター / リトグラフ、紙
13	《メゾン・ドレーで》	1926年	ポスター / リトグラフ、紙
14	《エルネスト》	1926年	ポスター / リトグラフ、紙
15	《ゴールデン・クラブ》	1926年	ポスター / リトグラフ、紙
16	《グラン＝スポール》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙

### Chapter 2: ポスターの頂点へ—時代の寵児として

No.	《作品名》	制作年	ジャンル / 技法素材
17	《ノール・エクスプレス》	1927年	ポスター / リトグラフ、紙
18	《エトワール・デュ・ノール》	1927年	ポスター / リトグラフ、紙
19	《SAGA》	1927年	ポスター / リトグラフ、紙
20	《ノール・エクスプレス》	1927年	油彩、板
21	《NE NY TO》	1927年	ポスター / リトグラフ、紙
22	《L.M.S. ベスト・ウエイ》	1928年	ポスター / リトグラフ、紙
23	《L.M.S. ザ・ベスト・ウエイ》	1928年	ポスター / リトグラフ、紙
24	《ロンデン》	1928年	ポスター / リトグラフ、紙
25	《US. ライン》(《ユナイテッド・ステーツ・ライン》習作)	1928年	グワッシュ、紙
26	《ユナイテッド・ステーツ・ライン》	1928年	ポスター / リトグラフ、紙
27	《スタテンダム》	1928年	ポスター / リトグラフ、紙
28	《ラ・ルート・ブルー》	1929年	ポスター / リトグラフ、紙
29	《シュマン・ドゥ・フェール・デュ・ノール》	1929年	ポスター / リトグラフ、紙
30	《ロアゾー・ブルー》	1929年	ポスター / リトグラフ、紙
31	《RAI》	1929年	ポスター / リトグラフ、紙
32	《ドロステ》	1929年	ポスター / オフセット、紙
33	《オヴァ》	1929年	ポスター / リトグラフ、紙
34	『12月5日 聖ニコラウスの夜』	1929年	カタログ
35	《ワゴン＝リ》	1930年	ポスター / リトグラフ、紙
36	《ドクトゥール・シャルピー》原画	1930年	グワッシュ、紙
37	《ドクトゥール・シャルピー》	1930年	ポスター / リトグラフ、紙
38	《ヴェラ・マン》	1930年	ポスター / リトグラフ、紙
39	《リス・シャンティイ》	1930年	ポスター / リトグラフ、紙
40	《世界チャンピオン》	1930年	ポスター / リトグラフ、紙
41	《コート・ダジュール》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
42	《アトランティック》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
43	《ファン・ネレ》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
44	《トリプレックス》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
45	《ミニワット》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
46	《トムソン》原画	1931年	グワッシュ、紙
47	《トムソン》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
48	《カジノ》	1931年	ポスター / リトグラフ、紙
49	看板《カジノ》より	1931年頃	金属、エナメル
50	『ニコラ 高級ワインリスト 1931』	1931年	カタログ
51	「アリアンス・グラフィック社」広告	1931年	印刷物

※ Chapter3 に展示

52 《ワゴン=バー》原画	1932年	カラージュ、グワッシュ、紙
53 《ワゴン=バー》	1932年	ポスター/リトグラフ、オフセット、紙
54 《エール=オリアン》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
55 《スピドレーヌ》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
56 《オランジュ》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
57 《デビスカップ》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
58 《ユニク》	制作：1932年/印刷：1934年	ポスター/リトグラフ、紙
59 《パテ》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
60 《パテ TSF》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
61 《デュボ・デュボン・デュボネ》	1932年	ポスター/リトグラフ、紙
62-1 灰皿《デュボ・デュボン・デュボネ》より		アルミニウム、木
62-2 灰皿《デュボ・デュボン・デュボネ》より		アルミニウム、プラスチック
62-3 帽子《デュボ・デュボン・デュボネ》より		
62-4 缶《デュボ・デュボン・デュボネ》より		
62-5 ロゴ《デュボ・デュボン・デュボネ》より		油彩、綿布
62-6 扇子《デュボ・デュボン・デュボネ》より	1932年頃	
62-7 レターポケット《デュボ・デュボン・デュボネ》より		
62-8 レターポケット《デュボ・デュボン・デュボネ》より		
62-9 封筒《デュボ・デュボン・デュボネ》より		
63 『アシエ』表紙	制作：1932年/印刷：1934年	雑誌 ※ Chapter3 に展示
64 《セルティック》	制作：1934年/印刷：1936年	ポスター/リトグラフ、紙
65 《ノルマンディー》	1935年	ポスター/リトグラフ、紙
66 《デュボネ（水で割って）》原画	1935年	カラージュ、グワッシュ、紙
67 《デュボネ（キナ入りの酒精強化ワイン）》	1935年	ポスター/リトグラフ、紙
68 《ボナル》	1935年	ポスター/リトグラフ、紙
69 瓶《ボナル》より		ガラス
70 《ニコラ》原画	1935年	グワッシュ、紙
71 『ニコラ 高級ワインリスト 1936』	1935年	カタログ
72 《アンキエテード（不安）》（未発行の広告原画）	1935年頃	グワッシュ、紙
73 『スペクタクルは街頭にある』	1935年	書籍 ※ Chapter3 に展示

### Chapter 3: 見果てぬ夢—ポスターを超えて

No.	《作品名》	制作年	ジャンル/技法素材
74	『ギャラリー・ラファイエット』表紙	1928年	カタログ
75	《エル》（未発行のポスター《ギャラリー・ラファイエット》習作）	1928年	油彩、カンヴァス
76	《ル・ジュール》	1933年	ポスター/リトグラフ、紙
77	《ル・キューール》（未発行のポスター原画）	1934年	グワッシュ、紙
78	《ブリュニエ》	1934年	ポスター/リトグラフ、紙
79	《ペルノー・フィス》	制作：1934年/印刷：1935年	ポスター/リトグラフ、紙
80	《パリ》	1935年	ポスター/リトグラフ、紙
81	《イタリア》	1936年	ポスター/リトグラフ、紙
82	《イタリア》	1936年	ポスター/リトグラフ、紙
83	「カッサンドルのポスター展」カタログ表紙、ニューヨーク近代美術館	1936年	カタログ
84-1	『ハーパーズ・バザー』1937年6月号の表紙習作	1937年	グワッシュ、紙
84-2	『ハーパーズ・バザー』1938年12月号の表紙原画	1938年	油彩、紙
85	『ハーパーズ・バザー』表紙		雑誌
85-1	1936年12月号：クリスマス、真冬の旅	1936年	
85-2	1937年2月号：ファブリック、春の予想	1937年	
85-3	1937年5月号：戴冠式、スポーツ、美	1937年	
85-4	1937年6月号：夏のファッション、旅	1937年	
85-5	1937年8月号：カレッジ・ファッションと子ども	1937年	
85-6	1937年11月号：冬のファッション	1937年	
85-7	1937年12月号：クリスマス、リゾート・ファッション	1937年	
85-8	1938年1月号：旅、ミッドシーズンのファッション	1938年	
85-9	1938年3月15日号：パリ・オープニング	1938年	
85-10	1938年7月号：真夏のファッションと娯楽	1938年	
85-11	1938年9月1日号：アメリカのデザイナー	1938年	
85-12	1938年9月15日号：パリ・オープニング、アメリカの靴とストッキング	1938年	
85-13	1938年10月号：美	1938年	
85-14	1939年1月号：クルーズとリゾート・ファッション	1939年	
85-15	1939年3月1日号：アメリカのファッション	1939年	

85-16	1939年4月号：コットンとリンネル	1939年	
85-17	1939年8月号：カレッジ・ファッション	1939年	
85-18	1939年9月15日号：パリ・オープニングに注目	1939年	
85-19	1939年11月号：冬のファッション	1939年	
85-20	1939年12月号：クリスマスギフト、リゾート・ファッション	1939年	
86	《あなたとならばどこへでも》原画	1937年	グワッシュ、紙
87	『フォーチュン』1937年3月号表紙・記事	1937年	雑誌
88	《センセーション》	1937年	ポスター／リトグラフ、紙
89	《モッタ》	1938年	ポスター／リトグラフ、紙
90	「ルシアン・ルロン」広告	1945年	印刷物
91	「ゲラン」広告	1946年	印刷物
92	『オクシダン』1947年12月号表紙	1947年	雑誌
93	『オクシダン』1948年1月号表紙	1948年	雑誌
94	《「カッサンドル1925年から1950年まで展」ポスター》パリ装飾芸術美術館	1950年	ポスター／リトグラフ、紙
95	《ヴェネツィア》	1951年	ポスター／オフセット、紙
96	《フォワール・ドウ・パリ》	1956年	ポスター／リトグラフ、紙
97	《「カッサンドルポスターの画家展」ポスター》ジャコニス・アオ画廊	1966年	ポスター／リトグラフ、紙
98-1	《井戸に落ちた星占い師》	1966年	リトグラフ、紙
98-2	《井戸に落ちた星占い師》	1966年	リトグラフ、紙

※本リストの作品は、すべて バツアートギャラリーコレクション所蔵（但し、下記〔参考出品〕を除く）

[参考出品]

- 『アール・ヴィヴァン』1926年11月15日号 1926年 雑誌 個人蔵
- 『ベニョー体』 1937年 カタログ 個人蔵
- トランプ（エルメス、パリ） 制作：1947-48年頃／印刷：1950年代初頭 個人蔵
- カッサンドル工房がデザインしたレコードジャケット 1956-59年頃 LPレコード 個人蔵
- ・ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」 ヴィルヘルム・フルトヴェングラー（指揮）、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
- ・ドヴォルザーク：交響曲第5（9）番「新世界より」 コンスタンティン・シルヴェストリ（指揮）、フランス国立放送管弦楽団
- ・チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲／メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲  
クリスチャン・フェラス（ヴァイオリン）、コンスタンティン・シルヴェストリ（指揮）、フィルハーモニア管弦楽団
- ・パガニーニ：ヴァイオリン協奏曲第1番ほか  
レオニード・コーガン（ヴァイオリン）、シャルル・ブリュック（指揮）、パリ音楽院管弦楽団、アンドレイ・ムイトニク（ピアノ）
- ・ロシア音楽集（リムスキー＝コルサコフ、ムソルグスキー、ボロディン） アンドレ・クリュイタンス（指揮）、パリ音楽院管弦楽団
- ・アルビノーニ、ヴィヴァルディ、ベルゴレージ：協奏曲集 レナート・ファザーノ（指揮）、ヴィルトゥオーゾ・ディ・ローマ合奏団
- ・エリック・サティ：ピアノ作品集 アルド・チッコリーニ（ピアノ）
- ・シューマン：ピアノ協奏曲／グリーグ：ピアノ協奏曲  
ディヌ・リパッティ（ピアノ）、ヘルベルト・フォン・カラヤン、アルチェオ・ガリエラ（指揮）、フィルハーモニア管弦楽団
- ・リスト：交響詩「前奏曲」／ワーグナー：《ローエングリン》第1幕への前奏曲、《タンホイザー》序曲  
ヴィルヘルム・フルトヴェングラー（指揮）、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 "

---

## ■アーティスト・プロジェクト #2.01 齋藤春佳 飲めないジュースが現実ではないのだとしたら 私たちはこの姿でこの世界にいないだろう

- 会期：2017年2月11日（土）～3月26日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 観覧料：無料
- 入場者数：3,552人
- 広報印刷物：ちらしA4 / デザイン：齋藤春佳
- 担当学芸員：渋谷拓



A4 チラシ

### ■開催趣旨

「アーティスト・プロジェクト#2.0」(以下、AP#2.0)は、平成28年度にスタートした新しい展示事業である。AP#2.0は、従来 MOMAS コレクションで実施されていた「アーティスト・プロジェクト」(以下、AP#1.0)の後継事業である。AP#1.0が収蔵作品との関連・展示室A(常設展示室)内での展示を前提としていたのに対し、AP#2.0では、より広い客層へのアピールやこれまで当館とは縁のなかった優れたアーティストとの関係構築をねらいとして、埼玉という地域、もしくは収蔵作品との関わりがないアーティストも起用できることとし、展示場所も館内外のさまざまなスペースに展開することを前提にした、観覧無料の事業となっている。

記念すべき第1回(#2.01)は、長野県/多摩美術大学出身の新進アーティスト・齋藤春佳の展示となっ

た。トーキョーワンダーウォール賞(2011年)などの受賞歴もあるアーティストであり、平面作品のほか映像や天秤を効果的に用いたインスタレーションでも優れた展示を行っている。

本展では、3面同期のプロジェクション映像を用いた「記憶」をテーマにしたインスタレーションと、展示タイトルにもなっている作品《飲めないジュースが現実ではないのだとしたら 私たちはこの姿でこの世界にいないだろう》(シェル美術賞2016入選作品)を含む平面数点、および映像作品1点による展示となった。

### ■関連事業

- ・アーティスト・トーク 齋藤春佳/2月11日(土) / 参加者：計18名
- ・アーティスト・クロストーク「山についてのドローイング」/3月4日(土) 出演：齋藤春佳、手塚太加丸(美術家)、長谷川新(キュレーター) / 参加者：計41名

### ■広報記録

<新聞>

- ・「さきたま抄(カッサンドル展・AP#2.01)」『埼玉新聞』(朝刊)2017年3月2日
- ・植草学「時空の可能性を求めて 美術家 齋藤春佳さん」『信濃毎日新聞』(朝刊)2017年3月10日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「BT RECOMMEND アーティスト・プロジェクト#2.01 齋藤春佳」『美術手帖2月号』2017年1月17日
- ・「アーティスト・プロジェクト#2.01 齋藤春佳」『武州路3月号』2017年2月20日
- ・「アーティスト・プロジェクト#2.01 齋藤春佳 飲めないジュースが現実ではないのだとしたら私たちはこの姿でこの世界にいないだろう」『たまログ』2017年3月1日
- ・「アーティスト・プロジェクト#2.01 齋藤春佳」『つくりびと』2017年3月1日

<ウェブ>

- ・「埼玉近美で新展示企画がスタート 初回は齋藤春佳をピックアップ」『bitecho』2017年1月23日
- ・「アーティスト・プロジェクト#2.01 齋藤春佳」『Tokyo Art Beat』2017年2月1日
- ・「AP#2.01 齋藤春佳」『The Fifth Sense』2017年2月9日

「齋藤春佳の記憶をめぐる作品に触れあう。『アーティスト・プロジェクト #2.01』 『Art Inn』 2017年3月10日

## ■担当後記

◆今回起用したアーティストである齋藤春佳氏は、在学中から受賞経験があり、多摩美術大学卒業制作展・福沢一郎賞（2011）、トーキョーワンダーウォール賞（2011）、アートオリンピア実行委員会特別賞（2015）など受賞を重ねている実力ある若手アーティストである。

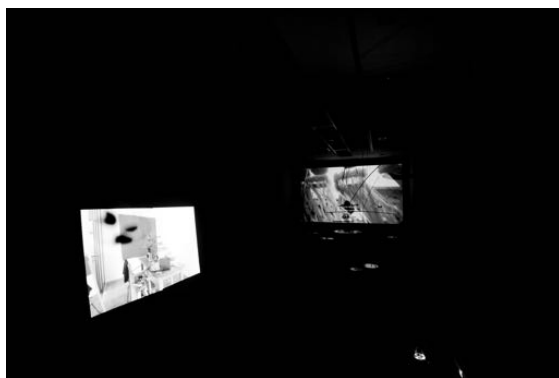
◆担当より、2F 展示室 D 全体を展示スペースとして提示したところ、アーティストから自身のトレードマークである天秤構造と映像を組み合わせたインスタレーションを行いたい旨の提案を受け、インスタレーション+平面作品+映像という展示構成となった。平面作品においても、インスタレーションで用いられている映像においても、モチーフのレベルにおいて、自身の身近でトリヴィアルなモノ・出来事・エピソードが消えてほしくない、という齋藤氏の強い想いや、それらに対する愛おしい気持ちが伝わってくるものだった。

◆こうしたトリヴィアルなモチーフの選択とのギャップを見せるのが、齋藤氏の作品を特徴づける着想の宇宙的なスケールである。齋藤氏は、身近で愛おしいものどもが儂く消えていく理由を、宇宙の構成原理のひとつである重力に見出す。この回避しようもない力は、インスタレーションでは天秤構造によって、絵画作品では事物が世界で流転する様として表現されている。そしてアーティストは、この重力をかいくぐるための手段として、「記憶」や「物事を見る視点の複数性」や「宇宙的な距離」のことに想いを巡らす。一見可愛げな描写方法・モチーフの選択と、その裏で展開されている運命論的な思考とそれでも失われずにいる希望・楽観の落差が、このアーティストの作品の魅力であるように思われた。

◆来場者のカウントはスーパーボールを利用した自己申告としたが、展示の雰囲気と調和したよい方法となった。



会場風景①



会場風景②

## ■出品リスト

ほどけたリボンを拾う	2017年	映像
影の形が山	2017年	映像を用いた インスタレーション
なにもない部屋	2017年	油彩、カンヴァス
あなたが今これを見て いるということは…	2017年	油彩、カンヴァス
飲めないジュースが 現実ではないとしたら 私たちはこの形でこの 世界にいないだろう	2016年	油彩、カンヴァス
落下し続ける花	2015年	アクリル絵具、布、木枠
月側のもくれん	2011年	油彩、カンヴァス

## ■ MOMAS コレクション

MOMAS コレクション（埼玉県立近代美術館常設展）では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を4つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるように構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示して企画性を高めている。

このような姿勢を明確に提示するため、平成20年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMAS コレクション」という名称を用いている。

平成28年度は、展示室の区分を3区分から2区分に変更した。1コーナーあたりの展示面積が拡張されたことによって、ジャンルを限定されない企画性の高い展示や大型の作品のまとまった展示がより可能となった。あわせて、年間を通して西洋の近代絵画を中心に日本の近代絵画を交えながら、コレクションのエッセンスを紹介する「セレクション」を、展示室入口すぐの第1コーナーにあらたに設けた。企画性の高い展示としては、第1期の「re-presentation イメージの継承と創造」、第2期の「『方寸』の時代」、第3期の「絵画と彫刻の間」などがあげられる。また、第2期「埼玉の日本画」、第4期の「特集：古川吉重」、「谷川晃一《Jazz》」ではそれぞれ近年の寄贈作品をお披露目したほか、第3期「橋本真之《果实の中の木もれ陽》これまで／これから」では、会期中に公開制作を行った橋本作品の成長の軌跡を、新収蔵を含めたイメージ・ドローイングや映像を通してたどった。

なお、会期中の5月11日、10月12日には、子育て中のお母さんお父さんを応援するファミリー鑑賞会を開催して好評を博した。

## ■ MOMAS コレクション [ I ]

■会期：2016年4月16日（土）～7月10日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：9,615人

■広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：川村 格夫

■担当学芸員：渋谷拓、五味良子、大浦 周

B1・B2 ポスター



### ■常設展示室

#### 《セレクション：モネとかピカソとか》

当館コレクションを代表する西洋近代絵画の名品の数々を展示した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
	※登録美術品 寄託作品	丸沼芸術の森蔵
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
	※登録美術品 寄託作品	丸沼芸術の森蔵
クロード・モネ	ジュエルニーの積みわら、夕日	1888-1889
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854-1857
	※寄託作品	丸沼芸術の森蔵
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
アンドレ・ドラン	浴女	1925
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ＝クール寺院	1919
ジュール・バスキン	眠る裸女	1928
マルク・シャガール	二つの花束	1925
キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944

## 《re-presentation イメージの継承と創造》

見立て、引用、オマージュなど、美術史の中で受け継がれるイメージの展開を紹介した。

作者名	作品名	制作年
<b>■引用</b>		
林俊衛	積藁	1935
木村直道	ヨハネの首	
ロイ・リキテンスタイン	積みわら7	1969
饜嘔	Mr. & Mrs. Rainbow noppo V-R	1973
饜嘔	Mr. & Mrs. Rainbow debu V-R	1973
柏原えつとむ	これは本である	1970
柏原えつとむ	これは本である	1973
森村泰昌	だぶらかし (ポートレイト D)	1988
澁見一秀	TEXT No.96	2005
徐冰	析余鑑	1986-1987
アンドレアス・M・カウフマン	小さな美術史マシーン	1991-1992
福田美蘭	湖畔	1993
福田美蘭	黄金の雨に変身したジュピターを迎えるダナエ	1994
<b>■パロディ</b>		
木村直道	偏執狂の危機感	1971-1972
木村直道	カーク・ダグラスの世界	1971-1972
重村三雄	永遠の御歳暮	1983
福田繁雄	ミロのヴィーナス (レプリカ)	1984
福田繁雄	円柱鏡に映ったミロのヴィーナス	1984
福田繁雄	凸面鏡に映ったミロのヴィーナス	1984
立石大河亞 (タイガー立石)	レコード・ジャケット『リッキー・ジョーンズ&ザ・シルバード』の複製一式	1978
<b>■転用</b>		
瑛九	作品 IV	1937
瑛九	作品 V	
郭徳俊	オパマと郭	2009
<b>■模写</b>		
倉田弟次郎	楽器を持つ (模写)	
倉田弟次郎	少年写真模写	1890
倉田白羊	二十六聖殉教油絵臨写	1933 頃
小村雪岱	北野天神縁起絵巻 (模写)	1924
※前期展示 (4/5-5/29)		
<b>■継承</b>		
今村紫紅	龍虎	1913
※前期展示 (4/5-5/29)		
土田麦僊	甜瓜図	1931
※後期展示 (5/31-7/10)		
小村雪岱	見立寒山拾得	
※前期展示 (4/5-5/29)		
小村雪岱	見立寒山拾得	
※後期展示 (5/31-7/10)		
笹島喜平	風神	1969
笹島喜平	雷神	1969
増田三男	金彩山樞箱	1976 頃
増田三男	金彩鹿文小壺	1993
熊倉順吉	信楽壺	1976 頃
原清	鈎窠釉紅斑大壺	1983 頃
原清	鈎窠釉草花文大壺	1985 頃
濱野年宏	風神	1987
濱野年宏	雷神	1987
<b>■オマージュ</b>		
ポール・ゴーギャン	川岸の女たち	1893-1894
※前期展示 (4/5-5/29)		
ポール・ゴーギャン	かぐわしき大地	1893-1894
※前期展示 (4/5-5/29)		
ポール・ゴーギャン	宇宙創造	1893-1894
※前期展示 (4/5-5/29)		
ポール・ゴーギャン	かぐわしい、かぐわしい	1893-1894
※後期展示 (5/31-7/10)		
ポール・ゴーギャン	死霊は見ている	1893-1894
※後期展示 (5/31-7/10)		
ポール・ゴーギャン	悪魔は語る	1893-1894
※後期展示 (5/31-7/10)		
木村直道	晩鐘	1967-1971
山本容子	After- 春の目覚め (光の大地)	1996
山本容子	After- かぐわしき大地 (光の大地)	1996
山本容子	After- 火の踊り (光の大地)	1996

山本容子	After- 我々はどこから来たか? (光の大地)	1996
山本容子	After- 我々とは何か? (光の大地)	1996
山本容子	After- 我々はどこへ行くのか? (光の大地)	1996
堀越陽子	とりとめなく、あてどないオルフェウスの散歩	1979

### ■ 担当後記

◆ 芸術において、もの真似や複製は価値の低いまい物なのだろうか。古今東西の文化をふりかえると、過去のイメージを継承し、新たな解釈のもとに創り出された作品に出会うことができる。画家が職人的集団として活動することの多かった中世の西洋や近世までの日本では、手本となる技術はあまり重要視されなかった。“天賦の才能を持つ芸術家の手による、この世でただ一つの創造”というオリジナルに対する信奉が確立したのは、個人の精神を重視する19世紀の西洋のロマン主義の時代である。しかし20世紀の美術界では、オリジナルと複製の間の優劣関係に疑問が呈されるようになった。さらに写真や映像など、オリジナルとコピーの区別のない芸術が生まれたのみならず、“唯一無二の芸術作品”という観念を逆手に取り、量産品を作品として発表したり、著名な作品を意図的にコピーしたりする「剽窃 (アプロプリエーション)」の手法も登場する。

◆ 模倣や複製の芸術上の役割を考えると、多彩な側面がある。たとえば日本には、和歌の「本歌取り」をはじめ、文芸や絵画・工芸、伝統芸能などの世界で、先行するイメージを表現に取り入れ、作品に奥行きを出す引用や見立ての文化が存在する。その系譜は現在でも、文学・音楽のカバーやリメイク、アニメや小説の愛好者が原作の設定を共有し、自分たちの手でその物語を広げる二次創作の世界に受け継がれているといえよう。また、日本画や工芸の世界では、過去の作品を再現する「写し」によって、その技法や精神に迫ることが試みられる。真贋という二者択一の観点では価値の低い複製であっても、生活や学習の中で使われれば、単なるニセモノではなくイミテーションという別の機能が生まれ得る。有名な芸術作品の模倣品も、「せめて似たものを手元に」という人々の願望の中から誕生したことを踏まえると、先人への尊敬と憧れが込められた一種のオマージュとみなすこともできるだろう。

◆ このように模倣や複製とは多面的な性質を備えているが、このテーマ展示では、「引用」「パロディ」「コラージュ」「模写」「継承」「オマージュ」という6つの観点から、さまざまな形でオリジナルのイメージをとらえ直して「再び (re)」示す (present) ことを意図した表現 (representation) に焦点を当てて紹介した。昨今、デザインの独自性や著作権の問題から、“オリジナリティ”に対する関心が高まっている。この小特集を通して、イメージを受け継ぐ文化とその創造性について、改めて見つめるきっかけを提供することを目的とした。現在私たちが暮らす社会に関連する視点から、さまざまな来歴を持つ当館のコレクションに、新たな光を当てる



ことができたのであれば幸いです。

- ◆なお本特集に関連し、自身が手がけた贋作を美術館に寄贈する画家の活動に迫ったドキュメンタリー映画、「美術館を手玉に取った男」（2014年）を上映した。（五味良子）

### 《小村雪岱の版画》

多彩な分野で広く人気を博した小村雪岱の世界を、所蔵の版画作品で紹介した。

作者名	作品名	制作年
小村雪岱	青柳	1941 頃
小村雪岱	落葉	1941 頃
小村雪岱	雪の朝	1941 頃
小村雪岱	湯島夜景	1941 頃
小村雪岱	おせん	1941 頃
小村雪岱	おせん	1941 頃
小村雪岱	おせん	1941 頃
小村雪岱	深見草	1942
小村雪岱	雪兔	1942 頃
小村雪岱	河岸	1942 頃
小村雪岱	筑波	1942 頃
小村雪岱	挿絵校合刷	
小村雪岱	第一東京市立中学校之図	1933
※特別出品 島田安彦コレクション蔵		
装幀・小村雪岱	『富山房』	1932

### ■1階ギャラリー（県展期間を除く）

作者名	作品名	制作年
エミール=アントワヌ・ブールデル	チリーの女	1921
シャルル・デスビオ	ピアンキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ビエールの頭像	1884-1886 頃

### ■広報記録

<新聞>

「MOMAS コレクション第1期」『埼玉新聞』2016年4月20日

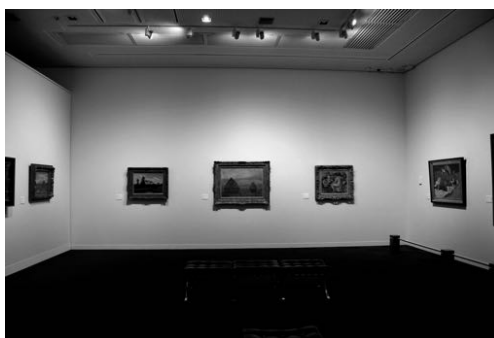
告知：『毎日新聞』2016年5月24日／『毎日新聞』2016年5月31日／『毎日新聞』2016年6月14日／『毎日新聞』2016年6月21日／『毎日新聞』2016年6月28日／『毎日新聞』2016年7月5日

<ミニコミ誌・雑誌等>

告知：『武州路』2016年6月号

<テレビ>

「MOMAS コレクション第1期」『J:COM デイリーニュース』2016年4月21日／「MOMAS コレクション第1期」『テレビ玉ニュース』2016年4月26日



「セレクション：モネとかピカソとか」の展示風景



「re-presentation イメージの継承と創造」の展示風景

## ■MOMASコレクション[II]

■会期：2016年7月16日（土）～10月16日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：12,165人

■広報印刷物：ポスター B1・B2、フライヤー（作品図版各100部、北浦和駅に掲出）／デザイン：川村格夫

■担当学芸員：前山裕司、嶋原悠、吉岡知子

B1・B2 ポスター



### ■1F 展示室 A

#### 《セレクション：ユトリロとか佐伯祐とか》

エコール・ド・パリの画家ユトリロ、パリの街を描いた佐伯祐など、西洋の名画に日本近代の名画を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ジャン・バティスト・カミーユ・コロー	砂丘にて—ハーグの森の想い出	1869
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
※登録美術品 寄託作品	丸沼芸術の森蔵	
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854-1857
※寄託作品	丸沼芸術の森蔵	
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
ビョートル・コンチャロフスキー	グルジア軍道	1927
斎藤豊作	フランス風景 I	1910 頃
武内鶴之助	アラシの夕	1912
森田恒友	ヴェトゥイユの春 III	1915
森田恒友	西欧風景	
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ ニクール寺院	1919
ジュール・バスキン	眠る裸女	1928
田中保	サン・ベネゼ橋	1928 頃
エルミーヌ・ダヴィッド	パルマ・デ・マリオルカ	1928

マルク・シャガール	二つの花束	1925
佐伯祐三	門と広告	1925
山路真護	パリの環状高架線	1933

#### 《埼玉の日本画—近代から現代へ》

橋本雅邦、小茂田青樹、関根将雄、三尾雄治（彰藍）、大野逸男など、近代から現代まで県ゆかりの日本画家の作品を紹介した。

#### 前期展示 (7/16-8/28)

作者名	作品名	制作年
橋本雅邦	長江晴楼図	1895 頃
奥原晴湖	夏景山水	1891 頃
北沢楽天	ぼんおどり	
森田恒友	初夏の水辺	
小茂田青樹	麦踏	1919
丸木位里	紅梅	1967
四方田草炎	霧積山中黒滝	1950
細田竹	あかり	1933

#### 後期展示 (8/30-10/16)

作者名	作品名	制作年
橋本雅邦	月下群雁図	
奥原晴湖	仙境群鶴	1905
森田恒友	山村の麦刈	1920 頃
江森天寿	桃	
小村雪岱	美人立姿	1934 頃
石川梅子	菊	1907
小茂田青樹	春の夜	1930
小茂田青樹	鳴鶴	1930

#### 全期間展示

作者名	作品名	制作年
橋本雅邦	大和山水図巻	
森田恒友	蔬菜帖	1931
小茂田青樹	写生帳	1930-1931 頃
間宮正	平林寺所見	1974
加藤勝重	皎	1984
今野忠一	北陸	1972
関根将雄	瓦職	1970
大野百樹	八海山	1985
三尾雄治（彰藍）	森	1954
伊藤彬	秋思	1982
大野逸男	川への道	1996
内藤五琅	煙雨	2005

### ■担当後記

◆本コーナーでは、明治期から現代にいたるまで、埼玉ゆかりの日本画家の作品を紹介した。今年度から、展示室の区画を3分割から2分割に変更したことで、第2コーナーにより広いスペースを確保することができた。それによって額装の日本画作品のまとまった展示も可能となり、戦後の日本画の流れを通観できることとなった。

◆展示では、橋本雅邦や小茂田青樹をはじめとする近代日本画を代表する作家の作品から、関根将雄や今野忠一など戦後の作家の作品、現在活躍している大野百樹、大野逸男、伊藤彬、内藤五琅などの作品を通して日本画の歩みをたどった。日本画の分野に限っても多くの画家を輩出してきた 埼

玉島の層の厚みをご覧いただくとともに、ひとくちに日本画といっても様々な画題を幅広い技法や素材、大きさで描いた表現の多様さは、日本画に親しみを感じていただける機会となったのではないかと思います。

◆今回の展示では、近年新収蔵された、森田恒友2点、三尾雄治(彰藍)、大野逸男の作品を初めて公開した。恒友の作品の内1点は、過去に企画展「森田恒友とその時代」(1991年)で借用した作品で、展覧会の成果が作品収集につながったという点でも意義深い。大野逸男の作品は院展出品作。寄贈にあたって何度か作家のアトリエを訪れ、制作の現場を拝見したりお話を伺ったりすることができ、感慨深かった。三尾雄治(彰藍)の作品は平成25年度にご遺族からご寄贈いただいた作品で、画面の修復を経てのお披露目となった。今後も、県内作家の調査を進めつつ、多彩な作家や作品を紹介する機会を設けていきたい。(鳴原悠)

#### ≪『方寸』の時代≫

明治後期の美術文芸雑誌『方寸』の世界を、森田恒友、倉田白羊ら雑誌に関わった作家たちの挿絵原画や資料、同時代の作品を通して紹介した。

作者名	作品名	制作年
森田恒友	緑色と肉体	1909
倉田白羊	小笠原島	1914
倉田白羊	『方寸』第3巻第1号《休息》原画	1908
倉田白羊	『方寸』第3巻第6号《門跡裏》原画	1908
倉田白羊	『明治42年方寸画曆』6月原画	1908
倉田白羊	『明治42年方寸画曆』8月原画	1908
倉田白羊	『明治43年方寸画曆』4月原画	1909
倉田白羊	『明治43年方寸画曆』9月原画	1909
倉田白羊	『方寸』表紙図案原画	1909
倉田白羊	『方寸』第4巻第1号《新年》原画	1909
山本鼎	『方寸』第4巻第2号《春駒》原画	1909
山本鼎	『方寸』第4巻第3号《雪の日》原画	1909
坂本繁二郎	『明治43年方寸画曆』10月原画	1909
	『方寸』第3巻第1号	1909
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『方寸』第3巻第2号	1909
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『方寸』第4巻第1号	1910
	『方寸』第4巻第2号	1910
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『方寸』第4巻第8号	1910
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『明治42年方寸画曆』(復刻版)	1909/1973
	『明治43年方寸画曆』(復刻版)	1910/1973
	『屋上庭園』第1号(復刻版)	1909/1959
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『屋上庭園』第2号	1910
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『スバル』第10号	1909
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『スバル』第2年第5号	1910
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『文章世界』第3巻第4号	1908
※特別出品	さいたま文学館蔵	
	『みつゑ』第26号	1907
	『みつゑ』第27号	1907

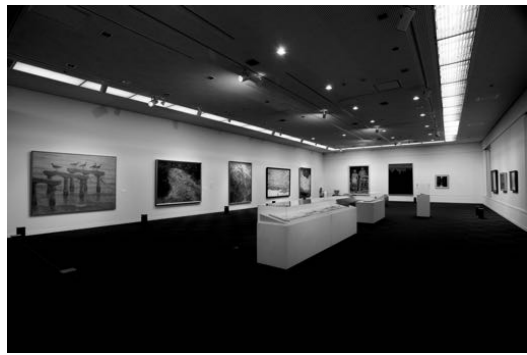
#### ■広報記録

<新聞>

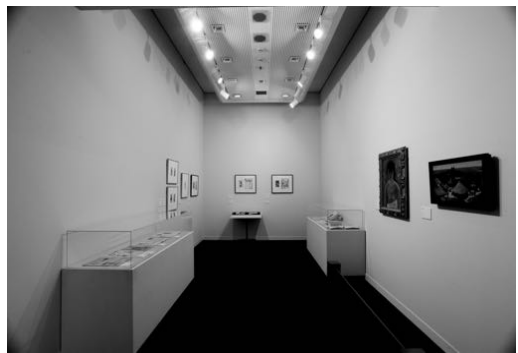
・告知:『読売新聞』2016年9月20日夕刊/『読売新聞』2016年10月11日夕刊

<ミニコミ誌、雑誌等>

・埼玉県立近代美術館の収蔵品展「MOMAS コレクション 第2期」『ラーラぱど』2016年9月1日  
 ・告知:『武州路』2016年6月20日/『武州路』2016年7月20日/『武州路』2016年8月20日



「埼玉の日本画—近代から現代へ」展示風景



「『方寸』の時代」展示風景

#### ■追悼 塗師祥一郎

会期:平成27年10月4日(火)～16日(日)

会場:1F ギャラリー(吹抜け回り)

2016(平成28)年9月21日に逝去した洋画家・塗師祥一郎氏に哀悼の意を表し、1F吹抜け回りで追悼展示を行った。第29回日展文部大臣賞を受賞した代表作《山村》や、平成27年度第1期MOMASコレクションで開催した「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」に出品されその後田中徳兵衛氏より当館に寄贈された「未

来に遺したい埼玉の風景」のシリーズなど、近年収蔵した作品を中心に17点を展示し、日本芸術院会員であり、埼玉県美術家協会会長として長く県の美術文化の振興にも尽力してきた塗師氏の画業を偲んだ。

作者名	作品名	制作年
塗師祥一郎	雪の大宮公園	1974
塗師祥一郎	山村	1997
塗師祥一郎	雪後の武蔵野	2013
塗師祥一郎	雪の荒川河原	2013
塗師祥一郎	雪の名栗川	2013
塗師祥一郎	芝川 河口	2014
塗師祥一郎	春の通船堀	2014
塗師祥一郎	芽吹き狭山湖	2014
塗師祥一郎	御成橋とボビー島	2014
塗師祥一郎	晩秋の民家	2014
塗師祥一郎	桜咲く権現堂	2014
塗師祥一郎	丸墓山古墳と古代蓮	2014
塗師祥一郎	錦秋の間瀬湖	2014
塗師祥一郎	秩父路	2014
塗師祥一郎	富士見ゆ(入間川)	2015
塗師祥一郎	冬の利根河原	2015
塗師祥一郎	冬の喜多院	2015



「追悼 塗師祥一郎」展示風景

## ■ MOMASコレクション [ III ]

■会期：2016年10月22日(土)～2017年1月15日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：8,946人

■広報印刷物：ポスター B1・B2、フライヤー (作品図版各100部、北浦和駅に掲出) / デザイン：川村格夫

■担当学芸員：嶋原 悠、渋谷拓



B1・B2 ポスター

### ■常設展示室

#### 《セレクション：デルヴォーとか瑛九とか》

シュルレアリスムの画家ポール・デルヴォーをはじめとする西洋近代の作品の数々に、日本近代の画家の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854 - 1857
※寄託作品	丸沼芸術の森蔵	
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
田中保	猫と花	1920 - 1940
マルク・シャガール	二つの花束	1925

キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
ジョアン・ミロ	詩画集『手づくり諺』より	1970
林俊衛	西洋婦人	1923
古賀春江	コンポジション	1930 頃
ポール・デルヴォー	森	1948
瑛九	コンポジション A	1948
瑛九	花	1956
駒井哲郎	『人それと呼んで反歌という』表紙	1965

### 《絵画と彫刻の間》

絵画と彫刻の間には、果たして本当に明確な線引きが存在するのか、収蔵品の展示を通して検証した。

作者名	作品名	制作年
須田昶太	作品 1962h	1962
須田昶太	私の曼陀羅 a	1964
須田昶太	不協雑音	1955
上田薫	ジュリーにスプーン C	1990
草間彌生	スーツケース	1966
草間彌生	脚立	1966
草間彌生	A.Q. INFINITY NETS	1960
湯原和夫	無題 No.6-69	1969
伊藤隆康	無限空間 2 - 83	1983
小島喜八郎	風景 741	1974
最上壽之	パッドラネコミャオー	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻 (パッドラネコミャオー) 等のためのドローイング	1979
荒川修作	彫刻する No.2	1962
※寄託作品	ARAKAWA + GINS Tokyo Office 蔵	
彦坂尚嘉	P.W.P.81 (野菜畑)	1985
※寄託作品	榎本光治氏蔵	
林範親	9:36A.M. (ブラインド)	1981 - 1982
大浦一志	杉並区阿佐谷南3丁目23-13 ~ 菅賢岳「再立」	1995
金昌永	SAND PLAY 8810	1988
野口敏宏	Smell Roots. 1986	1986

### 《橋本真之の《果実の中の木もれ陽》これまで/これから》

11月に公開制作による増殖を行った橋本真之の作品の成長の軌跡を、作家のイメージ・ドローイングを通してたどった。

作者名	作品名	制作年
橋本真之	作品 211 発生の頃	1991 - 1992
橋本真之	《果実の中の木もれ陽》制作スケッチ群	2003 - 2016
橋本真之	《果実の中の木もれ陽》増殖予想図	2016
高橋孝一	公開制作中の橋本真之	1998
—	《果実の中の木もれ陽》の公開制作 (映像) 1998, 2000	

### ■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
橋本真之	作品 115 運動膜 (内的な水辺)	1978 - 1983
橋本真之	《果実の中の木もれ陽》制作スケッチ群	1985 - 2003
橋本真之	《果実の中の木もれ陽》制作スケッチ群	2003 - 2016

### ■担当後記

◆上尾市在住の美術家・橋本真之(1947-)が当館で継続的に取り組んでいる作品/プロジェクトが、《果実の中の木もれ陽》(1985-)である。北浦和公園内の植込みにたたく有機的で力強いかたちの作品は、当館のファンや北浦和公園の利用者にはなじみの深いものとなっている。16年ぶりの公開制作にあわせ、この

コーナーでは、ドローイング、写真、映像をまじえて、《果実の中の木もれ陽》の成長の軌跡を紹介した。本事業は、「さいたまトリエンナーレ パートナーシップ プロゴ事業」として実施した。

◆橋本の作品を特徴づけているのは、造形をめぐる深い思考に裏づけられた「成長する作品」という独創的なコンセプトである。このコンセプトを作家は「増殖」と言い表している。まるで植物が旺盛な生命力で繁茂するかのように、作品が独自の生命力を持って自律的に伸びていく…こうした作品の「増殖」を念頭に置いた造形活動／プロジェクトは、東京国立近代美術館所蔵の代表作《果樹園—果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実》(1978-88)として結実した。他方、当館の作品／プロジェクトは、「周囲の植栽と呼応しながら成長・増殖する」という側面がより強く打ち出されている点、「増殖」というコンセプトを高く評価し、作家の制作活動に寄り添いながら継続的に購入が続けられてきたという点において、東京国立近代美術館の作品とも異なる、優れた作品となっている。

◆展示では、1996年の最初の設置や1998年、2000年の2回の増殖の経過や作業の様子を写真や映像でたどった。また1996年の初回購入に先立ち、1985年の「現代美術の祭典」において《秋の陽の悦楽に》というタイトルでなされた北浦和公園での展示や、1987年に木の膜にかかるかたちで一部が再び展示された様子も貴重な写真で紹介した。2000年以降、次の増殖を見据えて描かれたイメージ・スケッチを作者からご寄贈いただいた他、近年寄贈の2点の橋本作品を展示室と吹抜けに展示し、公開制作に花を添えた。

◆公開制作は、「橋本真之《果実の中の木もれ陽》公開制作@北浦和公園」と題し、やはり「さいたまトリエンナーレパートナーシッププロゴ事業」として、11月15日～30日の日程で実施した。またこれに先立つ11月5日・6日は、橋本氏のアシスタントとして、彫刻ボランティアが①アトリエから北浦和公園への作品搬入のヘルプ、②初期設置のヘルプ、を行った。公開制作では、見慣れた作品がさらに大きく成長するための作業に足を止めて見入るひとが多かったのが印象的だった。橋本氏には、冬が間近に迫った時期に、屋外で困難な大仕事をさせていただき、素晴らしい成果を上げていただいた。

◆今回の公開制作により、橋本真之氏は平成28年度文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞された。橋本氏の栄誉に当館が寄与することができたことは、美術館

スタッフ一同にとって、本当に光栄で喜ばしいことであった。公開制作実施と芸術選奨受賞を記念し、当館ニュース「zocalo」の号外として、橋本真之《果実の中の木もれ陽》特集号を発行することができた。

(渋谷拓)

## ■広報記録

<新聞>

・菊地正志「文化庁16年度芸術選奨 橋本氏 文科大臣賞」『埼玉新聞』2017年3月9日

<雑誌、ミニコミ誌等>

・告知：『武州路』2016年11月号／『武州路』2016年12月号

<ウェブ>

・ARTLOGUE「平成28年度 芸術選奨受賞者紹介」2017年3月12日



「絵画と彫刻の間」の展示風景



「橋本真之の《果実の中の木もれ陽》これまで／これから」の展示風景

## ■ MOMAS コレクション [ IV ]

■会期：2017年1月21日（土）～4月16日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：9,145人

■広報印刷物：ポスター B1・B2、フライヤー（作品図版各100部、北浦和駅に掲出）／デザイン：川村格夫

■担当学芸員：渋谷拓、嶋原悠、大浦周、平野到

# MOMAS COLLECTION

The Museum of Modern Art, Saitama

## MOMASコレクション 第4期

埼玉県立近代美術館 1F展示室

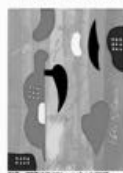
2017.1.21 sat - 2017.4.16 sun 10:00-17:30 東京圏への入場料は17.00円です

※本展覧会には、本展覧会に併催の「特別展」が同時開催されています。詳しくは本展覧会のパンフレットをご覧ください。また、本展覧会には、本展覧会に併催の「特別展」が同時開催されています。詳しくは本展覧会のパンフレットをご覧ください。

### セレクション：フジタとかパスキンとか



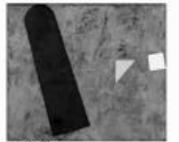
### 谷川晃一 (Jazz)



### 近代の日本画



### 【特集】古川吉重



埼玉県立近代美術館

B1・B2 ポスター

## ■ 常設展示室

### 《セレクション：フジタとかパスキンとか》

エコール・ド・パリの画家ジュール・パスキンやレオナルド・フジタをはじめとする西洋近代の作品の数々に、日本近代の画家の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
※登録美術品 寄託作品	丸沼芸術の森蔵	
クロード・モネ	ジュヴェルニーの積みわら、夕日	1888 - 1889
森田恒友	少女 (2)	1914
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレイクール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
斎藤与里	雪の日の天王寺公園	1925
田中保	黒いドレスの腰かけている女	1920-1930
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
寺内萬治郎	単衣	1948
キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927

キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
林俊衛	西洋風景	1921 頃
佐伯祐三	門と広告	1925
高田誠	野尻湖と妙高	1940
斎藤政一	雪の歙山	1973
寺井力三郎	寝る子	1967

## 《近代の日本画》

横山大観、橋本雅邦、川合玉堂、小村雪岱など、コレクションから選りすぐった近代日本画の名品を紹介した。

### 前期展示 (1/21-3/5)

作者名	作品名	制作年
橋本雅邦	花鳥図	
横山大観	白梅	1927 頃
横山大観	仙果	1934 頃
鏑木清方	慶長風俗	1926 頃
森田恒友	やどり木	1917 頃
小村雪岱	春告鳥	1932 頃
※寄託作品 個人蔵		
奥村土牛	鴛鴦	1935
堂本印象	鳥言長者草	1922
田中楽山子	雪旦	1955 頃
佐藤太清	宿雪	1958

### 後期展示 (3/7-4/16)

作者名	作品名	制作年
狩野芳崖	楼閣山水図	1878-1886
菊池芳文	山桜小禽	
横山大観	臘夜	1924 頃
川合玉堂	山村春色	1913 頃
吉川霊華	羅浮僊女	1928
結城素明	春景山水	1921-1926
松林桂月	深峡孤帆図	1909-1925
鏑木清方	梅月相思	1940 頃
川村曼舟	春宵	
橋本閑雪	峽雲夜雨	
山村耕花	雀跳瞬間	1933

## 《特集：古川吉重》

1960年代に渡米しニューヨークで制作活動を行った画家・古川吉重。平成27年度に寄贈された作品を中心に画家の作風の変遷をたどった。

作者名	作品名	制作年
古川吉重	空白	1963
古川吉重	FIELD-12	1970 頃
古川吉重	無題	1974
古川吉重	L3-5	1986
古川吉重	L8-4	1990
古川吉重	L20-3 ホワイトイエロー	2006

## ■ 担当後記

◆福岡市に生まれた古川吉重(1921-2008)は、東京美術学校で油彩画を学び、戦後、1949年の独立美術協会展で最高賞の独立美術賞を受賞し脚光を浴びた。個展や読売アンデパンダン展などで精力的に発表を重ねたが、1963年、ニューヨークで開催された世界美術家会議にオブザーバーとして参加したことを機に、アメリカへの移住を決意する。晩年、相模原市にアト

リエを構えるまでニューヨークを拠点に独自の抽象を追求し続け、当地でも確かな評価を獲得した。

◆当館では古川の代表作ともいえる作品2点を作家本人からの寄贈により収蔵している。そのうちの1点、《無題》は、生のカンヴァスを裂いて襷を作り、ホチキスでゴムシートと縫い合わせた作品である。複雑に寄せられた襷が生み出す陰影、うっすらと表面に粉を吹くゴムシートの質感など、素材自体の表情を生かしたミニマルな構成が試みられている。

◆80年代に油彩へと回帰した古川は、いくつもの色を繰り返し塗り重ねた痕跡を確かに感じさせる背景に、不思議な湾曲やふくらみをもった原色の幾何学的形象が浮遊するような、独自のスタイルを展開していく。《L3-5》や《L8-4》はその最も良質な成果と言える。

◆平成27年度にご遺族から4点の作品を寄贈いただいた。これにより、既収蔵の2点をあわせ、渡米から最晩年まで古川作品の変遷を概観することが可能になった。美術の中心となったニューヨークで次々に生まれる新しい表現に大いに刺激を受けながら、地と図、色彩と形態、平面と空間などの造形的問題に正面から取り組み、独特の叙情性を感じさせるスタイルに到達した古川の画業のエッセンスを紹介できたことと思う。

◆会期中、古川のご子息でギャラリストの石橋高基氏をゲストにお招きし、スペシャルトークを実施した。古川制作の様子やニューヨーク生活のエピソードから、近年のアートフェアや展覧会での古川作品への関心の高まりの様子まで、幅広くお話をうかがった。

(大浦周)

## 《谷川晃一《Jazz》》

画家・美術評論家・展覧会企画者・絵本作家として活躍する谷川晃一。近年寄贈された版画集《Jazz》12点と関連資料を紹介した。

作者名	作品名	制作年
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《Jazz in Paris》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《雨の日》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《スイランの夏》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《ウォリスの海》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《アリゾナのカフェ》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《窓辺のペーパームーン》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《青い人》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《タオスの馬》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《絹の月》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《高原の夏》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《秋の公園》	2008
谷川晃一	版画集『JAZZ』より《白い海岸にて》	2008

## ■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール=アントワヌ=ブルデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	1929
オーギュスト=ロダン	ウスタッシュ=ド=サン=ビエールの頭像	1884-1886頃

## ■広報記録

<新聞>

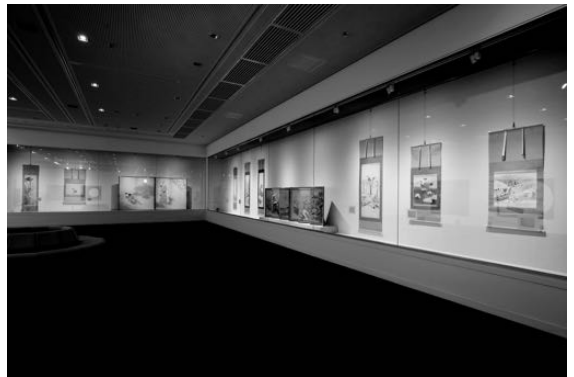
・江田崇「大観など巨匠の作品 県立近代美術館「MOMAS」展第4期」『埼玉新聞』2017年1月27日

<雑誌、ミニコミ誌>

・告知：『武州路』2017年1月号／『武州路』2017年2月号／『武州路』2017年3月号



「特集：古川吉重」展示風景



「近代の日本画」展示風景



「谷川晃一」展示風景



---

## ■サンデー・トーク

毎月1回、原則日曜日の15時から常設展示室で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMAS コレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度のトークを行うもの。平成27年度は、以下のように計12回実施した。参加者:計248名。

- 4月24日 アンドレアス・M. カウフマン  
《小さな美術史マシーン》  
担当学芸員:五味良子/参加者:24名。
- 5月8日 オーギュスト・ルノワール《三人の浴女》  
担当学芸員:渋谷拓/参加者:28名。
- 6月12日 小村雪岱《筑波》  
担当学芸員:大越久子/参加者:13名。
- 7月31日 倉田白羊《『方寸』第4巻第1号表紙図案原画》  
担当学芸員:嶋原悠/参加者:15名。
- 8月21日 山路真護《パリの環状高架線》  
担当学芸員:前山裕司/参加者:18名。
- 9月4日 森田恒友《ヴェトゥイユの春Ⅲ》  
担当学芸員:渋谷拓/参加者:18名。
- 10月16日 小茂田青樹《鳴鶏》  
担当学芸員:吉岡知子/参加者:15名。
- 11月6日 瑛九《花》  
担当学芸員:梅津元/参加者:16名。
- 12月18日 モーリス・ドニ《シヤグマユリの聖母子》  
担当学芸員:平野到/参加者:21名。
- 1月15日 大浦一志  
《杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13～普賢岳「再立」》  
担当学芸員:中村誠/参加者:19名。
- 2月5日 堂本印象《鳥言長者草》  
担当学芸員:嶋原悠/参加者:18名。
- 3月20日 「スペシャル・トーク『古川吉重を語る』」  
講師:石橋高基、真島明子氏  
担当学芸員:大浦周/参加者:43名。

## ■ファミリー鑑賞会

赤ちゃんや小さいお子様連れのパパやママがゆっくり気兼ねなく美術館を楽しめるきっかけとなるよう、MOMASコレクションをスタッフが案内する。また、飽きてしまいがちなお子様のために、スタッフが一緒に遊ぶコーナーを展示室内に設置している。

### ■開催実績

平成 28 年度

① 5月11日(水) 11:00～12:00

参加者数：4組8名

参加者の感想(抜粋)

- ・館の方が解説してくれ、楽しむことができた。また参加したい。

② 10月12日(水) 11:00～12:00

参加者数：27組56名

参加者の感想(抜粋)

- ・本当に行って良かった。子供を連れて静かな場所は足が遠のいてしまうが、久しぶりに絵に触れられて充実した。
- ・小さな子供がいると、博物館は行けても美術館は難しかったりする。このような機会は大変ありがたい。

(参考) 平成 24 年度～平成 27 年度

平成 27 年度

① 5月13日(水) 11:00～12:00

参加者数：14組29名

② 11月26日(木) 11:00～12:00

参加者数：10組22名

平成 26 年度

① 5月15日(木) 11:00～12:00

参加者数：12組26名

平成 25 年度

① 7月19日(金) 10:15～11:15

参加者数：10組20名

(平成 25・26 年度後期は大規模改修のため休館)

### ■担当後記

◆ 4年目を迎えたファミリー鑑賞会も、今年度は合計31組64名という多くの方々に参加いただけた。しかし、子供を連れての鑑賞をためらう方はまだまだ多い。今後も気兼ねなく鑑賞できる機会の提供を充実していきたい。

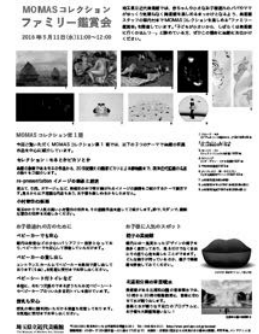
(田沼康雄)



チラシ(平成28年5月11日/表・裏)



チラシ(平成28年10月12日/表・裏)



作品解説の様子



子どもの暇つぶしスペースの様子

## ■収集事業

平成13年度以降、厳しい財政状況により年次の作品購入ができない状況が続いていたが、各関係課所のご理解を得られたことにより、平成28年度末に、美術資料取得基金の残高を3億円に戻すことができた。優れた新しい美術資料を適切に取得していく道が再び開けたことは、美術館としてこの数年来で、特に喜ばしい大きな出来事である。

加えて、平成28年度は、県内在住の鍛金作家・橋本真之氏の作品《果実の中の木もれ陽》(1985～)の第3回目の増殖(既存の作品への新しい部分の付加のことを指す)を実施した。この「増殖」は公開制作として実施されたが、この事業の功績により、橋本氏が平成28年度文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞する荣誉に輝いている。橋本氏の受賞は、当館が橋本氏の作品と哲学を評価しながら、これまで都合4回にわたって作品を購入し、「増殖」を実現させてきた当館の荣誉でもあり、美術作品取得基金の社会的意義を再確認できるニュースとなった。

寄贈としては、県ゆかりの作家・斎藤豊作の極めて状態の良い油彩の大作《初冬の朝》と、平成28年度に開催した企画展「竹岡雄二展—台座から空間へ—」の出品作品2点の収蔵が特筆される。また、瑛九とゆかりの深い作家・山田光春のガラス絵の収蔵も美術資料選考評価委員から高い評価を得ている。いずれのケースも、当館における過去の企画展が縁となった寄贈であり、展覧会活動が収集にも大きく寄与することが改めて認識された。

## ■平成28年度収集作品数と収蔵作品総数

平成29年3月31日現在

区分	平成28年度収集点数			収蔵作品 総数
	購入	寄贈	保管転換	
日本画	0	0	0	449
油彩画ほか	0	5	0	639
ドローイング	0	6	0	622
版画	0	0	0	1,040
写真	0	0	0	204
平面その他	0	0	0	16
彫刻	1	2	0	193
立体その他	0	0	0	11
工芸	0	0	0	49
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	5	0	140
資料Ⅱ	0	0	0	31
合計	1	18	0	3,425

## ■新収蔵作品一覧

1

斎藤豊作

SAITO Toyosaku

初冬の朝

Early Winter Morning

大正3 油彩、カンヴァス

1914 Oil on canvas

65.0 × 162.0cm

右下に署名「TOYO. SAITO」

平成28年度三機工業株式会社代表取締役執行役 長谷川勉氏寄贈

0-0635



2

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

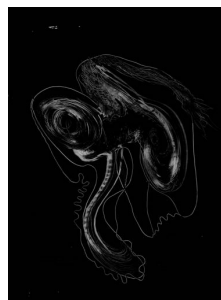
昭和11-12年頃 油彩、ガラス(ガラス絵)

c.1936-37 Oil on glass

30.5 × 40.6 cm

平成28年度山田光一氏寄贈

0-0636



3

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

昭和26年 油彩、ガラス(ガラス絵)

1951 Oil on glass

35.5 × 46.0cm

左下に署名・年記「Coshun 51」

平成28年度山田光一氏寄贈

0-0637



4

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

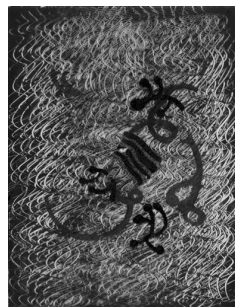
昭和26年頃 油彩、ガラス(ガラス絵)

c.1951 Oil on glass

35.4 × 45.6cm

平成28年度山田光一氏寄贈

0-0638



5

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

昭和25-35年頃 油彩、ガラス(ガラス絵)

1950s Oil on glass

20.0 × 30.5 cm

平成28年度山田光一氏寄贈

0-0639



6

斎藤豊作

SAITO Toyosaku

鯉 (装飾画の下絵)

Carp (Sketch for Decorative Painting)

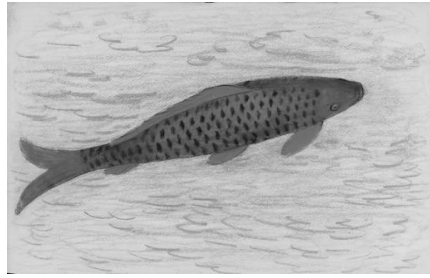
制作年不詳 パステル、紙

Date unknown Pastel on paper

31.2 × 48.0cm

平成 28 年度井原信一氏寄贈

D-0617



7

竹岡雄二

TAKEOKA Yuji

《プロトタイプII-背面補強》のプラン

Plan for "Prototype II - Backup"

平成 3 年 水彩、鉛筆、紙

1991 Watercolor, pencil on paper

35.0 × 50.0cm

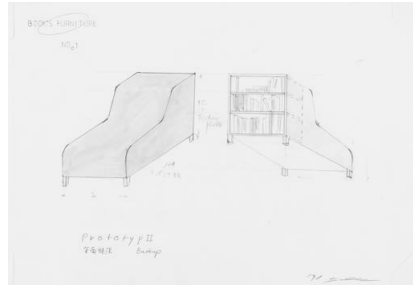
右下に署名・年記「'91 Y Takeoka」、

左下に「Prototyp II 背面補強 Backup」、

左上に「BOOK'S FURNITURE No.1」

平成 28 年度寄贈

D-0622



8

橋本真之

HASHIMOTO Masayuki

《果実の中の木もれ陽》制作スケッチ群 (一括 34 点)

Sketches for "Sunlight Penetrating Fruit" (34 items)

平成 15 ~ 28 年

2003-2016

平成 28 年度寄贈

D-0618

(1)

平成 15 年頃 アクリル絵具、コラーージュ、紙

c.2003 Acrylic, collage on paper

左上に題名「果実の中の木もれ陽」、右上に署名「真之」

130.0 × 90.5 cm



(2)

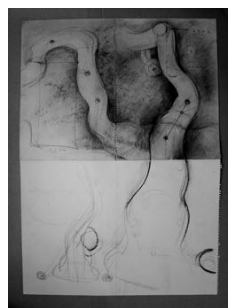
平成 15 年頃 アクリル絵具、紙

c.2003 Acrylic on paper

130.0 × 90.0 cm



(3)  
平成 16 年 鉛筆、色鉛筆、紙  
2004 Pencil, color pencil on paper  
65.1 × 46.6 cm



(4)  
平成 16 年 色鉛筆、紙  
2004 Color pencil on paper  
33.3 × 48.0cm



(5)  
平成 23 年 木炭、ボード  
2011 Charcoal on board  
91.5 × 90.0cm  
右下に署名・年記「2011 真之」



(6)  
平成 23 年 木炭、ボード  
2011 Charcoal on board  
91.5 × 45.0cm  
右下に署名「真之」



(7)  
平成 23 年 アクリル絵具、ボードに貼り付けた紙  
2011 Acrylic on paper mounted on board  
55.0 × 77.0cm  
左下に署名・年記「2011 真之」



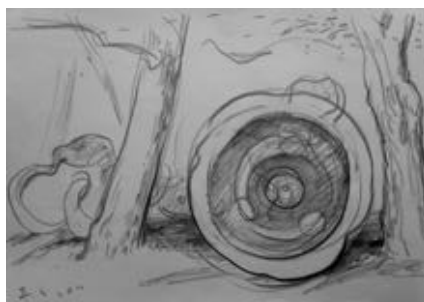
(8)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
右下に署名・年記「2011 真之」



(9)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
18.2 × 25.6cm  
左下に署名・年記「真之 2011」



(10)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
18.2 × 25.6cm  
右上に署名・年記「2011 真之」



(11)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
18.2 × 25.6cm  
右下に署名・年記「2011 真之」



(12)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
右下に署名・年記「2011 真之」



(13)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
左下に署名・年記「2011 真之」



(14)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
左下に署名・年記「2011 真之」



(15)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
27.2 × 17.5cm  
右下に署名・年記「2011 真之」



(16)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
17.5 × 25.0cm  
左下に署名・年記「真之 2011」



(17)

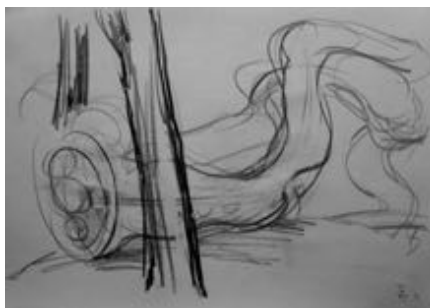
平成 23 年 パステル、紙  
2011 Pastel on paper  
25.7 × 20.5cm  
右下に署名・年記「2011 真之」





(18)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
18.2 × 25.6cm  
右下に署名「真之」



(19)

平成 23 年 鉛筆、紙  
2011 Pencil on paper  
33.1 × 23.7cm  
右下に署名「真之」



(20)

平成 24 年 鉛筆、紙  
2012 Pencil on paper  
25.0 × 35.0cm  
右下に署名・年記「2012 真之」



(21)

平成 25 年 アクリル絵具、木炭、ボード  
2013 Acrylic, charcoal on board  
91.5 × 45.0cm  
右下に署名・年記「13.3 真之」



(22)

平成 25 年 アクリル絵具、木炭、紙  
2013 Acrylic, charcoal on board  
29.8 × 21.0cm  
右下に署名・年記「13.3 真之」



(23)

平成 25 年 アクリル絵具、木炭、紙  
2013 Acrylic, charcoal on board  
35.0 × 25.0cm  
右下に署名「真之」



(24)

平成 25 年 鉛筆、紙  
2013 Pencil on paper  
24.8 × 35.5cm  
左下に署名・年記「2013 真之」



(25)

平成 25 年 鉛筆、紙  
2013 Pencil on paper  
20.5 × 29.3cm  
左下に署名・年記「2013 真之」



(26)

平成 26 年 鉛筆、紙  
2014 Pencil on paper  
25.0 × 35.5cm  
左下に署名・年記「2014 真之」



(27)

平成 26 年 鉛筆、紙  
2014 Pencil on paper  
22.4 × 27.2  
左上に署名「真之」



(28)

平成 27 年 鉛筆、紙  
2015 Pencil on paper  
25.8 × 18.2cm  
右下に署名・年記「15. 4 真之」



(29)

平成 27 年 鉛筆、紙  
2015 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
右上に署名・年記「真之 2015」



(30)

平成 27 年 鉛筆、紙  
2015 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
左上に署名・年記「真之 2015」



(31)

平成 27 年 鉛筆、紙  
2015 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
右下に署名・年記「2015 真之」



(32)

平成 27 年 鉛筆、紙  
2015 Pencil on paper  
25.6 × 18.2cm  
右下に署名・年記「2015 真之」



(33)

平成 27 年 鉛筆、紙

2015 Pencil on paper

25.8 × 18.2cm

右下に署名・年記「2015 真之」、左下に書き込み「つくば展示」



(34)

平成 28 年 鉛筆、紙

2016 Pencil on paper

19.0 × 24.0cm

右上に署名・年記「2016 真之」



9

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

昭和 10 頃 インク、紙

c.1935 Ink on paper

25.5 × 29.1 cm

平成 28 年度山田光一氏寄贈

D-0619



10

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

昭和 10 頃 インク、水彩、紙

c.1935 Ink, watercolor on paper

25.5 × 28.9 cm

平成 28 年度山田光一氏寄贈

D-0620



11

山田光春

YAMADA Koshun

作品

Work

昭和 10 頃 インク、水彩、紙

c.1935 Ink, watercolor on paper

25.5 × 28.9 cm

平成 28 年度山田光一氏寄贈

D-0621



12

木内克

KINOUCHI Yoshi

トルソ

Torso

昭和 25 年頃 テラコッタ

c.1950 Terracotta

71.0 × 36.0 × 30.5cm

右大腿部裏に署名「克」

平成 28 年度寺井力三郎氏寄贈

S-0192



13

竹岡雄二

TAKEOKA Yuji

《プロトタイプⅡー背面補強》

Prototype II - Backup

平成 4 年 赤ニス塗布した木、数冊の本

1992 Red stained veneered wood and books

70.0 × 124.0 × 95.5 cm

平成 28 年度寄贈

S-0193



14

橋本真之

HASHIMOTO Masayuki

果実の中の木もれ陽 ※第 3 次増殖分

Sunlight Penetrating Fruit

平成 12- 28 年 (部分/全体構想は 1985 年から) 鍛金、銅

2000-16 Copper (Beating Metal)

増殖部分 A : 長さ約 500cm × 直径約 160cm / 増殖部分 B : 長さ約 400cm × 幅約 150cm

平成 28 年度購入

S-0100(4)



15

山田光春

YAMADA Koshun

スケッチブック

Sketchbook

昭和9-10年 パステル、鉛筆、紙

1934-35 Pastel, pencil on paper

24.0 × 32.0cm

表紙に年記「1936 指宿」

平成28年度山田光一氏寄贈

RI-0136



16

山田光春

YAMADA Koshun

スケッチブック

Sketchbook

昭和9-10年 パステル、紙

1934-35 Pastel on paper

24.0 × 32.0cm

表紙に年記「1936 指宿」、最終頁に「十二月二十一日 1935」

平成28年度山田光一氏寄贈

RI-0137



17

山田光春

YAMADA Koshun

スケッチブック

Sketchbook

昭和11年 インク、紙

1936 Ink on paper

28.0 × 24 .5cm

表紙に年記「1936-1-16」、中面1頁に署名・年記「1936.5.20 刈谷 ky」など

平成28年度山田光一氏寄贈

RI-0138



18

山田光春

YAMADA Koshun

スケッチブック

Sketchbook

昭和10-12年頃 インク、水彩、紙

c.1935-37 Ink, watercolor on paper

28.0 × 24.5cm

表紙に年記「1936-7」

平成28年度山田光一氏寄贈

RI-0139



19

山田光春

YAMADA Koshun

ドローイング一式 (16点)

Set of drawings (16 pieces)

昭和10年頃 15枚はインク、1枚は水彩、紙

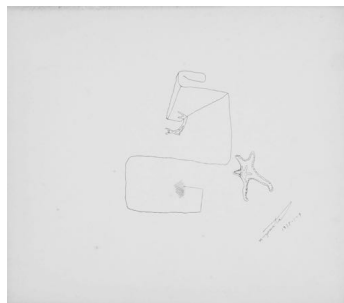
c.1935 15 pieces: ink, on paper/1 piece: watercolor on paper

15枚は25.2 × 29.0cm/1枚は28.2 × 23.1cm

1枚に署名「m yamada」、1枚に署名・年記「m yamada 1935-1-9」

平成28年度山田光一氏寄贈

RI-0140







## ■美術資料貸出等一覧

## ■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：14件（展覧会） 39点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
藤田嗣治	横たわる裸婦と猫	藤田嗣治—東と西を結ぶ絵画—	名古屋市美術館	4/29-7/3
デルヴォー	森	ベルギー近代美術の精華展	姫路市立美術館	7/2-8/25
モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	クロード・モネ—うつくしいくらし、あたらしい響き	アサヒビル—大山崎山荘美術館	9/17-
藤田嗣治	立てる裸婦	レオナルド・フジタとモデルたち	DIC 川村記念美術館	9/17-1/22
藤田嗣治	横たわる裸婦	レオナルド・フジタとモデルたち	DIC 川村記念美術館	9/17-1/22
藤田嗣治	二人の裸婦	レオナルド・フジタとモデルたち	DIC 川村記念美術館	9/17-1/22
ピカソ	静物	日本におけるキュビズム	鳥取県立博物館	10/1-11/13
田中保	キュビストA	日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト	高知県立美術館	2/12-3/26
田中保	キュビストB	日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト	鳥取県立美術館	10/1-11/13
森田恒友	城址	日本におけるキュビズム—ピカソ・インパクト	高知県立美術館	2/12-3/26
モネ	ルエルの眺め （登録美術品）	Monet: The Early Years	高知県立美術館 キンベル美術館	10/1-11/13 2/12-3/26
タイガー立石	The first suggestion	界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	デ・ヤング美術館、リージョン・オブ・オナー美術館	2/25-5/29
タイガー立石	Cabbage moon	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Pisa	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Time elevator	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Moon's satisfaction	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Coral moon	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Peacock moon	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Beautiful moon	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	I feel, therefore I exist	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Cubic Worlds	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Planets blossom	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	A Point	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	The Organic Whole	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Milano-Torino Superway	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	The machine	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	Moon grows to the moon	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	企業広告のための版画	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	無題（イオラス画廊の個展ポスター下絵）	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
タイガー立石	イオラス画廊の個展ポスター	世界が妙だ！立石大河亞+横山裕一の漫画と絵画	広島市現代美術館	10/28-1/22
斎藤与里	朝	動き出す！絵画 ベール北山の夢	和歌山県立近代美術館 下関市立美術館	11/19-1/15 1/28-3/12
山田正亮	Work C.273	endless 山田正亮の絵画	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館	12/6-2/12 3/1-4/9
ルノワール	三人の浴女	ルノワール展	宮城県美術館	1/14-4/16
木村忠太	ル・クロ・サン・ビエールの庭	生誕100年 木村忠太展	高崎市美術館	1/29-3/26
木村忠太	ル・クロ・サン・ビエールの庭	生誕100年 木村忠太展	高崎市美術館	1/29-3/26
木村直道	偏執狂的危機感	パロディ、二重の声	東京ステーション・ギャラリー	2/18-4/16
木村直道	カーク・ダグラスの世界	パロディ、二重の声	東京ステーション・ギャラリー	2/18-4/16
シャガール	二つの花束	ピカソとシャガール愛と平和の讃歌	ポーラ美術館	3/18-9/24(前期)
デルヴォー	森	ベルギー奇想の系譜展	宇都宮美術館	3/19-5/7

## ■特別利用

写真原版貸出： 15件 18点 作品熟覧：1件 作品撮影：1件 1点 作品模写：0件

作者名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	北野天神縁起絵巻	新潮社	『小村雪岱を知っていますか?』
モネ	ルエルの眺め（登録美術品）	個人	学術論文
ブーダン	ノルマンディー風景（寄託）	個人	学術論文
須田勉太	私の曼陀羅 a	日本経済新聞社	『日本経済新聞』6月5日号
小村雪岱	雪の朝	株式会社ヴァン	『okaeri』 vol.23
高田誠	浦和風景	株式会社ココロマチ	『この街アーカイブス「浦和」編』
林俊衛	別所沼風景	株式会社ココロマチ	『この街アーカイブス「浦和」編』
モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	大山崎山荘美術館	ポストカード
小村雪岱	『演芸画報』昭和8年9月号（寄託）	演劇出版社	『演劇界』2016年9月号特別付録
小村雪岱	『演芸画報』昭和14年7月号（寄託）	演劇出版社	『演劇界』2016年9月号特別付録
青柳	肖像	株式会社フレア	『絵とき日本美術』
小村雪岱	肖像	マガジンハウス	『アンド プレミアム 34』
澄川喜一	そりのあるかたち	株式会社音美衣社	『ON BEAT』 vol.06
森田恒友	島の井	久留米市美術館	『夢の美術館 めぐりあう名画たち』参考図版
高田誠	野尻湖と妙高	株式会社エムエム総研	『google カレンダー』
モネ	ルエルの眺め（登録美術品）	株式会社ネクサス	テレビ東京系列放送「美の巨人たち」
瑛丸	作品（61）	東京国立近代美術館	『現代の眼』621号
小茂田青樹	鳴鶴	アートコレクションハウス株式会社	『arch』 vol.130

---

## ◆作品熟覧

作者名	作品名	申請者	目的
小村雪岱	雑誌資料(寄託)	個人	科学研究費研究調査

## ◆写真撮影

作者名	作品名	申請者	目的
マンズー	枢機卿	日本文教出版株式会社	高等学校芸術科美術教科書 『高校生の美術3』

## ■教育・普及事業

### ■美術館講座

#### ■近・現代建築探検ツアー

##### ■開催趣旨

鑑賞の対象を建築領域にまで広げ、建築家と作品をよりよく知ろうとする講座である。建築鑑賞の面白さは、現地を実際に訪れ、その場所を知り、建物を見て、その機能を確認しながら建物の内部に入って、空間を体感することにある。この講座では、現地に建築を訪ね、作家のコンセプトを中心にその表現や方法を探ることとしている。

継続して開催してきたことにより、一定の成果をあげたと思われること、美術と関連する他の分野を取り上げてほしいという要望も多いことから、今年度で終了とし、次年度以降はテーマを拡げることとした。

##### ■古河版

2016年11月26日(土)

見学：亀屋商事株式会社(旧飯島家住宅・旧飯島製糸煉瓦倉庫。登録有形文化財。昭和10年)／篆刻美術館登録有形文化財。大正9年、平成3年開館)／古河文学館(設計：吉田桂二。平成10年開館)／古河歴史博物館(設計：吉田桂二。日本建築学会賞および公共建築賞。平成2年開館)

講師：伊豆井秀一(地域美産研究会副代表)

協力：鷲尾政市(合同会社 古河鍛冶町みらい蔵)、館野隆(株式会社 雪華)、埼玉大学

参加者：20名

##### ■担当後記

◆今回1回目のツアーは、県境をまたいで北上し、製糸業繁栄の面影を色濃く残す蔵の街、茨城県古河市を訪ねた。古河には、江戸から戦前に建てられた歴史的建造物や店蔵が多く残るほか、建築家・吉田桂二が建物の保存と新しい街づくりを兼ねて手がけた独特の文化エリアがある。新旧の貌をあわせ持つ街づくりを推進してきた鷲尾さんの解説や、吉田桂二が設計した古河文学館内で吉田の業績を検証する講義に耳を傾けながら、今の暮らしと歴史とが共存する街空間の在り方を考える契機とした。ていねいに対応くださった各訪問先の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げる。(大越久子)



亀屋商事株式会社



古河文学館

##### ■都内版(最終回)

2017年3月18日(土)

物質試行 No.42《池田山の住宅》(見学)

物質試行 No.24《絶対現場1987》(映像上映)

講師：鈴木了二(建築家)

参加者 20名

##### ■担当後記

◆平成13年度、美術館講座として、「現代芸術探検ツアー・現代建築見て歩き」が新設された。「現代美術入門・画廊へ行こう」をベースに、「作品鑑賞の対象を建築に広げた試み」という位置付けだった。平成14年度には「近現代建築探検ツアー」と改称され、平成18年度まで、「現代美術入門・画廊へ行こう」と「近現代建築探検ツアー」が開催された。平成19年度には、「現代美術入門」の内容が「画廊へ行こう」から「パブリックアートに

ついて考えよう」に更新され、平成23年度まで、「現代美術入門・パブリックアートについて考えよう」と「近現代建築探検ツアー」が開催された。「現代美術入門」は、平成23年度で終了となり、平成24年度以降は「近現代建築探検ツアー」のみが開催されてきた。このように長きに渡って「近現代建築探検ツアー」を開催してきたが、平成28年度をもって、ひとつの区切りとすることとなった。ベースとなった「現代美術入門」がすでに終了しており、「作品鑑賞の対象」を、建築以外の美術に関連する領域にも広げ、より魅力的な美術館講座を企画していく必要があるためである。建築については、今後は、他の分野と同じく、講座の内容によって、テーマとして取り上げられる機会をまつこととなる。

◆最終回を迎えるにあたり、「建築の見学」だけではなく、より柔軟な発想から、「建築の可能性」を提示する必要があると考えた。そのため、「建築の解体」が遂行された《絶対現場 1987》の記録による鑑賞、建築の見学に匹敵するプログラムとして組むことを発案した。この意図から、最終回にふさわしい講師として、鈴木了二氏をお迎えした。見学、鑑賞、レクチャー、ディスカッションにより、近現代の建築が抱える課題をさまざまな視点から議論し、建築の可能性を問う未来志向のプログラムとして開催することができた。多大なご協力をいただいた鈴木了二氏に感謝申し上げるとともに、この講座の開催にあたり、長年に渡り、見学や調査など様々な場面でお世話になった皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

◆1回目、2回目とも、埼玉大学大学院生のインターンが講座開催に関わる業務に参加した。当日配布する資料の作成、当日の運営など、多岐にわたる仕事に意欲的に参加してくれた。インターンにとっても、美術館内部の仕事にとどまらず、講師や一般参加の受講生との交流を含め、公式に開催される事業に関わる仕事を体験したことは有意義であったと思われる。

(梅津元)



池田山の住宅 見学風景

## ■一般団体対応

平成 27 年度より、希望する一般団体（成人を中心とする 2 名～ 100 名の団体）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展または MOMAS コレクション展を観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成、見どころを聞くことで、より関心をもつことができた、展覧会観覧がますます楽しみになったという声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、一般団体対象の出張講座も受け付けている。当館所蔵作品を中心に美術史や美術鑑賞の基礎的な講義を行う。複製画やアートカードも活用しながら体験を交えて講義を行うと共に、所蔵作品の画像を活用することで、美術館になかなか来られない地域の方の美術についての興味や関心に応えるとともに埼玉県のアート文化財への理解を促す取り組みとなっていく可能性がある。

## ■対応実績

平成 28 年度

対応数：38 団体、1168 名（出張講座 2 件含む）

主な団体種：公民館、生涯学習グループ、大学生サークル、旅行会社ツアー、友人グループなど

（参考）平成 27 年度

対応数：42 団体、1349 名（出張講座 1 件含む）

主な団体種：公民館、生涯学習グループ、他美術館友の会、福祉施設、同窓会など

## ■担当後記



講座室での案内

◆主に企画展を観覧する団体への案内を想定して始まった一般団体対応だが、問い合わせを受ける中で、美術館来館を希望する成人団体の種類の多様さ、美術館に期待する内容の幅広さを直接聞くことが出来た。例えば生涯学習グループは美術鑑賞の要点や埼玉ゆかりの作家に関する情報を求めている、公民館は高齢者対象の講座と共に子育て世代を対象とした講座も希望しているなど、潜在する美術館への要望を引き出し、応えることが出来た。

◆展示室での案内ではなく別室でのスライドや資料を用いた案内であるため、対象となる団体の規模や性質に応じて案内の方法や内容を柔軟に調整している。現在は、10 分程度の概要案内、別室での 30 分～1 時間の解説、2 時間ほどの講義などを、時間と人数によってエントランス、講座室、講堂を活用して行っている。また、建築や屋外彫刻については出来るだけ実物を見ながら解説を行っている。

◆今後、館内外でのチラシの配布により事業自体を広報することで美術館来館のきっかけを拡大するとともに、予約なしでも解説が出来るようにすることでより充実した美術館体験の一助となるよう準備を進めたい。また、案内の内容を充実させるために、団体からの問い合わせを受けてから実際の対応までの流れを整理し受け入れ手続きを効率よくしていくことも必要である。来館者のみならず、来館者になりうる人々に出会うことが出来る本事業により、美術館利用者のすそ野を拡大していきたい。（菖蒲澤侑）



講堂での案内

## ■子どものためのプログラム

### ■アートフル∞プログラム「MOMASの扉」

#### 0. 「MOMASの扉」とは

2010年4月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、ひとり一人の新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は毎週土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、参加対象は、幼児（4才）から大人まで幅広く、参加人数は一回30名程度、作品鑑賞と制作が一体となった内容は毎回変化のあるプログラムを用意している。

#### 1. MOMASコレクション みる+つくる

MOMASコレクションや美術館の建物などをまわり、対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。

対象枠：小・中学生

- ・「曲の感じを表そう！」4月9日／参加者：31名。
- ・「絵にぴったりの額縁をつくろう！」6月18日／参加者：30名。
- ・「いろいろなものが集まって顔ができた！」7月9日／参加者：26名。
- ・「お家への道案内“Navigation for Home”」10月8日／参加者：22名。
- ・「MOMASの扉アートカードを作ろう！」11月26日／参加者：27名。
- ・「鳥の姿 花の姿」2月4日／参加者：23名。

#### 2. MOMASコレクション 親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館の建物などを親子で鑑賞をする。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親

- ・「名画をコラージュ！」4月30日／参加者：28名。
- ・「表そう！キラキラパード」7月23日／参加者：24名。
- ・「子どもが大人★親が子どもに大変身！」9月17日／参加者：30名。
- ・「北浦和山水図巻」10月15日／参加者：28名。
- ・「未来に願いを込めて」1月7日／参加者：27名。
- ・「お面をつけて作品の中へ」2月11日／参加者：28名。

#### 3. 企画展物語 みる+つくる

開催中の企画展の魅力や楽しむためのヒントをわかりやすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

- ・「動いて、撮って、動かそう！」5月21日／参加者：29名。
- ・「ココロレントゲン」9月3日／参加者：27名。
- ・「ゆらゆらやじろべえ」11月12日／参加者：30名。
- ・「メリー キュビスマス！」12月24日／参加者：27名。
- ・「△○□い生き物を描こう！」2月25日／参加者：20名。

#### 4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親。

- ・「私に風景をかさねて！」4月23日／参加者：27名。
- ・「NVS迫り出す身体プログラム」10月29日／参加者：22名。
- ・「折り紙でキュビズム！」1月14日／参加者：30名。
- ・「動きのある絵を動かそう！」3月18日／参加者：29名。

#### 5. み〜つけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4才～6才）とその親

- ・「てのひらでつくる わたしのおおきさ」5月14日／参加者：30名。
- ・「大きな彫刻を作ろう！」6月11日／参加者：26名。
- ・「和紙と墨でペタペタにわとりを作ろう！」9月24日／参加者：34名。
- ・「わたしたちは びじゅつかんで ゆめをみる」12月3日／参加者：29名。
- ・「からだをつかって」3月4日／参加者：30名。

#### 6. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。じっくり制作に取り組んだり、みんなで一緒に活動したりして活動をした。対象枠：小学生～一般。

- ・「世界に一つ！自分だけの漢字を作ろう！」5月28日／参加者：26名。
- ・「未来の建物を作ろう！」7月16日／参加者：24名。
- ・「見えないものを想像してみよう！」11月5日／参加者：22名。
- ・「のぞいたら…あっ！！」12月17日／参加者：26名。

- ・《果実の中の木もれ陽》がふえて、わかれて、ひろがって  
1月21日／参加者：21名。
- ・「壁サイを作ろう！」3月11日／参加者：24名。

## 7. アート★ビンゴ

9つのクイズを解きながら、美術館を巡って気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者は1階ロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、スタンプをもらう。想像力を問う問題にファンも多く、少人数でもグループ単位で楽しめるプログラムである。対象枠：どなたでも／4月16日、7月30日、10月22日、12月10日、2月18日／参加者：計249名。

## 8. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ（学芸員）やボランティア・スタッフに教えてもらいながら、彫刻作品を一生懸命洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。彫刻洗浄できる貴重な体験として人気のプログラムである。対象枠：小・中学生+親「あらって見よう！彫刻作品」6月4日／参加者：計29名。

## 9. わくわく鑑賞ツアー

スタッフと会話をしながら、美術館の作品を鑑賞して楽しむプログラム。参加者は1階ロビーからスタートし、館内外を巡りながらスタッフと対話をしながら2～3作品を鑑賞する。子供たちから大人まで、気軽に作品と関わられる人気のプログラムである。対象枠：どなたでも／6月25日、9月10日、11月19日、1月28日、3月25日／参加者：計176名。

## 10. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運ばない遠方の方にも参加しやすく、美術にふれ、美術の価値を見出す機会を提供する、スペシャル・プログラムである。

- ・「ココロの中の地球のカタチ～私がデザインすると世界はこうなる～」8月6日／講師：高田洋一（美術家・彫刻家）／参加者：28名。
- ・「キラキラ★カチカチスプーンワールド」「洗濯ばさみで絵を描こう！」8月13日／参加者：303名。
- ・「座れる段ボールの椅子大集合Ⅳ」8月20日／講師：高須賀昌志（デザイナー・埼玉大学教授）／参加者：

125名。

- ・「変身！野菜の大冒険」8月27日／講師：増田拓史（アーティスト）／参加者：20名。



私が世界をデザインすると！「ココロの中の地球のカタチ」

## 11. 他館との連携による出張 MOMAS の扉

今年の出張ワークショップは鴻巣市の小学校で実施。洗濯ばさみを使って造形遊びをしたり、グッドデザインの椅子を鑑賞して、お気に入りの椅子を探したりして楽しんだ。

- ・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「グッドデザインの椅子に座ってみよう！」12月26日 鴻巣市立赤見台第一小学校（鴻巣市）／参加者46名



「グッドデザインの椅子に座ってみよう！」

## ■夏休みの特別プログラム

### 1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子どもたちのサポートするコーナーを今年度も設置した。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じた。県内の中学生が作成した美術館紹介のレポート例を掲示したりして、子どものサポートを充実させた。7月21(木)～8月28日(日)の休館日以外の毎日/エントランス/対応数：計2886名。

### 2. 鑑賞ツアー

夏休み期間中に3日間限定で30分のミニ・ツアーを行った。館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。/7月29日、8月4日、8月18日の3日間/対応数：計45名。



サポート・スタッフによる鑑賞ツアーの様子

## ■広報記録

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・『たまログ』「もすまつり」5月1日
- ・『まっぷる 関東首都圏発』「椅子で有名な、本物に触れられる身近な美術館」6月8日
- ・『埼玉新聞』「小川東中に最高賞 県立近代美術館 今日から段ボールの椅子公募展」8月20日
- ・『キッズドリームエデュ秋号』「MOMASの扉でアートの心を開花!」10月1日
- ・『U L a L a』「人気のワークショップMOMASの扉」10月1日

- ・『あんふあん』「芸術の秋は美術館から!家族で楽しめる企画」10月7日
- ・『朝日新聞』「自分だけの“タネ”風に舞え 上尾・瓦葺 小学校で美術家出前授業」10月20日
- ・『埼玉新聞』「デザインいすを体感 鴻巣でチャレンジスクール」1月7日
- ・『読売新聞』「アートワークショップ 近代美術館で人気」3月23日

<テレビ、ラジオ>

- ・『テレ玉』「夏休み宿題レスキュー」8月20日
- ・『テレ玉ニュース』「近代美術館でアートを体感：夏休み親子で美術館」8月25日
- ・『J:COM』「座れる段ボールの椅子グランプリ」8月27日

## ■担当後記

◆土曜日のワークショップ「MOMASの扉」は、毎回多くの参加者が集まっている。県内の学校への広報活動や、地域や沿線の小学校へのチラシの配布など積極的な広報活動を行い、新規申込者も増加、他市からの参加も増えている。美術館で行う利点を活かした、鑑賞と制作が一体となったプログラムも充実し、また今年から取り入れた彫刻を洗浄して作品へ対する理解を育むプログラムも好評を得た。また、公園に遊びに来た家族や、幼児連れの家族、初めて美術館にくる子供達にも気軽に楽しめるフリープログラムも増やし「風を描こう!」などで身近な地域への広報もできた。また、ワークショップの講師に、さいたまトリエンナーレやSMFで活躍するアーティストを招き、変化のある幅広い内容で実施できたことをふまえ、地域の人材(アーティスト)を活かしたプログラム作りを来年度の課題に加えたい。(笠原たまき)



## ■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子どものための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASの扉」のスタッフとしてプログラムの企画・運営をしている。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は、子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけることができる。また美術館にとっては、毎週のプログラムを充実させることができ、より多くの子供、親子に作品にふれ、美術館に親しんでもらうことができる。



埼玉大学の学生が行った“対話による鑑賞”

## ■担当後記

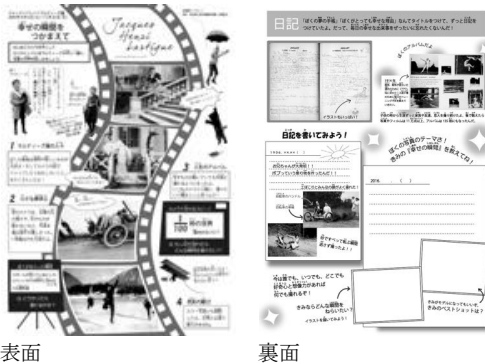
◆平成28年度の学生の登録は8名(内1名はインターンシップ)。学生が企画、運営したプログラムは4回である。美術館・大学・学生が三位一体となって、連携を密にとりながらの協働が実現できた1年であった。

◆「ミュージアム・コラボレーション」履修した学生たちは、昨年度より人数は減ったものの、昨年度から継続して履修した学生を中心に主体的に活動しようという意欲の高さがみられた。作品鑑賞では、美術館スタッフの実践や大学教授の講義を聞き、学生自身が作品について深く調べたりよさを感じ取ることの大切さを学び、子供にどう伝えるか試行錯誤する姿が見られた。企画では、互いに案を出し合い、検討や試作を重ねる中で、題材のねらいを明確にし子供たちが楽しめるより良い内容を練りあげていった。大学側も、個々が子供への理解、美術作品への理解を深めて実践力を高めていくと同時に、学年も学部も違う学生同士が話し合い、企画運営を進めていくプロセスにこの講座の意義を感じ、教員としての資質が育まれていると考えている。結果としてどの演習プログラムも参加者が楽しめ、出来上がった作品も素晴らしいものになった。来年度も、大学側と連携を取りながら「ミュージアム・コラボレーション」の内容と「MOMASの扉」がより充実したものとなるよう努めていきたい。(笠原たまき)

## ■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場が無償配布するほか、学校団体や子どもためのプログラムなどでも幅広く活用している。県内全ての小・中学校、また必要に応じて高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。平成28年度は次の5種を作成した。

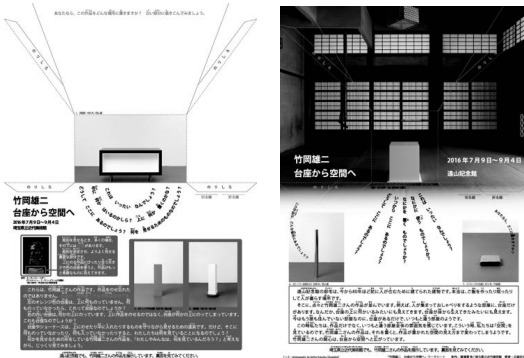
### ① 「ジャック＝アンリ・ラルティエグ」／作成：笠原たまき



表面

裏面

### ② 「竹岡雄二」／作成：菫蒲澤清



表面

裏面

### ③ 「ニュー・ヴィジョン・サイタマV」／作成：菫蒲澤清



表面

裏面

### ④ 「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」／作成：笠原たまき



表面

裏面

### ⑤ 「カッサンドル展」／作成：矢花俊樹



表面

裏面

## ■学校との連携

### ■教員美術講座

- ・第1回教員美術講座「座れる段ボールの椅子を作るにはIV」／6月11日(土)／講師：高須賀昌志氏(埼玉大学教授・デザイナー)／参加者：59名。
- ・第2回教員美術講座「土の世界―焼く粘土、焼かない粘土―」/8月17日(水)／講師：石上城行氏(彫刻家・埼玉大学教育学部准教授) /27名

### ■担当後記

#### 〈第1回「座れる段ボールの椅子をつくるにはIV」〉



第1回教員美術講座 制作の様子

- ◆今年度、小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒を対象に、「第4回座れる段ボールの椅子グランプリ」を開催した。それに先立ち、当グランプリの審査委員を務める埼玉大学教授 高須賀昌志氏を講師にお招きして、本講座を開催した。グランプリへの参加を目指す学校の教員・生徒が参加し、ケント紙を使った椅子の即興立体デッサンをしたり、段ボールの特性や加工方法について学んだ後、実際にアイデアを形にしていくプロセスを、段ボールを使った創作体験を通して学んだ。講座の最後には、制作したダンボール椅子をプレゼンテーションし、高須賀氏から講評をいただく実りのある講座となった。(矢花俊樹)

#### ◆参加者の感想(抜粋)

- ・ダンボールの扱い方や特徴がよくわかりました。文化部はみんなでなにかを達成する機会が少ないのでとても良いと思います(中学校教諭)
- ・子供達は“ものづくり”で他校からもよい刺激をうけていました。(中学校教諭)

#### 〈第2回「土の世界―焼く粘土、焼かない粘土―」〉



第2回教員美術講座活動の様子

- ◆彫刻家として活躍されている石上 城行氏(埼玉大学教育学部准教授)を講師に迎え、粘土を使った題材の指導に活かせる講座を開催した。土の塊を砕き粉にして、練って軟らかくする体験を通し、素材としての土の特性を理解することが出来た。また、粘土を用いた題材について、石膏を使ったレリーフ制作やテラコッタでの制作を通し、体験的に学ぶことが出来た。鑑賞や評価のポイントなどについてもご講義いただき、先生方が授業で応用できる内容となった。

(笠原たまき)

#### ◆参加者の感想(抜粋)

- ・実際の材料でやってみなくてはわからない点も多く図工に対して身近に感じることが出来ました。(小学校教諭)
- ・土での造形体験がたっぷりできて楽しかったです！鑑賞・評価のヒントもためになりました。(中学校教諭)

### ■先生のための鑑賞授業ヒント講座

- ・第1回先生のための鑑賞授業ヒント講座「みることは作ること・作ることはみること」／5月15日(日)／講師：矢花俊樹(教育・広報担当課長)／参加者：4名。
- ・第2回先生のための鑑賞授業ヒント講座「対話による鑑賞をやってみよう」/10月30日(日)／講師：矢花俊樹(教育・広報担当課長) /4名

## <第1回「みることは作ること・作ることはみること」>



鑑賞の様子

◆前半は、屋外彫刻を児童・生徒の立場になって鑑賞した後、どんな制作題材につなげていけるかを考えた。後半は、マルク・シャガール《二つの花束》で“対話による鑑賞”を行った後、実際に制作するプログラムを体験した。緩衝材を使って花を造形し、最後にブラックライトで幻想的な演出をして鑑賞会を行いながら、児童・生徒作品の鑑賞の視点について講義を行った。(矢花俊樹)

## <第2回「対話による鑑賞をやってみよう」>

◆児童・生徒になりきって“対話による鑑賞”に参加することで、鑑賞の流れやポイントを体験的に学んだ。その後、鑑賞の授業で実際に扱いたい作品を選び、発問と予想される回答を考えた。最後に参加者全員が教員役と児童・生徒役になって模擬授業を行い、講評し合った。(矢花俊樹)

### ◆参加者の感想(抜粋)

・子供達と一緒にやりたい!と思いました。(小学校教諭)

・実践してみて自分のいたらぬ点や良い点が話や指導をされてよかったです。(高等学校教諭)

### ■ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校にアーティストと共に訪問し、授業の枠を広げ、鑑賞や創作体験をすることで小中学生に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施した。

## <「私の不思議タネを作ろう」高田洋一氏>

昨年度に引き続き、当館収蔵作家の高田洋一氏を講師に迎え、講師の作品の鑑賞も交えながら空気を材料にしたアート体験プログラム「私の不思議タネを作ろうー空気

のアート制作体験ー」を提供した。



・10月19日(水)上尾市立瓦葺小学校 5年生/84名

## <「オレンジボックス」井上尚子氏>

井上尚子氏(現代美術家)を迎え、美術家としての生き方や考え方に触れたり、匂いをもとに自己を表現する創作体験を通して生徒の創造力を育んだ。



・12月7日(水)坂戸市立桜中学校 2年生/105名

### ■担当後記

◆今年で4年目を迎えた事業である。美術館改修工事も終わり通年開館となったことで、昨年度の実施回数は1回だったが、美術館を利用しづらい遠方の学校との連携を深める良い機会となり、学校からの実施希望も多いことからプログラム2本を企画し、小学校と中学校で実施することが出来た。学校側との連携の面では、実践を振り返り修正しながら、より実施しやすい準備や環境を備え、教育的効果や価値の認識を高め、また事例を県内に広く広報し、計画的に実施校を決めていくことが今後の課題である。(笠原たまき)

## ■美術館利用研究会

学校における美術館の利用を率先して考える研究会として教員13名を委嘱し、年間12回の研究活動を行った。

鈴木裕美 教諭(三芳町立三芳小学校)、後藤保紀 教諭(東京都中野区立西中野小学校)、浅沼夏菜 教諭(新座市立三中学校)、井上暢之 教諭(深谷市立深谷中学校)、大内彩記子 教諭(三郷市立北中学校)、高田悠希子 教諭(和光市立第二中学校)、井上愛美 教諭(埼玉県立大宮光稜高等学校)、近江綾香 教諭(埼玉県立芸術総合高等学校)、宇沼美香 教諭(埼玉県立川越特別支援学校川越たかしな分校)、野沢博子 教諭(埼玉県立特別支援学校 坂戸ろう学園)、宮地和加奈 教諭(埼玉県立さいたま桜高等学園)、新井喜一郎 教諭(さいたま市立上木崎小学校)、畠山めぐみ 教諭(越谷市立大相模中学校)。

## ■研究活動報告

今年度は2つのプログラム開発を行った。1つ目は、当館所蔵のグッドデザインの椅子を用いた中学校向けプログラムである。公共施設と結びつけた利用や、デザインを考えるプログラムが出来た。

2つ目は、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》と林 俊衛《積藁》の比較鑑賞プログラムである。共通点と相違点を、対話をしながら探り、鑑賞を深めるプログラムができた。(矢花俊樹)

## ■担当後記

美術館利用研究会で開発したプログラムをもとに、中学校2校でグッド・デザインの椅子の鑑賞授業を行うことが出来た。また、比較鑑賞プログラムにおいても中学校2校で行うことが出来た。形や色、イメージなどの共通事項や構図などを比較鑑賞することで、中学生の“対話による鑑賞”が活性化することが分かった。授業実践を重ねながら内容を再検討し、より良いプログラムに改善することができた。

美術館利用研究会では、長年に渡り美術館の収蔵作品を題材とした鑑賞プログラムの開発を行ってきた。現場の先生方のご尽力により、多くのプログラムが開発できた。十分な成果が挙げられたことから、今年度で活動を閉じることとした。(矢花俊樹)

## ■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

## <学校団体の受け入れ>

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内した。さらに、別室にてグッドデザインの椅子の鑑賞体験学習をしたり、造形遊びワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう!」なども実施した。美術館の作品を鑑賞するだけでなく、椅子の座り心地を体感したり、ワークショップで創作体験することで、美術への関心を高めることができた。様々な体験を提供できることが、当館の魅力ともいえる。改修工事後の通年開館の年度であったが、多くの団体が利用してくれた。利用団体に行ったアンケートの結果も良好である。  
／学校団体対応数：84団体、2,945名



高等学校の生徒との対話による鑑賞の様子

## <授業協力>

依頼を受けた学校に赴き、収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。事前の先生との打ち合わせで生徒の実態やねらいに合わせて授業を計画していった。美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなった。

／授業協力数：39校、105学級、3,625名



中学校での鑑賞授業の様子

### <複製画等の貸し出し>

教師が授業で活用できるよう、美術館にある複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。H28年度は、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、アートカードが活用された。毎年、継続して利用している先生の実践を聞き、新規で利用する先生も増えている。／貸出数：25件。

### <第4回 座れる段ボールの椅子グランプリ>

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、県内小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に始まった本事業であるが、第4回目となる今回は、全国へも広報して応募作品を募集した。東京都をはじめ、奈良県や大阪府からも応募があり、地方色が溢れるグランプリとなった。今年度は第4回目ということもあり、作品の完成度が全体的に高く、段ボールの素材を生かした新たな表現方法もみられ、審査員を驚かせた。段ボールを素材とした造形活動の可能性を示唆するものとなった。42校、71グループ、503名が参加した。(矢花俊樹)



鑑賞会の様子

### <職場体験の受け入れ> / 対応数：6校 17名

## ■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要項」に基づき、下記の12大学16名の実習生を受け入れ、全7日間の日程で実施した(学習院大学、金沢美術工芸大学、共立女子大学、埼玉大学、実践女子大学、成城大学、聖心女子大学、清泉女子大学、大東文化大学、多摩美術大学、日本大学、武蔵大学)。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

## ■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月26日(火) 開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、油彩画とその取り扱いについて、彫刻のメンテナンスについて
- ・7月27日(水) 彫刻の取り扱い・メンテナンス、図書の取り扱い、広報と刊行物について、SMFについて
- ・7月28日(木) 企画展の概要について、企画展の実務について、企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」見学、日本画とその取り扱いについて、版画・写真とその取り扱いについて
- ・7月29日(金) これからの美術館について、美術資料の収集と保存について、MOMAS コレクションについて、子どもとの鑑賞について、ワークショップ「MOMASの扉」・大学連携について、SNSを活用した広報について

## ■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営、ワークシート作成などに実際に参加してもらった。原則として8月中に3日間の実習を行った。

## ■美術館ボランティア

### ■美術館サポーター

美術館サポーター(ガイド・ボランティア)は、毎日14時から30分程度(展示替え後は除く)、常設展示室で解説ガイドを行っている。その活動は美術館を代表するひとつの顔となりつつあり、各方面からの取材や関心も高く、来館者もリピーターが増え、美術館を身近なものにしてくれている。28年度の登録人数:34名(男性5名、女性29名)。

### ■研修日程

- 4月23日(土) 学芸員と話すシリーズ①:五味学芸員  
「re-presentation イメージの継承と創造」
- 5月28日(土) 講演『詩と芸術』講師:建島哲館長  
学芸員と話すシリーズ②:前山学芸員
- 6月25日(土) 「美術館サポーターの創設について」
- 7月23日(土) 館外研修:武蔵野美術大学美術館
- 8月27日(土) エデュケーターと話す 講師:矢花俊樹
- 9月24日(土) 講演『ニュー・ヴィジョン・サイタマ出品  
作品について』講師:梅津学芸員
- 10月22日(土) 講演『絵画修復について』講師:有限会  
社 修復研究所21 渡邊郁夫氏
- 11月26日(土) 講演『果実の中の木もれ陽について』  
講師:橋本真之
- 12月24日(土) クロストーク・情報交換会、懇親会
- 1月28日(土) 館外研修:東京芸術大学
- 2月25日(土) 学芸員と観るシリーズ1 講師:梅津学芸員
- 3月25日(土) 「MOMASコレクション第IV期」
- 3月25日(土) 年間総括



ファミリー鑑賞会の様子

### ■担当後記

- ◆今年度も、美館サポーターからの要望をもとに研修会を実施した。館外研修としては、3つの展覧会を見ることができた武蔵野美術大学美術館、ツアーに参加した東京芸術大学を訪れた。それぞれに充実した研修となり、ガイドに生かせる収穫が多く得られたと思われる。
- ◆館外からのゲスト講師としては、修復研究所21の渡邊郁夫氏、収蔵作家の橋本真之氏をお迎えした。絵画修復の技術をふまえた修復家の視点での鑑賞を学べたこと、また、制作者の立場からの視点を学べたことは、「作品」という対象に向き合う視野を大きく広げてくれたと思われる。
- ◆当館の学芸員による研修も、MOMASコレクションや企画展と連動させ、各学芸員の専門性や個性を発揮してもらえるように意図している。運営面では、月例会の参加率を上げるよう、より魅力的な研修を企画していきたい。(矢花俊樹)



11月の月例会 ゲスト講師:橋本真之氏

## ■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、平成28年度の登録人数は95名。

### ■研修日程

- ・第1回「美術館の概要と子どもの鑑賞活動について」／6月17日(金)、6月19日(日)。
- ・第2回「美術館の目的と収蔵作品、平成28年度の活動内容と運営計画について」／6月24日(金)、6月26日(日)。
- ・ガイドスタッフ特別研修「ガイドスタッフの役割と対話型鑑賞について」／7月8日(金)、7月10日(日)。



鑑賞ガイドツアーの様子

### ■担当後記

◆新年度、埼玉大学、埼玉学園大学、東京家政大学、文教大学、武蔵野美術大学など、美術や教育の学科のある大学を中心に連携を図り、ガイダンスを行い参加を呼びかけ、昨年度より多くの大学生スタッフが集まった。意欲のある大学生スタッフを獲得でき、熱心な取り組みがみられた。継続スタッフの中からも、対話による鑑賞の特別研修を受け、鑑賞ガイドツアーをしたいという希望者も多くみられ、夏休みの案内が一層充実した。サポートスタッフの活躍の場を広げるとともに、質の高い対応が来館者に提供できるようにしたい。

(笠原たまき)

## ■MOMAS彫刻ボランティア

埼玉県立近代美術館(MOMAS)彫刻ボランティアは、発足から13年を経過した。春から秋にかけて北浦和公園内に設置された当館所蔵の彫刻作品の洗浄・ワックスがけを行い、冬期には研修会を開催して、彫刻という美術ジャンルを通じて芸術に関するさまざまな啓発・発信活動を自立的に行う人材の育成を目指している。

例年どおりに野外彫刻の洗浄を中心に活動したほか、今年度からは、土曜日開催の親子向けワークショップ「MOMASの扉」における彫刻洗浄プログラムにおけるボランティア講師として彫刻の洗浄方法、屋外彫刻の意義などを教えることとなった。「MOMASの扉」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぐこととなった。

また、今年度の活動のハイライトは、何といても、16年ぶり3回目の増殖する北浦和公園の人気作品・橋本真之氏の《果実の中の木もれ陽》の公開制作に、お手伝いとして参加したことである。たたきの作業に先立つ11月5日・6日の2日間に渡り、公開制作の事前作業として、アトリエから公園へ搬入作業と、設置場所における熔接作業のヘルプを彫刻ボランティアが行った。登録者数12名。

### ■活動概要

- ・6月4日(土)／MOMASの扉の彫刻洗浄プログラム「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導
- ・11月5日(土)・6日(日)／「橋本真之《果実の中の木もれ陽》公開制作@北浦和公園」の事前準備として、購入により増殖する《果実の中の木もれ陽》のパーツの北浦和公園への搬入と初期設置における補助作業
- ・12月3日(土)／特別研修会「さいたまトリエンナーレ見学会」
- ・2月19日(日)／特別研修会「小平市立平櫛田中美術館『ロダンと日本近代彫刻』展見学会」／講師：篠崎未来(小平市立平櫛田中美術館学芸員)

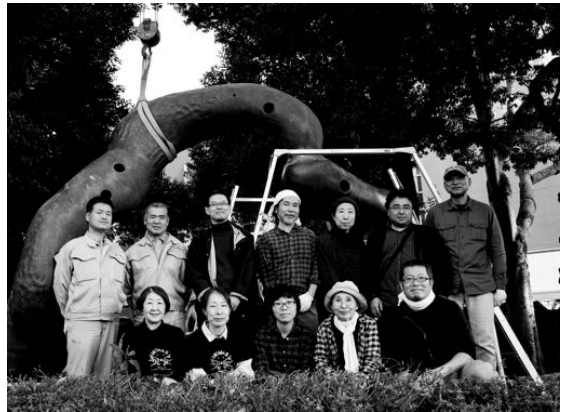
### ■担当後記

◆これまで彫刻ボランティアによる子ども向けワークショップとしては、ボランティア主催による「彫刻あらいぐま」、善前小学校「善前っこひろば」とのコラボレーションなどを実施してきた。今年度からの活動となった「MOMASの扉」の枠における洗浄ワークショップについて、6月4日に



第1回目を行ったが、これまでのノウハウを活かして盛況のうちに終えることができた。「MOMASの扉」の枠内で行うことによって、ボランティア独自の広報活動では情報が届いていなかった方々の参加が実現できたように思われる。また、鑑賞・洗浄のあと、洗浄した彫刻をイメージしながらの造形活動で、さまざまな解釈・イメージが子どもたちから出て来たことが担当・ボランティアとして大変新鮮であった。

- ◆「橋本真之《果実の中の木もれ陽》公開制作@北浦和公園」は、11月15日(火)～11月30日(水)のスケジュールで実施された。11月5日(土)・6日(日)はその事前作業であったが、早朝からボランティアが橋本氏の指示のもとに的確に動き、輸送・固定作業を無事終えることができた。橋本さんの作品に惚れ込んで増殖を心待ちにしていたボランティアもあり、10年以上洗浄を通じて関わってきた作品の成長・増殖に関わる機会が得られたことは、メンバーにとっても本当にかげがえのないことだったように思う。ボランティアの担当としても、昨年に続く作品購入と16年ぶりの増殖を公開制作として事業化し無事終えることができたのは、橋本真之氏のご理解・ご努力はもちろんのこと、彫刻ボランティアの存在が不可欠であったと感じている。この場を借りて、改めて心よりの感謝を申し上げたい。
- ◆12月の研修会では、さいたまトリエンナーレの見学会を行った。トリエンナーレでもボランティアとして精力的に活動しているメンバーにモデルコースを作成してもらい、主に岩槻会場を見学した。トリエンナーレに展示された作品を楽しんだことはもちろんのこと、さいたま市内在住の彫刻ボランティアのメンバーも多いことから、トリエンナーレの意義・意味についてよく考える機会にもなった。
- ◆2月の研修会では、小平市平櫛田中彫刻美術館に遠征し、展覧会「ロダンと日本近代彫刻」を見学し、展覧会担当の学芸員・篠崎未来氏からの解説をうかがった。篠崎氏は彫刻家・黒川弘毅氏とともに、かつて洗浄方法を教えていただいたり、ボテロをはじめとする彫刻作品のコンディション・チェックをしていただいたりした彫刻の専門家である。再会を喜ぶとともに、日本の近代彫刻についての基本的な認識を新たにす大変よい機会となった。(渋谷拓)



「橋本さんご夫妻と彫刻ボランティア」／2017年11月5日(土)  
公開制作で増殖する《果実の中の木もれ陽》のパーツ設置初日に  
撮影：落合範崇

## ■ 広聴・広報・刊行物

### ■ 広聴

#### 1. アンケート調査

企画展、MOMAS コレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

- ・企画展調査：「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」4月28日～5月22日の22日間。回答数：207／「竹岡雄二 台座から空間へ」7月11日～8月1日の20日間。回答数：256／「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」10月1日～11月1日の29日間。回答数：331／「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」11月28日～1月29日の45日間。回答数：226／「カッサンドル・ポスター展グラフィズムの革命」2月13日～3月17日の29日間。回答数：153
- ・MOMAS コレクション調査：「Ⅰ」4月11日から5月3日の20日間。回答数：333／「Ⅱ」7月22日から8月19日の25日間。回答数：333／「Ⅲ」11月25日から1月16日の37日間。回答数325／「Ⅳ」1月23日から2月13日の19日間。回答数292。
- ・「美術館にひとこえを！」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、来館者の声を聴いた。質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。また、美術館講座やMOMASの扉、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

#### 2. その他

- ・当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。
- ・近隣町内会や商店会の代表者の方たちと定期的に催しの情報交換をし、美術館に対する要望をうかがったり広報協力をお願いしたりする機会としている。

### ■ 広報

#### 1. 印刷物の作成・配布

- ・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるB2ポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMAS コレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社のご協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、美

術館講座や学校向けの利用案内、ファミリー鑑賞会などは手づくりのちらしを作成した。

- ・以上の印刷物や広報紙ソカロ、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高特別支援学校、全国美術館等に配布した。

#### 2. パブリシティ

- ・展覧会やイベント、教育・普及事業等について記者発表し、新聞・テレビ、雑誌、WEB等の各種メディアに掲載されるよう努めた。
- ・企画展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」、「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」、「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」では、会期初日に報道関係者や雑誌社、美術ブロガー等を招いた内覧会を、「竹岡雄二 台座から空間へ」、「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」では内覧会にオープニングレセプションを加えたプレスカンファレンスを開催した。

#### 3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL：<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

情報項目：お知らせ（ニュース、ソカロ、スタッフ募集、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂）、展覧会（企画展、MOMAS コレクション、年間スケジュール、一般展示室）、イベント（企画展関連イベント、MOMAS コレクション関連イベント、MOMASの扉・カレンダー、イベント・カレンダー）、教育・普及事業（MOMASの扉、学校と美術館、彫刻あらいぐま、近現代建築探検ツアー）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、北浦和公園・野外彫刻、ファムス、ミュージアム・ショップ、レストラン・ペペロネ）、リンク、サイトマップ、English、過去の展覧会図録の販売 など

年間ページビュー数：811,373

#### 4. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

- ・ツイッター公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を1日1回程度ツイートしている。また、ツイッター上のイベント「ミュージアムウィーク」や「文化遺産ウィーク」に参加し、美術館の認知度の向上を図った。

URL：[https://twitter.com/momas\\_kouhou](https://twitter.com/momas_kouhou)

ツイート数：4,244、フォロワー数：16,167（3月末現在）

- ・YouTube公式アカウント（2014年1月～）では、展覧

会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。

URL : <https://www.youtube.com/user/momasjp>  
年間視聴回数 : 23,534

- フェイスブック公式ページ(2014年7月～)では、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子、北浦和公園の情報など、幅広い情報発信を随時行っている。  
URL : <https://www.facebook.com/momaspr>  
いいね!数 : 1,535(3月末現在)

## 5. その他

- 県展開催期間限定で、MOMAS コレクション観覧料を半額にする割引サービスを実施した。
- 与野本町ショッピングセンターのデジタルサイネージで、企画展や MOMAS コレクション等の情報を配信した。
- 埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる企画展告知映像の配信および企画展ちらしの配架を行った。
- グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加し、3月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像 99点(バイリンガルの解説付き) および館内・北浦和公園のストリートビューをWEB上で閲覧できる。
- 近隣のディスクユニオン北浦和店と連携し、展覧会半券による割引サービスを行った。

### ■担当後記

- ◆広報紙『ソカロ』において、スピノフとして拡大版『ソカロ&デラックス』やミニ版『ミカロ』、ロング版『ソカロング』など、数々のバリエーションを発行し広報活動を盛り上げた。(落合範崇)
- ◆昨年度に続いて、秋に『ソカロ』拡大号を発行。企画展「NEW VISION SAITAMA 5」出品作家の描き下ろしを中心に構成。充実した紙面はポスターのような効果もあった。また、5年を目途にスタイルを変えている『ミュージアム・カレンダー』は、新たに川村格夫氏にデザインを依頼し、仕様を刷新。折を生かしたコンパクトな仕上がり、裏面には付録。美術館の存在を知ってもらい、関心を寄せてもらうために、美術館ならではの印刷物の展開を探っている。(梅津元)

### ■広報記録

<埼玉県立近代美術館>

- ・「花見スポット15選」『たまログ』2016年4月1日
- ・「戦争法の廃止を」さいたま市で県中央メーデー『東京新聞』2016年5月2日

- ・「格差是正など訴え さいたま市でメーデー」『毎日新聞』2016年5月3日
- ・「ごきげんアートグッズ」『ぶらぶら美術・博物館 2016-2017』2016年5月12日
- ・「埼玉県美術展覧会」審査会始まる『テレ玉ニュース』2016年5月16日放送
- ・「ちしきとげいじゅつのワンダーランド! MUSEUM TOUR」『タウンジャーナル 6月号』2016年5月22日
- ・「無料アプリを使い展示絵画を解説」『日本経済新聞』2016年7月13日
- ・「ポケモンブーム過熱 北浦和公園 深夜にも人」『読売新聞』2016年7月29日
- ・「浦和でアートを楽しむ秋 埼玉県立近代美術館の魅力を探ろう」『U La La』2016年10月1日
- ・「雪景色に温もり描く 塗師祥一郎さんを悼む」『埼玉新聞』2016年10月3日
- ・「塗師さんの伝言「空気を描け」」『埼玉新聞』2016年10月3日
- ・「16日まで県立近代美術館 塗師さん遺作 20点を展示」『埼玉新聞』2016年10月5日
- ・「さきたま抄 : 塗師祥一郎追悼展」『埼玉新聞』2016年10月6日
- ・「「雪のあつたかさ感じた」 塗師祥一郎追悼展」『産経新聞』2016年10月6日
- ・「学校と私 美術評論家 建島哲さん」『間日新聞』2016年10月10日
- ・「親子で芸術の秋楽しんで(ファミリー鑑賞会)」『毎日新聞』2016年10月23日
- ・「『今日座れる椅子』」『InRed12月号』2016年11月7日
- ・「四季に合わせ選曲 音楽噴水」『埼玉新聞』2016年11月9日
- ・「自然・芸術・教育の環境の良さが際立つ常盤エリア」『まちぶら浦和物語』2016年12月1日
- ・「冬日豊かに」『さいたま朝日』2017年2月26日
- ・「我が県のお宝アート(遠藤利克「泉—9個からなる」)」『婦人画報 4月号』2017年3月1日
- ・「埼玉県立近代美術館」『美術展&美術館びあ 2017』2017年3月16日
- ・「アートと出会い、完成と想像力を育む場」『大人の日帰り旅 美術館&文学館』2017年3月17日
- ・「美術との出会いを大切にした美術館」『日帰り大人の小さな旅』2017年3月17日

### ■刊行物

平成 27 年度版年報、平成 28 年度版要覧、平成 28 年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロ、美術館概要パンフレットを刊行した。年報、要覧はホームページでも閲覧できる。

### ■広報紙ソカロ

広報紙ソカロ (A3 版 2 面・カラー印刷、2016 年 10-11 月号『ZOCALO & Deluxe』は A2 版 2 面・カラー印刷) を、2 か月毎 (年 6 回、各 13,000 部、2016 年 10-11 月号は 10,000 部) に編集・発行・配布した。また、年度末に号外号 (A2 版 2 面・カラー印刷) を編集・発行・配布した。

### ■ 2016 年 6-7 月号 (#78 5 月 31 日発行)

- ・台座が彫刻を演じる時 企画展「竹岡雄二 台座 から屈館へ」(平野到)
- ・さくねんのだまもの 平成 27 年度 新収蔵作品のご紹介 (渋谷拓)
- ・人それぞれの眼とともに 一般団体案内の現場から (菖蒲澤侑)
- ・MOMAS コレクションをプチ・リニューアル
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「夜長堂がまグッズ」(野溝円香)
- ・MUSEUM NEWS 6-7



### ■ 2016 年 8-9 月号 (#79 7 月 31 日発行)

- ・企画展「竹岡雄二 台座から空間へ」(建畠哲、竹岡雄二、遠山公一、梅津元、平野到、依田徹)
- ・身体が迫り出す場 NEW VISION SAITAMA 5 にむけて (大浦周)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「360° BOOK」(浜田幸代)
- ・MUSEUM NEWS 8-9



### ■ 2016 年 10-11 月号『ZOCALO & Deluxe』(#80 9 月 30 日発行)

- ・NEW VISION SAITAMA 5 【拡大版『ソカロ』開放計画】
- ・『ZOCALO & Deluxe』による【拡大版『ソカロ』開放計画】(梅津元)
- ・ピカソに聞く! (五味良子、平野到)
- ・原田直次郎展の4つの貌 (大越久子)
- ・北浦和で 大宮で 見沼で! この秋はアートを満喫! (中村誠)
- ・最近の買い物 (前山裕司)
- ・「今日どこ行く?」「びじゅつかん!」(笠原たまき)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「アートブローチ」(川上佳代)
- ・MUSEUM NEWS 10-11





■ 2016年12月-2017年1月号 (#81 11月30日発行)

- ・日本におけるキュビズム ピカソ・インパクト ピカソが聞く！ 尾崎信一郎×P. ピカソ (平野到)
- ・2000年以來16年ぶりの増殖！ 橋本真之《果実の中の木もれ陽》(渋谷拓)
- ・今、ポスターにできること (嶋原悠)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「アメージングカード」(宮前いずみ)
- ・MUSEUM NEWS 12-1



■ 2017年3月31日号外 (3月31日発行)

- ・【寄稿】《果実の中の木もれ陽》2016年覚書 橋本真之
- ・《果実の中の木もれ陽》の未来のすがたを夢想するために (渋谷拓)



■ 2017年4-5月号 (#83 3月31日発行)

- ・建島館長 開館35周年に語る—揺さぶる美術館へ (落合範崇)
- ・長崎の画匠、川原慶賀 企画展「ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜」(嶋原悠)
- ・しらせども しらせども (落合範崇)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「DEDEkit」(野溝円香)
- ・MUSEUM NEWS 4-5

■ 2017年2-3月号 (#82 1月31日発行)

- ・時代を鮮やかに切り取ったデザイナー 企画展「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」(吉岡知子)
- ・アーティスト・プロジェクト #2.01 齋藤春佳 (渋谷拓)
- ・特集：古川吉重 (大浦周)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「まわたマフラー」(外山晶子)
- ・MUSEUM NEWS 2-3



### ■広報紙ソカロのスピノフ

広報紙ソカロのスピノフとして、『MICALO』および『ZOCALONG』を編集・発行した。

### ■埼玉県立近代美術館ミニニュース『MICALO』

#### ■ 2016年4-5月 #01 (29×19cm)

- ・ソカロ #77 (2016年4-5月) 紙面に掲載
- ・引用の織物 (五味良子)

#### ■ 2016年11月 #02 (18.5×3.6cm)

- ・『美術手帖』2016年12月号, 199頁, 広告欄に掲載  
／デザイン: 大溝裕 (Glanz)
- ・「日本におけるキュビズム」告知

#### ■ 2016年12月 #03 (18.5×3.6cm)

- ・『美術手帖』2017年1月号, 159頁, 広告欄に掲載  
／デザイン: 大溝裕 (Glanz)
- ・「日本におけるキュビズム」告知

### ■埼玉県立近代美術館ロングタームニュース『ZOCALONG』

#### ■ 1982年11月-2017年3月 #01 (840mm×145mm: 蛇腹8つ折り)

- ・2017年度ミュージアム・カレンダー裏面に掲載 (付録)  
／デザイン: 川村格夫 (ten pieces)
- ・総力特集: 埼玉県立近代美術館 企画展一覧

### ■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で、必要な基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

### ■蔵書冊数一覧

#### ・一般書

	分類	平成27年度まで	平成28年度	計
購入	A 美術総記	2,434	8	2,442
	B 日本美術	2,626	20	2,646
	C 西洋美術	3,126	4	3,130
	D 東洋 その他の美術	183	3	186
	E 図録	863	7	870
	F 埼玉資料	240	1	241
	G 関係諸学	777	7	784
	小計	10,241	50	10,291
	受贈 (一般図書・他館図録)	30,591	998	31,589
	合計	40,841	1,048	41,880

#### ・美術雑誌 (バックナンバーを除く)

購入 22タイトル (うち洋雑誌4タイトル)

受贈 11タイトル

計 33タイトル

開室日数 308日

利用者数 2,839人

レファレンス受付件数 128

### ■椅子の美術館

約70種類所蔵している内外のグッド・デザインの椅子やアートな椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時20～30脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

### ■ハイビジョン・コーナー

1階エントランス・ホールの休憩コーナーでは、65インチの大画面により、19世紀以降の優れた美術作品等を、高精細な映像と音声で紹介した。また、随時、企画展、収蔵品、イス等の紹介映像を上映した。

## ■トピックス

### ■トピックス [1]

#### 第4回 座れる段ボールの椅子グランプリ

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、全国の小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に本事業を開催した。段ボールのみを素材に、大人が座ることができる椅子を3人以上のグループで制作して応募するコンクール形式で実施し、42校（県外4校）、71グループ、503人が参加した。

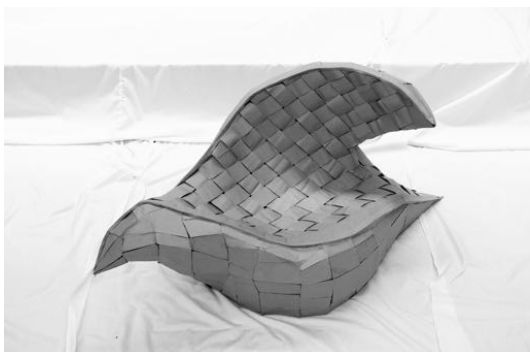
8月9日（火）当館講堂において建畠哲館長、埼玉大学教授・高須賀昌志氏、大越学芸主幹、梅津主任学芸員が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

#### ① 総合グランプリ

シヨパンツェッタ

《凱風》

（小川町立東中学校）



#### ② 総合準グランプリ

きたもとガールズ

《White Bear》

（埼玉県立北本高等学校）



#### ③ 高等学校グランプリ

所沢北高校美術部

《しっぽはふまないでください。》

（埼玉県立所沢北高等学校）

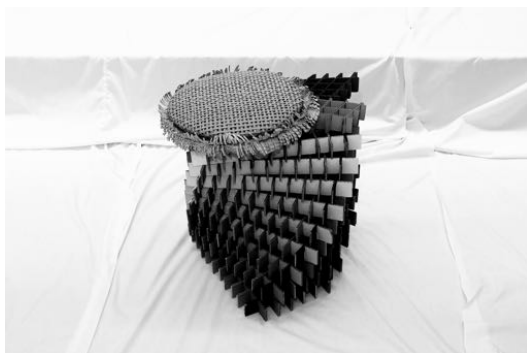


#### ④ 中学校グランプリ

富三5

《太陽の花》

（奈良県：奈良市立富雄第三中学校）



#### ⑤ 特別支援学校グランプリ

チームたかしな

《古びたキングチェア》

（埼玉県立川越特別支援学校川越たかしな分校）



- ⑥ 高等学校準グランプリ  
 気球  
 《えだまめちゃん》  
 (埼玉県立芸術総合高等学校)



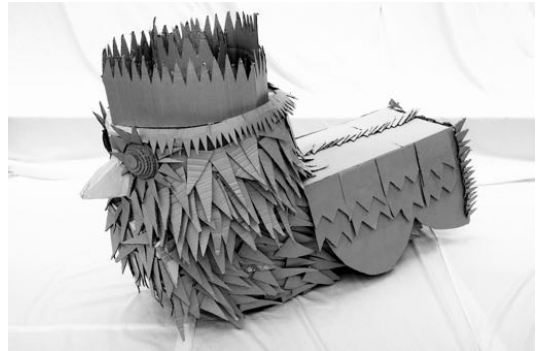
- ⑦ 中学校準グランプリ  
 奇行軍  
 《Wild chair》  
 (小川町立東中学校)



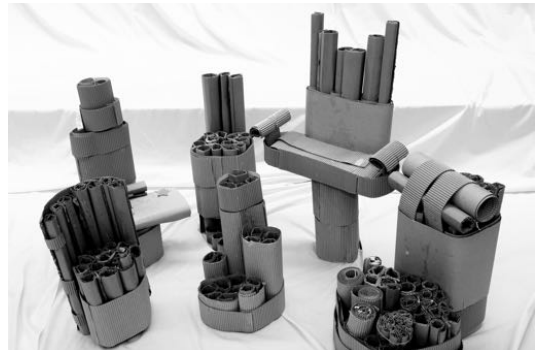
- ビーンズ共和国  
 《パズルチェア》  
 (三郷市立北中学校)



- ⑧ 特別支援学校準グランプリ  
 ペンギンありあチーム  
 《e- こうていペンギン》  
 (デイサポートありあ)



- ⑨ チームワーク賞  
 西中野6  
 《いすとりゲームの椅子》  
 (東京都：中野区立西中野小学校)



8月20日(土)～8月28日(日)の期間、受賞作品、  
 入選作品を館内に展示し、来館者に紹介するほか、8月  
 20日(土)に受賞式を行うとともに作者によるプレゼン  
 テーションを中心とした鑑賞会を行い、広くアピールした。



8月20日(土) サマー・アドベンチャー  
 “座れる段ボールの椅子大集合Ⅳ” 鑑賞会風景



---

## ■広報記録

<雑誌・ミニコミ誌等>

・『埼玉新聞』「小川東中に最高賞 県立近代美術館  
今日から段ボールの椅子公募展」8月20日

<テレビ>

・J:COM「第4回座れる段ボールの椅子グランプリ」(中継)  
2016年8月27日

## ■担当後記

今年で4回目の開催となった「座れる段ボールの椅子  
グランプリ」では、創意工夫あふれる作品が多数出品さ  
れた。段ボールの素材を生かした多様な作品は、素材  
や表現の可能性を広げるもので、その独創性に驚かされ  
た。本グランプリが美術教育の充実に寄与していること  
が伺える。

参加校の児童、生徒、教員からは、来年も是非、出  
品したいといった声や、子ども達の絆が深まる取り組み  
であるという評価があった。

次年度も広くアピールをし、学校連携を推し進めて取  
り組む予定である。 (矢花俊樹)

## ■トピックス [2]

### あなたと どこでも アート/おかわりプロジェクト

平成28年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

#### ■事業名：あなたと どこでも アート/おかわりプロジェクト

#### ■主催：あなたと どこでも アート実行委員会

#### ■事業期間：2016年4月1日～ 2017年3月31日

文化庁のモデル事業・補助事業として、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリーチ活動を展開する事業である。本事業も通算で8年目となった。引き続き、2013年に新体制で発足したSMF（Saitama Muse Forum）\*1会員が、この事業の企画運営を担う重要なエンジンとなっている。

事業名や枠組みは少しずつ変わってきたが、各回とも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム5館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得て実施してきた。

この事業は、各ミュージアム館内での展示やワークショップ、シンポジウムなどにとどまらず、館庭や公園、街路や商店街など、暮らしに身近な場所でさまざまなアートプログラムを展開し、ミュージアムと地域を結ぶ役割を果たしてきた。「あなたと どこでも アート 実行委員会」という名称もアウトリーチプログラムとしての本事業の性格を端的に示すものだ。

平成26年度の「小さな家プロジェクト」、平成27年度の「着がわりプロジェクト」に続き、平成28年度は「食」をメインテーマに、見沼たんぼにおける農から食を考える「TANBOプロジェクト」、入間市博物館での「五感で味わいつくす茶の世界」、その他、大宮駅周辺、北浦和駅周辺、また入間市博物館以外の連携ミュージアムでの活動など、県内各地で33のアートプログラムを実施した。

\*2(写真1)

また、平成27年3月、ネット上に誕生した「SMFアート長屋」に井戸端(だんわしつ)、掲示版(管理人からのお知らせ)、物置(保管庫兼パビリオン)を開設し、長屋の機能の拡充・展開を図った。物置＝蔵では、平成27年度に引き続き、プロジェクトアートの自由な提案などを募るインターネット上の展覧会「宝船展II on the net」を開催するとともに、そのリアル空間での展開版「宝船展II@MOMAS」を埼玉県立近代美術館で開催、昨年度アイデアとして提案された作品の実現にもつながった。\*3

これまでの事業を通じてたくさんの出会いと交流が生まれ、その周辺でさまざまな協働がはじまっている。そのひとつの成果として、一連の事業を通して結成され発展してきたSMFが、平成28年度に開催された「さいたまトリエンナーレ」にアーティストとして参加、これまでの出会いと活動を活かし、「SMF学校」と題し、市民会館おおみやを拠点に、パフォーマンス、映像、デザインなど広い分野で作品展示・対談・ワークショップ・街歩きなどを行った。

以上のように、ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働がSMFを母胎として生まれている。それらを機動的に繋ぎどのように組織化して、美術館と地域連携の新たなモデルを構築するかが今後の課題と言える。(菖蒲澤佑)

\*1 SMFの趣旨・これまでの活動等については、SMFホームページ <http://www.artplatform.jp> 参照。

\*2 H28年度事業の詳細は、記録集『おかわりプロジェクト』(A4判22P)参照、上記ホームページでも閲覧可能

\*3 「SMFアート長屋」「宝船展」については、アート長屋ホームページ <http://www.artnagaya.jp> 参照

## ■事業実施状況

### (1) おかわりプロジェクトM

「食」をテーマに各ミュージアムを中心に展開される多彩なプログラム。

#### [埼玉県立近代美術館]

- ① 8月13日(土)「キラキラ★カチカチスプーンワールド」(171名)(写真2)
- ② 8月27日(土)「変身!野菜の大冒険」(親子9組20名)
- ③ 9月24日・25日(土・日) SMF学校開校記念ワークショップ「洗濯バサミで絵を描こう」「お顔をトレース★肖像画」※山丸公園、市民会館おおみやで開催(2日間計洗濯バサミ394名/お顔をトレース79名)
- ④ 11月14日(月・県民の日) 野外ワークショップ「風を描こう!」(248名)

#### [入間市博物館 ALIT]

- ① 8月7日(日)・12月4日(日)・1月8日(日)「聴いて味わう 時空を超えるお茶の旅」(55名/66名/60名)
- ② 10月26日(水)～11月23日(水)「お茶の浮世絵特別公開」(3,538名)
- ③ 11月12日(土)「アートお茶の間談義」(30名)
- ④ 11月20日(日)「五感で味わうわび茶の空間」(37名)

⑤ 11月23日(水・祝)「てんからまつへ〜茶臼で挽くお茶のテンマツをたのしむ」(41名)

[川越市立美術館]

① 8月7日(日) 陶芸ワークショップ「ラマダシ・ファヌス(灯籠)を作ってみよう!」(40名)

② 8月20日(土)～26日(金)「エジプトの食と文化展」&講演・交流会 ※三番町ギャラリーで開催(展覧会来場者:80名、交流会参加者:約30名)

[川口市立アートギャラリー ATLIA]

9月14日(水)アートさんぽ まちの記憶をたどる ビール味噌 麦のみち(20名)

[うらわ美術館]

1月14日(土) 多世代交流ワークショップ「色と形のコックさん〜つくってあそぼうアートなトンネル〜」(計36組72名)

(2) おかわりプロジェクトO

中核となったアートプログラム。「食」をテーマにミュージアムを出て、公園や商店街、参道、たんぼなど、戸外を含めて自在に展開した。

① 9月24日(土)～11月27日(日)「北浦とおかわり芸術祭」埼玉県立近代美術館、北浦和公園ほか:北浦和のまちで、作品展示、パフォーマンス公演、ワークショップなど様々なアートプログラムを展開。スタンプラリーを行い、北浦和に住む人、通う人、通りがかる人が継続してイベントを楽しむことが出来るものとした。さいたまトリエンナーレの市民プロジェクトとしても開催。

9月24日(土)・10月29日(土)「きたうらワン・シスターズ&ブラザーズ参上!」埼玉県立近代美術館講堂・北浦和西口銀座商店街(計40名)

9月24日(土)「きたうらワンぬり絵コーナー」北浦和西口銀座商店街(50名)

10月16日(日)「MUCCAワークショップ」埼玉県立近代美術館講堂(42名)

10月29日(土)～11月27日(日)「花咲かアートさんプロジェクト まわれ千の風車」北浦和公園(23,852※会期中の美術館入館者数)

9月24日(土)・11月14日(月)「風車づくりワークショップ」北浦和西口銀座商店街・北浦和公園(計66名)

10月29日(土)「草上の昼餐」北浦和公園(200名)

11月12日(土)・13日(日)「おむすびコロリン、おなかの旅〜みんなで右脳をフル回転〜」北浦和公園、埼玉県立近代美術館(68名)

11月14日(月)「お顔をトレース★肖像画」埼玉県立

近代美術館(41名)

11月11日(金)～20日(日)「回遊美術館Ⅲ OKAERI OKAWARI KITAURAWA」北浦和駅、北浦和西口銀座商店街、イオン、北浦和公園、埼玉県立近代美術館(7,368名)(写真3)

11月12日(土) 回遊美術館関連ワークショップ、北浦和公園他(99名)

11月26日(土)・27日(日)「MOMAS空間音響ライブ vol.1.5with 電子音響ピープル」埼玉県立近代美術館110名)

② 9月24日(土)～12月11日(日)「OMIYAプロジェクトー都市の夢」市民会館おおみや、氷川参道ほか:

さいたまトリエンナーレ出品作として市民会館おおみやで展開した「SMF学校」と連携してアート活動の活性化を図るべく開催したプロジェクト。都市と田園が自然に隣り合う埼玉県の象徴のような街・大宮において、参道を中心に展示やワークショップ、パフォーマンスを展開した。8月18日(日)・25日(日)ワークショップ「空飛ぶトンちゃんマラカスづくり」埼玉県立近代美術館(計37名)

9月24日(土) 野外パレード「空飛ぶトンちゃん大行進!」市民会館おおみや(28名)

9月24日(土)～11月6日(日)「小野養豚ん 食堂展」市民会館おおみや(3,463名)

9月24日(土)～12月10日(日)「田中清隆 アート散歩:光のかたちを探して」JR大宮駅周辺(2,068名)

11月19日(土)～27日(日)「井上唯 旅するキノコ in 氷川参道」平成広場

11月3日(木)「松本秋則ワークショップ」市民会館おおみや(12名)

③ 9月～11月「TANBOプロジェクトー田園の夢」さぎ山記念館、加田屋たんぼ、新加田屋たんぼ:見沼田んぼで貴重な稲作体験提供や伝説の巨大積みわら「フナノ」の復興・伝承を手がけてきた「見沼ファーム21」や「ファーム・イン・さぎ山」との共催により、学習会やさまざまなアートプログラムを展開した。

10月29日(土)フナノ学校第1回「食」の学習会・試食会「見沼地域の郷土食を知り、食べてみよう」さぎ山記念館(30名)

11月5日(土) フナノ学校第2回「藁」の学習会「藁はお米の親だもの～藁の話～」さぎ山記念館(30名)  
11月6日(日) フナノ学校第3回「環境カフェ」「生物の多様性レイチェル・カーソンから始まる環境意識」さぎ山記念館(12名)  
11月12日(土)・13日(日)「“農はアートだ!” 現場展」加田屋たんぼ、新加田屋たんぼ(計110名)

### (3) SMF アート長屋の整備・強化

平成27年3月にネット上に誕生したSMFアート長屋を整備拡張し、サイバーとリアルを往還しながら、機能するアートプラットフォームの形成をめざした。

- ① 6月～9月 SMFアート長屋の整備・拡充
- ② 12月23日(金)～「宝船展Ⅱ on the net」SMFアート長屋 物置＝蔵
- ③ 1月15日(日) アート寺子屋—アートプラットフォーム形成のためのメタデザインⅣ「アートすることの意味？」埼玉県立近代美術館(42名)
- ④ 1月11日(水)～15日(日)「宝船展Ⅱ@ MOMAS」埼玉県立近代美術館(5日間計529名)(写真4)

## ■ 広報・報道記事

### □ 新聞・雑誌等

- ・「あなたも埼玉で音楽家になれる!? ワークショップで 現代音楽を作ってみよう!」そうだ埼玉.com 2016年7月15日
- ・「10/16、iPadで描いた絵が音を立てて動き出す 埼玉県立近代美術館 MUGCA」サンケイリビング新聞社『リビングさいたま』2016年8月27日号
- ・「集まれ アートに興味ある人くとくいわざ」30受講できるSMF学校開校! 毎日新聞 2016年9月15日
- ・「わら塚フナノ知って さいたま見沼たんぼ 土器ダクトを製作」埼玉新聞 2016年9月18日
- ・「大宮駅前に謎の看板を持った集団が登場! 彼らは一体何者なのか?」そうだ埼玉.com 2016年9月28日
- ・「〈市民会館おおみや〉に巨大エアドームが! 大宮駅の徒歩圏内でさいたまトリエンナーレを楽しもう」そうださいたま.com 2016年9月29日
- ・「北浦和で 大宮で 見沼で! この秋はアートを満喫!」埼玉県立近代美術館ニュース『ソカロ』2016年10・11月号
- ・「スタンプラリーもあるよ! 北浦和おかわり芸術祭」サンケイリビング新聞社『あんふあん』2016年11月号
- ・「リアルな豚で食と命考える 養豚農家出身の芸術家 小野さん立体作品展」埼玉新聞 2016年10月25日

- ・「食の踊りは不思議味 北浦和公園で〈草上の昼餐〉」埼玉新聞 2016年10月29日
- ・「農作業通じ発想 田んぼでアート きょうまで見沼」朝日新聞 2016年11月12日
- ・「稲作文化 後世に 見沼田んぼ わら塚〈フナノ〉復元」埼玉新聞 2016年11月15日
- ・「“空飛ぶブタ”に笑顔 北浦和周辺で回遊美術館」埼玉新聞 2016年11月19日
- ・「身近なアート感じて SMF 学校理事長 三浦清史さん」埼玉新聞 2016年11月21日
- ・「週末の北浦和公園がポケモンGO並に賑わっている理由」そうだ埼玉.com 2016年11月25日
- ・「見沼田んぼ 伝統のわら塚 地元住民の手で〈フナノ〉復元」東京新聞 2016年12月6日
- ・「燻炭作りの様子をアートとして展示」読売新聞 2017年1月15日
- ・「孫の発想に笑顔 浦和区 三世代でアート楽しむ」埼玉新聞 2017年1月19日

### □ 放送・放映

- ・ジェイコムさいたま 2015年12月26日～31日(期間中に計9回放送)「あなたと どこでも アート おかわりプロジェクト」(総集編・25分番組)
- SMF PRESS(本事業ニュース紙)
  - ・26号(2016年7月)「おかわりプロジェクト概要」/「プロジェクトMの〈中の人〉になったことと、そのテンマツ」(津久井浩一) /「ラマダン・ファヌースを作ってみよう! エジプトの食と文化展&講演・交流会」(草野律子) /「電子音響ピープルプロジェクト」(柴山拓郎) /「連携美術館情報(小野寺茜)」
  - ・27号(2016年9月)「さいたまトリエンナーレでSMFは学校をつくります! みんなのとくいわざ大集合!」(浅見俊哉) /「草上の昼餐」(藤井香) /「芸術の秋、食欲の秋 OMIYAプロジェクト/TANBOプロジェクト」(中村誠) /「〈花咲かアートさん〉プロジェクト。一緒に枯れ木に花を咲かせましょう!」(中村誠) /「連携美術館情報(小野寺茜)」
  - ・28号(2017年1月)「SMF学校修了式が賑やかに行われました!!」(浅見俊哉) /「おむすびコロリン、おなかの旅」(藤井香) /「回遊美術館Ⅲ」(中村誠) /「連携美術館情報(小野寺茜)」
  - ・29号(2017年3月)「1年を振り返って」(三浦清史) /「今年度の“おかわりプロジェクト”でSMFは10年目を迎えました。」 /「連携美術館情報(小野寺茜)」

## ■ 委員等名簿

### □ 実行委員会

委員長：建畠哲（埼玉県立近代美術館館長）

委員：青木穂（ジェイコムさいたま さいたま南局局長）、  
稲葉康久（うらわ美術館館長／委員代理：星野務 同館副館長）、  
芋川修（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課長）、  
岡部秀子（川越市立美術館館長）、佐藤定夫（東京電機大学工学部教授・情報システムデザイン学系長）、  
高橋幸次（日本大学芸術学部教授）、高橋弘行（NHK さいたま放送局放送部長）、  
西勝啓祐（入間市博物館 ALIT 館長）、橋本淳（NHK さいたま放送局放送部長）、  
平本一郎（テレビ埼玉代表取締役社長）、福田哲也（埼玉県県民生活部文化振興課長）、  
本田貴侶（埼玉大学教育学部名誉教授、学校法人峯徳学園理事）、  
三浦清史（Saitama Muse Forum 代表、建築家）、山下浩文（川口市立アートギャラリー ATLIA 館長）、  
米山士郎（埼玉新聞社編集局報道部副部長）

### □ 運営委員

青山恭之（建築家／うらわ建築塾代表）、石上城行（埼玉大学教育学部芸術講座〔美術分野〕准教授）、  
奥野由利（CAF.N 事務局／画家・造形教室主宰）、小野寺茜（川口市立アートギャラリー・アトリア美術専門スタッフ）、  
北原立木（ヒアシンスハウスの会代表／文芸誌『孤帆』主宰）、  
草野律子（建築家／アルテクルブ事務局）、柴山拓郎（作曲家／東京電機大学工学部准教授）、  
谷平絵美子（川越市立美術館主幹）、津久井浩一（入間市博物館 ALIT 学芸員・社会教育主事・学芸担当副主幹）、  
藤井香（埼玉県舞踊協会理事／彩のくに創作舞踊団）、  
矢花俊樹（埼玉県立近代美術館担当課長）、脇元重彰（うらわ美術館指導主事）、  
渡辺恭伸（須田刻太研究会理事）

### □ 協力委員

浅見俊哉（アーティスト／KAPL 代表）、大澤加寿彦（ミュージシャン／KAPL 会員）、  
菊澤伸悦（有限会社ファインズ代表）、木村昭司（デザイナー／デザイン工房きら代表）、  
小宮幸子（埼玉県立近代美術館フレンド広報委員）、高橋博夫（文芸誌『孤帆』、『梓』、『第3次同時代』同人）、  
滝口美紗紀（社員ライター）、長沢晋一（美術家／CAF.N 会員）、  
中村元（写真家）、中村隆（デザイナー／有限会社アームズ代表）、  
野本翔平（SEED 代表／パフォーマンスアーティスト／行田市議）、  
柳原敬（会社員／KAPL 会員）

### □ 事務局 埼玉県立近代美術館内

事務局長：高柳正行（埼玉県立近代美術館副館長）

事務局員：大越久子（同 学芸主幹）、斎藤晃（同 総務

担当主事）、菖蒲澤侑（同 非常勤職員）、田沼康雄（同 管理担当部長）、  
中村誠（同 主任専門員兼学芸員）、村上愛（同 総務担当課長）



写真1



写真2



写真3



写真4

## ■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス (fam.s = friends of art museum, saitama)

### ■会員数

485 件 (人) (平成 29 年 3 月 31 日現在)

内訳：一般会員 314 人、ペア会員 45 人、学生会員 8 人、家族会員 59 家族 (193 人)、賛助会員 (個人) 18 人、賛助会員 (法人) 16 団体、特別賛助会員 25 団体

### ■活動内容

#### 1. 企画委員会

##### ①ファミス日帰り見学会

「軽井沢美術館巡り」／7月8日(金)

見学地：セゾン現代美術館、軽井沢千住博美術館、軽井沢ニューアートミュージアム／参加者：35名(うち会員27名)

##### ②ファミス現地集合見学会

「川越でアートと大正ロマンの探訪会」／9月24日(土)

見学地：川越(山崎美術館、醸ん楽座、茶陶苑、他) 参加者：22名(全員会員)

##### ③ファミス2泊3日見学会

「島根&鳥取 アートと自然を巡る旅」

10月26日(水)～10月28日(金)

見学地：出雲大社、島根県立美術館、足立美術館、他

参加者：24名(うち会員22名)

##### ④ファミスコンサート

「小室等&こむろゆい&谷川賢作」

ミュージアムコンサート／2月18日(土)

開催場所：当館常設展示室

参加者：41名(ファミス会員限定)

#### 2. 広報委員会

##### ①『ファミス通信』第35号の発行(5月)

##### ②『ファミス通信』第36号の発行(11月)

#### 3. ミュージアム・ショップ委員会

##### ①サマーセールの開催／8月2日(火)～8月31日(水)

##### ②ショップレイアウトの変更

#### 4. 事務局

##### ①『平成27年度フレンド年報』の発行(7月)

##### ②会員募集キャンペーンの実施

### ■担当後記

◆今年度はファミスでは初めてとなる現地集合・現地解散スタイルの探訪会を行った。美術館見学会や会報誌の発行等により美術館活動に貢献することができた。

(事務局・市川芙実乃)

### ■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

平成 29 年 3 月 31 日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田 和子	秩父地域利用者	副会長
増野 武夫	県北地域利用者	顧問
丸山 晃	県西地域利用者 埼玉新聞社 相談役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア 代表	広報委員
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
石川 信子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員
大久保敏三	県西地域利用者 (株)丸広百貨店 代表取締役会長	
水野 晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員
金川 京子	県南地域利用者	広報委員長
遠藤 俊明	県東地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員長
依田 衣恵	県南地域利用者	企画委員
武島 裕	秩父地域利用者 (公社)全国競輪施行者協議会理事長	
矢嶋 行雄	県外利用者 (株)テレビ埼玉 顧問	
小口 良三	県南地域利用者	監事
田沼 利将	県南地域利用者 (財)長島記念財団常務理事	監事

## ■ 貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。平成28年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

### 一般展示室

- ・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。連続の場合は最長3週間。
- ・使用料（1週間につき）：  
一般展示室 1—234,360円、2—90,720円、  
3—52,920円、4—30,240円

### 講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間あたり2,160円

## ■ 一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H28年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観 覧 者 数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	第12回群炎埼玉支部展	4月5日	4月10日	6	2	絵画、彫刻、工芸、写真、創作人形ほか	64	761	126
2	第33回自然写真の会“彩”写真展	4月5日	4月10日	6	3	写真	27	684	114
3	第6回原澤比佐子と仲間達	4月5日	4月10日	6	4	パッチワークキルト	155	1,066	177
4	第32回さいたま蘭秀100選展	4月12日	4月17日	6	1	書	82	1,015	169
5	浦和写真クラブ作品展 自然と風土	4月12日	4月17日	6	2	写真	98	1,214	202
6	第8回五彩展	4月12日	4月17日	6	3	水彩、油彩	42	752	125
7	第23回溪水会展	4月12日	4月17日	6	4	日本画、水彩、油彩、水墨画、書ほか	66	635	105
8	市村緑郎 遺作展	4月19日	4月24日	6	1	彫刻、レリーフ、デッサン	108	1,101	183
9	第10回フォト・トルトゥーガ写真展	4月19日	4月24日	6	2	写真	65	1,049	174
10	渡会不二男 厚生労働省、卓越した技能者（現代の名工）記念展	4月19日	4月24日	6	3	和紙ファイバーアート	18	1,327	221
11	彩美会展	4月19日	4月24日	6	4	日本画、水彩、油彩、工芸	52	697	116
12	コウダマサル展 屏風 series 一変革の痕跡一	4月26日	5月1日	6	2,3	水彩、アクリル	45	658	109
13	創立40周年記念 女流工芸展	4月28日	5月1日	4	1,4	工芸	210	2,814	703
14	第20回埼玉二科展	5月3日	5月8日	6	1～4	絵画、彫刻、デザイン	160	1,550	258
15	第66回埼玉県美術展覧会（県展）	5月31日	6月22日	23	1～4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	2,055	26,606	1,156
16	第35回埼玉県高等学校写真連盟写真展	6月29日	7月3日	5	1	写真	1,077	1,131	226
17	第7回埼玉植物画の会 作品展	6月29日	7月3日	5	2	水彩	109	1,157	231
18	大槻綾子 染色画展	6月29日	7月3日	5	3	工芸、書	30	466	93
19	18th BANSEI EXHIBITION	6月29日	7月3日	5	4	インスタレーション	66	477	95
20	第54回 公募 新構造埼玉展	7月5日	7月10日	6	1	絵画、彫刻、工芸、写真	118	946	157
21	第23回基の会展	7月5日	7月10日	6	2	油彩、アクリル	21	805	134
22	第29回白の会洋画展	7月5日	7月10日	6	3	油彩	26	858	143
23	永山佐和子 水彩画展	7月5日	7月10日	6	4	水彩	40	917	152
24	第43回埼玉二紀展	7月12日	7月17日	6	1～4	油彩、彫刻	107	1,202	200
25	第21回埼玉県書道芸術展	7月19日	7月24日	6	1	書	98	462	77
26	第25回二科会写真部 埼玉支部展	7月19日	7月24日	6	2	写真	141	835	139
27	第52回埼玉写真壇展	7月19日	7月24日	6	3,4	写真	453	2,276	379
28	第15回埼玉独立展	7月26日	7月31日	6	1	油彩、水彩、ミクストメディア	70	1,148	191
29	親子三代展	7月26日	7月31日	6	2	写真、創作折り紙ほか	112	981	163
30	阿佐見昭彦写真展 “イタリア 中世の記憶。”	7月26日	7月31日	6	3	写真	37	1,018	169
31	第6回椽の会展	7月26日	7月31日	6	4	日本画、アクリル、油彩、水彩、ほか	38	851	141
32	第12回水彩連盟埼玉西支部展	8月2日	8月7日	6	1	水彩	63	1,195	199
33	第26回旺玄会埼玉支部作品展	8月2日	8月7日	6	3,4	水彩、油彩、日本画、アクリル、版画	85	1,178	196
34	第50回記念 埼玉平和美術展	8月9日	8月14日	6	1～4	絵画、彫刻、工芸、写真、書、ほか	315	2,058	343
35	樋口広一郎展 2012-2016	8月16日	8月21日	6	4	水彩	42	857	142
36	第30回記念 墨芳展	8月17日	8月21日	5	1～3	書	148	971	194
37	第30回（公募）埼玉創元展	8月23日	8月28日	6	1	水彩、油彩、日本画、版画、アクリル	100	1,359	226
38	第9回彩幸会 水彩・パステル画展	8月23日	8月28日	6	2	水彩、パステル	59	848	141
39	第30回フォトグループ ウェーブ展	8月23日	8月28日	6	3	写真	80	886	147
40	ボスケット・第18回「保倉勝美の世界展」	8月23日	8月28日	6	4	ボスケット	110	900	150
41	第50回埼玉三軌展	8月30日	9月4日	6	1	水彩、油彩、日本画	35	777	129

No.	展覧会名	開催期間 H28年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
42	第32回アート現宇展	8月30日	9月4日	6	2	油彩、アクリル、コラーージュ	36	577	96
43	第4回私の自然展	8月30日	9月4日	6	3	写真	55	631	105
44	ヨシズミ トシオ展 ありあるクリエイションズ企画	8月30日	9月11日	12	4	油彩、水墨画、版画、ドローイング	36	1,207	100
45	第33回埼玉県写真サロン	9月6日	9月11日	6	1	写真	533	1,411	235
46	第25回回芸新樹会公募展	9月6日	9月11日	6	2	工芸	47	677	112
47	第8回フォトサークル・オプト写真展	9月6日	9月11日	6	3	写真	124	987	164
48	第60回記念埼玉書道展(埼玉県芸術文化祭2016地域文化事業)	9月15日	9月18日	4	1~4	書	759	1,761	440
49	第49回第一美術協会埼玉支部展	9月20日	9月25日	6	1	絵画、彫塑、工芸	154	1,300	216
50	第37回太平洋埼玉展	9月20日	9月25日	6	2,3	水彩、油彩、版画	84	1,020	170
51	第7回「自写自賛」写真展(小中四平個展)	9月20日	9月25日	6	4	写真	60	591	98
52	第20回西遊会美術展	9月27日	10月2日	6	1	水彩、油彩、版画、ドローイング	73	726	121
53	悠友会、風の会、合同展	9月27日	10月2日	6	2~4	水彩、油彩、日本画	92	832	138
54	40周年記念・四季との語らい 山崎義孝油絵展	10月4日	10月9日	6	2	油彩	63	605	100
55	M・A・S(協賛埼玉モダンアート)	10月4日	10月9日	6	3	油彩、版画、彫刻、ミクストメディア	25	683	113
56	全日写連浦和支部写真展	10月4日	10月9日	6	4	写真	44	665	110
57	第26回全国平成水墨画展	10月5日	10月9日	5	1	水墨画	96	622	124
58	さいたまリエンナーレ2016市民プロジェクト さいたま市の美術館展	10月11日	10月23日	12	1,4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	100	4,891	407
59	第16回美術協会純展・埼玉支部展	10月11日	10月16日	6	2	水彩、油彩、日本画、ペン画(ほか)	41	963	160
60	矢島 俊一 油絵展	10月18日	10月23日	6	2	油彩、ドローイング	40	1,532	255
61	第11回飛鳥日本刺繍作品展	10月18日	10月23日	6	3	工芸	72	868	144
62	第59回埼玉県高校美術展	10月26日	10月30日	5	1~4	絵画、版画、彫刻、工芸ほか	930	2,806	561
63	第25回全日中展(日中書画芸術大展)	11月1日	11月6日	6	1~3	水墨画、水彩、日本画、書	300	2,000	333
64	井上美千代 陶芸作品展	11月1日	11月6日	6	4	工芸	143	884	147
65	2016 CAFネビュラ展	11月9日	11月20日	12	1~4	絵画、彫刻、版画、彫刻、工芸ほか	104	2,374	197
66	第55回埼玉県高等学校書道展覧会	11月22日	11月27日	6	1~4	書	727	1,603	267
67	第7回東原書展	11月29日	12月4日	6	1	書	159	882	147
68	叙熱記念 本橋清流書展	11月29日	12月4日	6	3,4	書	78	1,178	196
69	古布に恋して 江村真佐子 バッチワークキルト展	12月6日	12月11日	6	4	バッチワークキルト	24	493	82
70	障害者アート企画展「UFU♥SAITAMA ±0」展	12月7日	12月11日	5	1	全分野	500	1,313	262
71	佳羊会展	12月8日	12月11日	4	3	油彩	41	332	83
72	第五十回記念全日本書道芸術展	12月13日	12月18日	6	1,2	書	244	430	71
73	敏龍写真展「山水」/第6回敏龍ワークショップ「それぞれの瞬」	12月13日	12月18日	6	3	写真	77	336	56
74	ほうりきみわ写真展 「ときめいた瞬間」	12月13日	12月18日	6	4	写真	56	465	77
75	『tan tan tan の宝物』	1月10日	1月15日	6	4	パステル、点描曼荼羅	66	450	75
76	宝船展II@ MOMAS	1月11日	1月15日	5	1	絵画、映像、彫刻、写真ほか	27	529	105
77	Masa 稲葉幻想展	1月17日	1月22日	6	3	写真	33	663	110
78	ヨシズミ トシオ展	1月17日	1月29日	12	4	油彩、ドローイング、版画、水墨画ほか	34	1,268	105
79	文教大学教育学部美術専修 卒業制作展	1月24日	1月29日	6	1	油彩、日本画、彫刻、切り絵	32	659	109
80	個展 大久保和繪	1月24日	1月29日	6	3	水墨画	25	418	69
81	平成28年度埼玉県立美術系高等学校作品展・卒業制作展	2月1日	2月5日	5	1~4	絵画、版画、彫刻、工芸、写真ほか	1,200	1,997	399
82	第40回埼玉国展	2月7日	2月12日	6	1	油彩、写真	68	760	126
83	第21回大潮会埼玉支部展	2月7日	2月12日	6	2,3	水彩、油彩、パステル	65	1,015	169
84	第16回埼玉県弘済会会員文化創作展	2月7日	2月12日	6	4	絵画、版画、彫刻、工芸、写真ほか	126	1,143	190
85	第38回野美展	2月14日	2月19日	6	2	絵画、彫刻、工芸、切り絵	78	664	110
86	西尾路子展	2月14日	2月19日	6	4	現代美術、インスタレーション	28	753	125
87	第57回埼玉県小・中学校児童生徒美術展 第9回中央展覧会	2月18日	2月19日	2	1	水彩、版画、彫刻、工芸	200	1,487	743
88	埼玉大学教育学部美術専修卒業制作展 彩展2017	2月21日	2月26日	6	1,2	水彩、油彩、ドローイング、彫刻ほか	78	1,324	220
89	埼玉大学院修了制作展	2月21日	2月26日	6	3	絵画、版画、彫刻、写真	12	650	108
90	第13回埼玉県ネーチャーフォト支部写真展	2月21日	2月26日	6	4	写真	89	845	140
91	第42回埼玉書道30人展	2月28日	3月5日	6	1	書	41	2,158	359
92	埼玉現展	2月28日	3月5日	6	3,4	日本画、彫刻、書、CG	69	1,227	204
93	日本工業大学工学部4研究室合同卒業制作展	3月3日	3月5日	3	2	ソフトウェアアート、工業・情報デザインほか	30	306	102
94	キルトリーダーズ埼玉バッチワークキルト作品展2017	3月7日	3月12日	6	1	バッチワークキルト	110	1,675	279
95	第4回箸の会油彩画展	3月7日	3月12日	6	3	油彩	72	723	120
96	風間光子バッチワークキルト展	3月7日	3月12日	6	4	バッチワークキルト	26	1,166	194
97	さきたま書展	3月14日	3月19日	6	4	書	66	260	43
98	彩の国さいたまきりえ展	3月21日	3月26日	6	2	きりえ	100	1,210	201
99	第4回ローニア絵画展	3月21日	3月26日	6	3	水彩、油彩、アクリル画、パステル画	34	587	97
100	彩の国写真真倶楽部・第13回展	3月21日	3月26日	6	4	写真	44	818	136
101	第29回溪山会書作展<併催>新宮谿山書展	3月22日	3月26日	5	1	書	126	760	152
102	第45回主体美術武蔵野作家展	3月28日	4月2日	6	1	水彩、油彩、ドローイング	50	710	118
103	大槻二人展	3月28日	4月2日	6	3	日本画、油彩、工芸、クレパス	50	300	50
104	a ri A Ru Creationz	3月28日	4月2日	6	4	絵画、版画、写真、パフォーマンス	120	402	67



## ■入館状況

### ■平成 28 年度入館者数一覧

平成 28 年 3 月 31 日現在

	入館者数	展 示 事 業						
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					企画展計
			ジャック＝アンリ・ ラルティエグ 幸せの瞬間をつか まえて	竹岡雄二 空間から台座へ	NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体	日本におけるキュ ビズムーピカソ・ インパクト	カッサンドル・ ボスター展 グラフィズムの 革命	
開催期間	4/1(金) ～ 3/31(日)	4/1(金) ～ 3/31(日)	4/5(土) ～ 5/22(日)	7/9(土) ～ 9/4(日)	9/17(土) ～ 11/14 (月・県民の日)	11/23(木・祝) ～ 1/29(日)	2/11(土・祝) ～ 3/26(日)	
(日) 日数	308	240	43	51	53	53	39	239
(人) 観覧者数 利用者数	230,603	39560	7,244	6,678	5,814	9,443	6280	35,459
(人) 1日当た り平均	790	164	168	131	110	178	161	148
有 料	一般個人	17,761	4,547	1,489	1,966	4,538	3,602	16,142
	一般団体	1,943	187	556	80	443	140	1,406
	大高個人	1,750	384	146	229	357	329	1,445
	大高団体	73	56	59	1	42	2	160
	(人) 合計	21,527	5,174	2,250	2,276	5,380	4,073	19,153
(人) 無料	-	18,033	2,070	4,428	3,538	4,063	2,207	16,306

	普 及 事 業					貸館事業	
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMFアート 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県美術展覧 会
開催期間	5/16(土) ほか	4/24(日) ほか	4/9(土) ほか	4/1(金) ～ 3/31(木)	4/1(金) ～ 3/31(木)	4/1(金) ～ 3/31(木)	5/31(火) ～ 6/22(水)
(日) 日数	29	15	61	-	308	247	23
(人) 観覧者数 利用者数	5,153	380	3,221	42,849	2,839	106,454	26,606
(人) 1日当た り平均	178	25	53	-	9	431	1,157
有 料	一般個人	-	-	-	-	-	-
	一般団体	-	-	-	-	-	-
	大高個人	-	-	-	-	-	-
	大高団体	-	-	-	-	-	-
	(人) 合計	-	-	-	-	-	-
(人) 無料	-	-	-	-	-	-	-

月別入館者数													
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	18,874	22,899	29,228	19,952	22,139	17,462	25,399	20,138	12,904	14,966	16,907	22,644	243,512

## ■名簿

### ■埼玉県立近代美術館協議会委員

平成 29 年 3 月 31 日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	岸田 昌久	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 行田市教育委員会委員
	関根 隆之	埼玉県美術教育連盟連盟長 蓮田市立平野中学校長
社会教育関係者	塗師 祥一郎 (H28.9.21 逝去)	埼玉県美術家協会会長 洋画家
	布施 智範	(一財)地域創造プログラムディレクター
家庭教育関係者	志村 洋子	埼玉県家庭教育振興協議会理事 埼玉大学教育学部非常勤講師
学識経験者	井原 實	(株)与野フードセンター代表取締役社長
	岩瀬 千潮	タウン誌編集者 (一社)「アコレおおみや」編集室代表
	加藤 典子	加藤こどもの造形教室主宰
	栗岡 辰弥	NHKさいたま放送局副局長
	野口 真理	陶芸家 (一社)日本建築美術工芸協会総務・ 広報委員会会報編集部会部会長
	野中 味恵子	浦和区区民会議会長
	帆足 亜紀	横浜トリエンナーレ組織委員会 プロジェクトマネージャー

### ■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

平成 29 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
滝沢 恭司	町田市立国際版画美術館 学芸担当係長	27.5.1～29.4.30
酒井 忠康	世田谷美術館長	27.5.1～29.4.30
野地 耕一郎	泉屋博古館分館長 兼学芸課長	27.5.1～29.4.30
山梨 俊夫	国立国際美術館長	27.5.1～29.4.30
金子 賢治	茨城県陶芸美術館長	27.5.1～29.4.30

### ■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

平成 29 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京藝術大学教授	29.1.15～31.1.14
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	29.1.15～31.1.14
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	29.1.15～31.1.14
齋藤 研	洋画家 独立美術協会会員	29.1.15～31.1.14
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	29.1.15～31.1.14
林 喜一	写真家 全日本写真連盟理事	29.1.15～31.1.14
芋川 修	県教育局 生涯学習文化財課長	29.1.15～31.1.14

### ■埼玉県立近代美術館職員

平成 29 年 3 月 31 日現在

担当	職名	氏名	
総務・管理担当 総務担当	館長(非常勤)	建昌 哲	
	副館長	高柳 正行	
	担当部長	田沼 康雄	
	担当課長	村上 愛	
	主任	平岡 孝善	
	主事	斎藤 晃	
	管理担当	担当課長	仲宗根 克子
	主任	神部 哲也	
	主事	小久保 俊哉	
	主事	瀧川 晃平	
企画展・教育・広報、 常設展・収蔵品担当 企画展担当	主席学芸主幹	大越 久子	
	学芸主幹	平野 到	
	学芸員	吉岡 知子	
	学芸員	大浦 周	
	学芸員	五味 良子	
	教育・広報担当	主任学芸員	梅津 元
	担当課長	矢花 俊樹	
	担当課長	笠原 たまき	
	主任	落合 範崇	
	主任専門員兼学芸員	中村 誠	
常設展・収蔵品担当	嘱託(非常勤)	菖蒲澤 侑	
	主任学芸員	渋谷 拓	
	学芸員	鴨原 悠	
	専門員兼学芸員	前山 裕司	
	嘱託(非常勤)	佐藤 詩織	

埼玉県立近代美術館年報 [平成 28 年度]

発行：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話：048-824-0111(代)

平成 30 年 3 月 30 日